

ラーニング・ラボラトリー・システム

工事説明書

品番 WE-LL500Aシリーズ

工事の前に、この説明書と別冊の取扱説明書を合わせてよくお読みください。

もくじ

安全上のご注意	2
設置工事の前に	4
設置工事手順のフローチャート	7
機器配置図(例)	8
入出力機器仕様	9
システム構成図(例)	11
ケーブルについて	15
WE-LL500A シリーズシステム構成	18
電源(AC100 V)の配線	36
ブース用モニターテレビ電源配線について	38
LL 操作ユニットのマスター卓への取り付け	39
ボタンカバーの LL 操作ユニットへの取り付け	40
LL プロセッサの設置	41
LL 操作ユニットと LL プロセッサの接続	42
袖卓の組立とコーナー天板の取り付け	44
VTR、DVD の収納と接続	48
アナライザーパネルの取り付け (WE-LL510A のみ)	50
パソコン関連の接続	51
マスター部周辺機器の接続	52
マスターテープレコーダーの取り付けと接続	53
ブース卓の組み立て	55
ブーステープレコーダーの取り付けと接続	57
ブースユニットのアドレス設定	59
先生用モニターテレビの接続	61
ビデオプロジェクターの接続	62
ブース用モニターテレビの接続	63
ディップスイッチの設定	67
ショートピンの設定	68
エキスパート機能の設定	69
システムの自己診断	71
システムチェック	73
レッスンパターン設定シート	80

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は絵表示の一例です。)

 この絵表示は、気をつけていただく「注意喚起」内容です。

  この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

必ず販売店に依頼してください。

一人で持ち運ばない



けがの原因となります。

禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



感電の原因となります。

ぬれ手禁止

異物を入れない



水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

禁止

ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

電源コードを傷つけない



重いものをのせたり、はさんだりするとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。

禁止

修理は販売店にご連絡ください。

電源コードを熱器具に近づけない



コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。

禁止

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

修理や点検は販売店にご連絡ください。

異常があるときは、 すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災の原因となります。

ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

電源コードは、必ず プラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

抜くときは電源プラグを持って抜いてください。

モニター内部に触れない



内部に高電圧があり、感電の原因となります。

高圧注意

注意

踏み台や腰掛けにしない



けがの原因となります。

禁止

通風孔をふさがない



内部に熱がこもり火災の原因となります。

禁止

設置工事の前に

1. 納入システムを再度確認してください。
 2. システムコンポーネントに欠品はありませんか。
システム構成図に記載されているコンポーネントに欠品はありませんか？ コンポーネントが1品でも欠品するとシステムは完成しません。コンポーネントの付属品についてもそれぞれ明細書と照合してください。
 3. 座席表は作成されていますか。
 4. レッスンパターンの登録内容を事前に作成してください。
作成できない場合は、「システムの自己診断」(71ページ)を参照してください。
 5. 同一室内に調光器を設置しないでください。
 6. LL4 倍速テーブルコーダー(WE-LM51,WE-LB51)のシステム構成上のご注意
モニターテレビをブース側に設置およびマスター卓側に設置するシステムを構成する場合、次の項目に注意してください。
ブースケーブルは末尾“S”付きのシールドケーブルを使用してください。
従来のブースケーブルを使用すると4倍速録音時に、モニターテレビの妨害ノイズがテープに録音されることがあります。
モニターテレビをマスターコンソール側に設置する場合、次に示すようにモニターテレビとマスターテーブルコーダーの距離を離してください。
- | | |
|-----------|------------------------|
| WV-CM1430 | MTR から50 cm 以上離してください。 |
|-----------|------------------------|
- ブース卓(WE-L152A)はモニターテレビ(WV-CM1430)用になっています。
WE-L152A以外のブース卓を使用する場合は、モニターテレビとブーステーブルコーダーとの距離を20 cm以上離してください。
AC100 Vの電源線はテーブルコーダー、マスター卓の幹線系と、モニターテレビの幹線系を分けてください。
7. 現地調達ケーブルについて
BNC コネクタ、PIN コネクタ、同軸線、スピーカーケーブル、シールド線、電源用キャップタイヤコードなどは現地で準備してください。詳細は15,16ページ参照。
 8. 接地工事について
LLシステムへのノイズ対策のために、LLプロセッサ、電源ユニットは必ず接地工事をしてください。

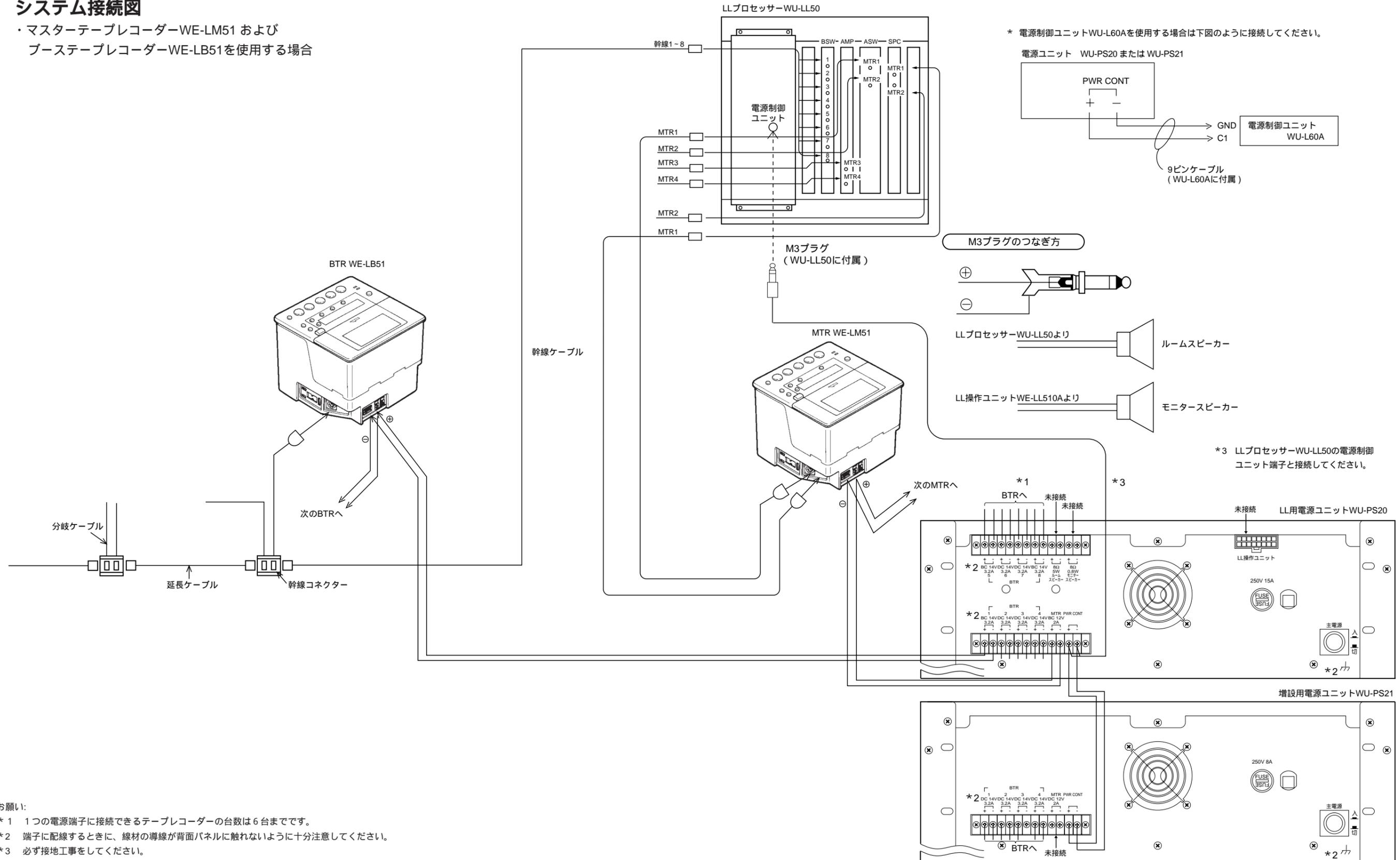
省略用語・言い換え語例

MTR	↔ マスターテーブルコーダー	SPC 基板	↔ スピードコントロール基板
BTR	↔ ブーステーブルコーダー	CRT ディスプレイ	↔ ブラウン管
VTR	↔ ビデオテーブルコーダー	プログラム	↔ 教材
DVD	↔ DVDプレーヤー	PROG	↔ プログラム
ASW 基板	↔ オーディオスイッチ基板	Key	↔ 操作ボタン
BSW 基板	↔ ブーススイッチ基板	画面	↔ パターン
AMP 基板	↔ 音声アンプ基板	NOVRAM	↔ 不揮発性 RAM
VSW 基板	↔ ビデオスイッチ基板		

設置工事の前に

システム接続図

・マスターテープレコーダーWE-LM51 および
ブーステープレコーダーWE-LB51を使用する場合



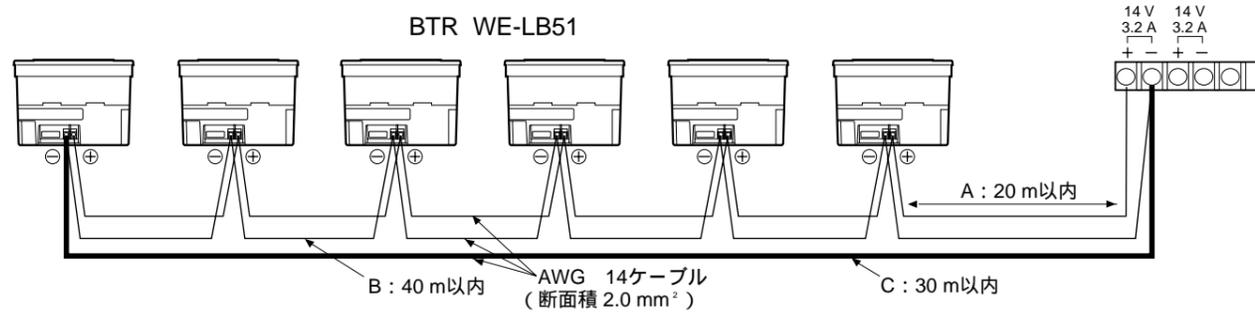
お願い:

- * 1 1つの電源端子に接続できるテープレコーダーの台数は6台までです。
- * 2 端子に配線するときに、線材の導線が背面パネルに触れないように十分注意してください。
- * 3 必ず接地工事をしてください。

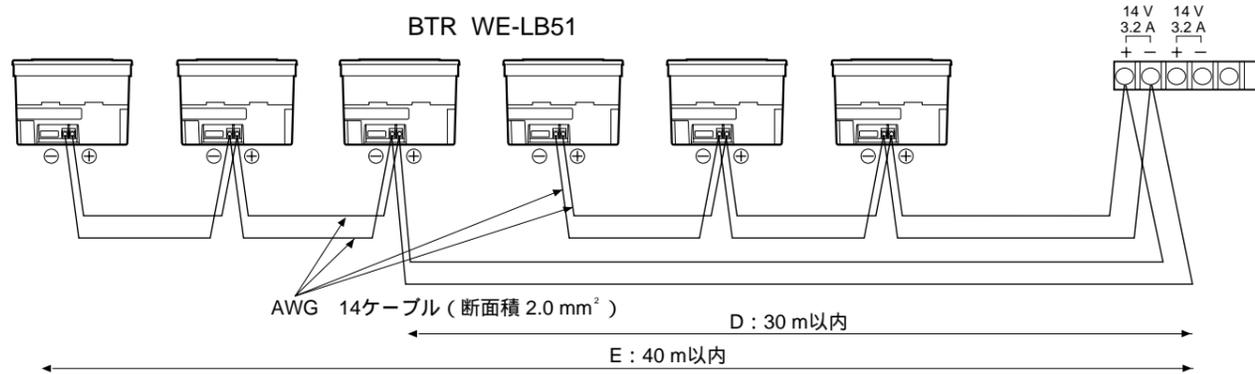
設置工事の前に

電源ケーブルの配線

① 6台直列に接続する場合



② 3台ずつ並列に接続する場合



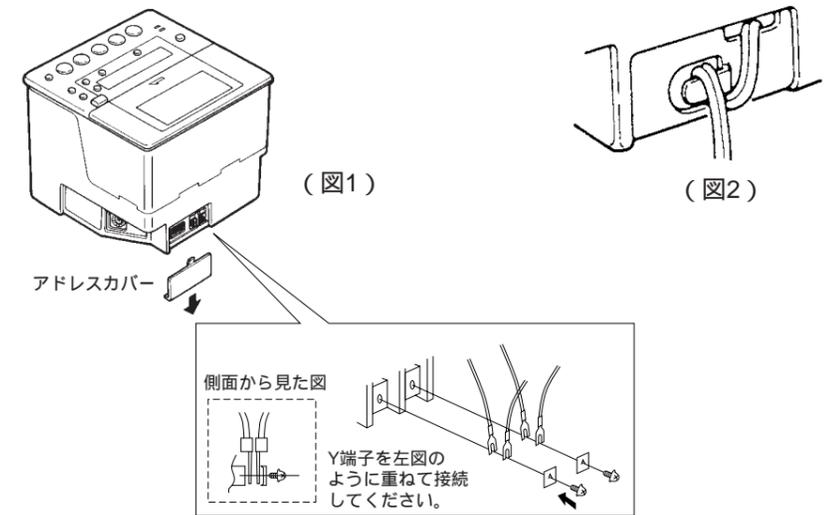
① または② の方法で配線してください。

	WU-PS20から1台目のWE-LB51までのケーブル長	WU-PS20から最後尾のWE-LB51までのケーブル長	GND戻しケーブル
① の配線	A : 20 m以内	B : 40 m以内	C : 30 m以内
② の配線	D : 30 m以内	E : 40 m以内	なし

太さ (断面図) と長さは、必ず指定したケーブルで配線してください。

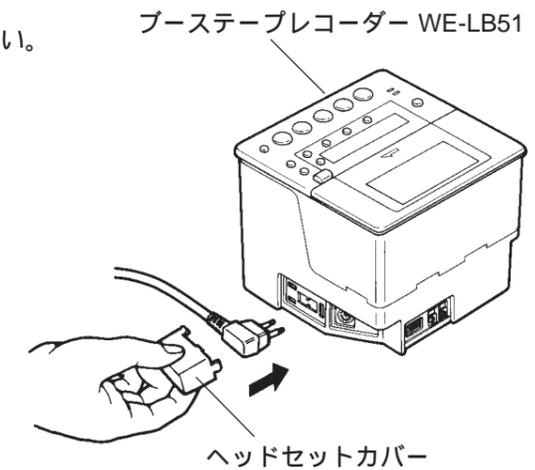
マスター/ブースターレコーダー (WE-LM51/WE-LB51) の電源配線のしかた

- ① アドレスカバーをはずします。(図1)
- ② 端子のねじ2ヶ所をはずします。(図1)
- ③ Y端子を取り付けたケーブルを接続します。(図1)
- ④ 図のように電源コードをクランプします。(図2)
アドレスの設定が終了したら、アドレスカバーを取り付けます。

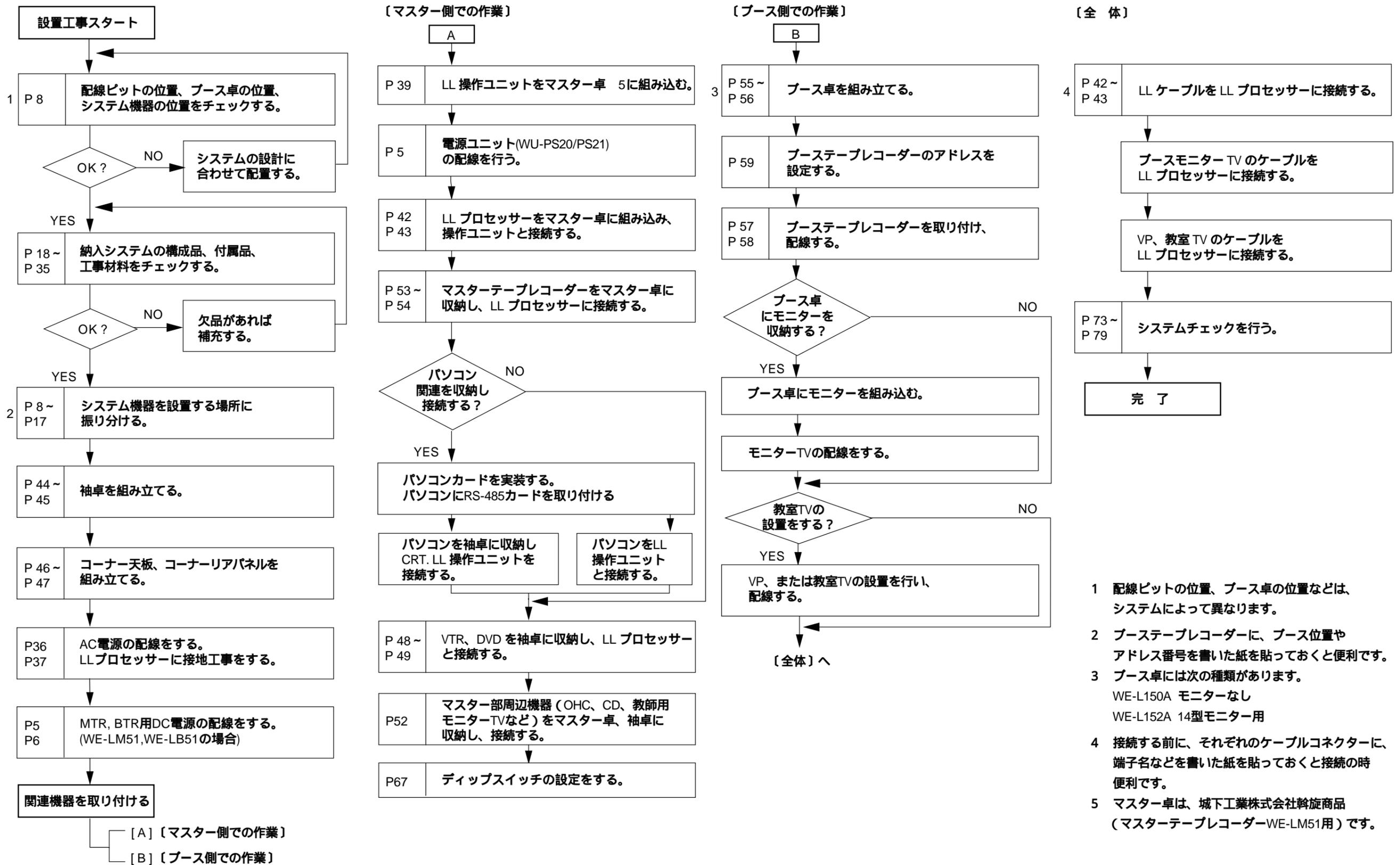


ヘッドセットカバーの取り付けのしかた

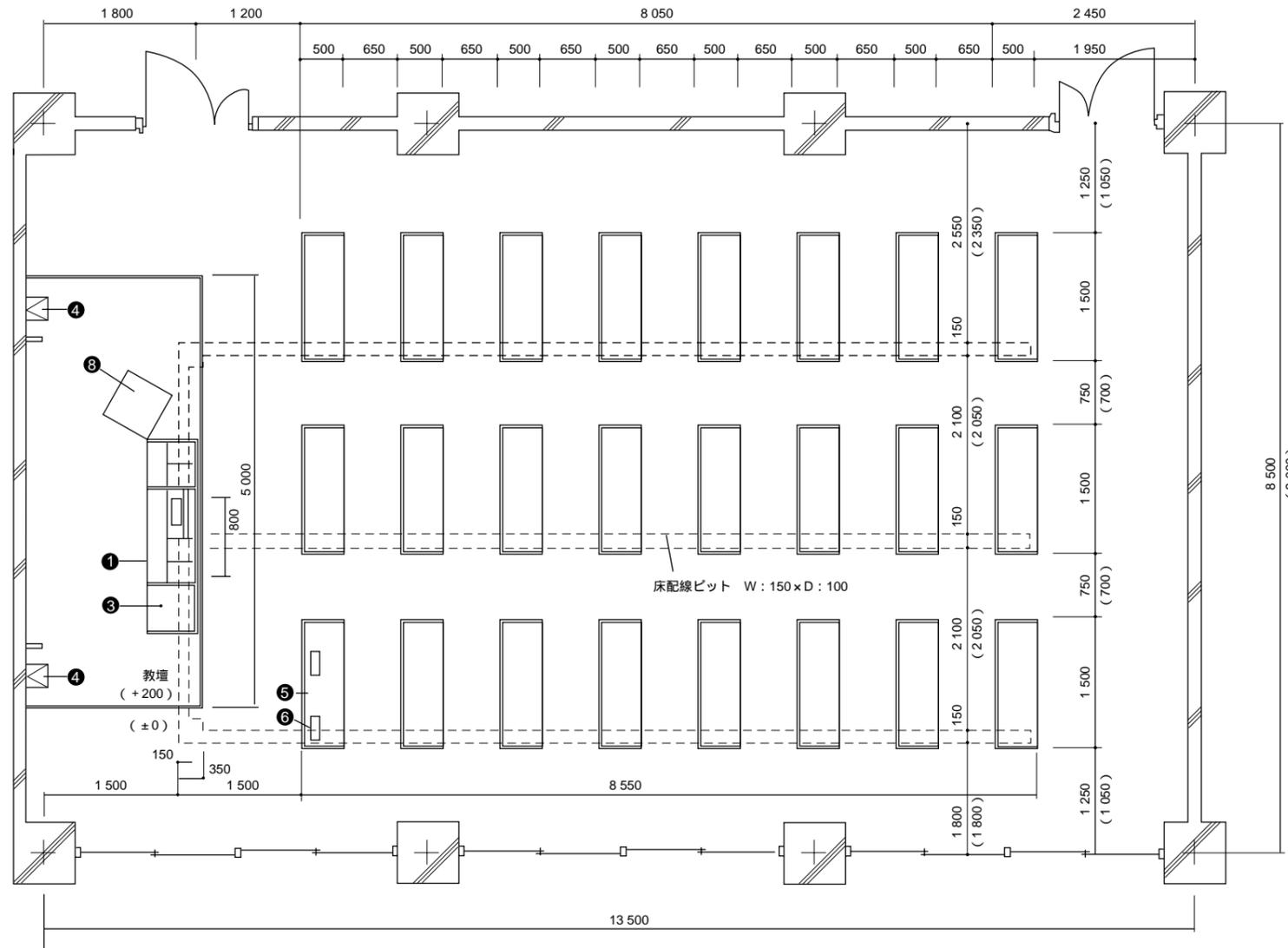
図のように取り付けてください。



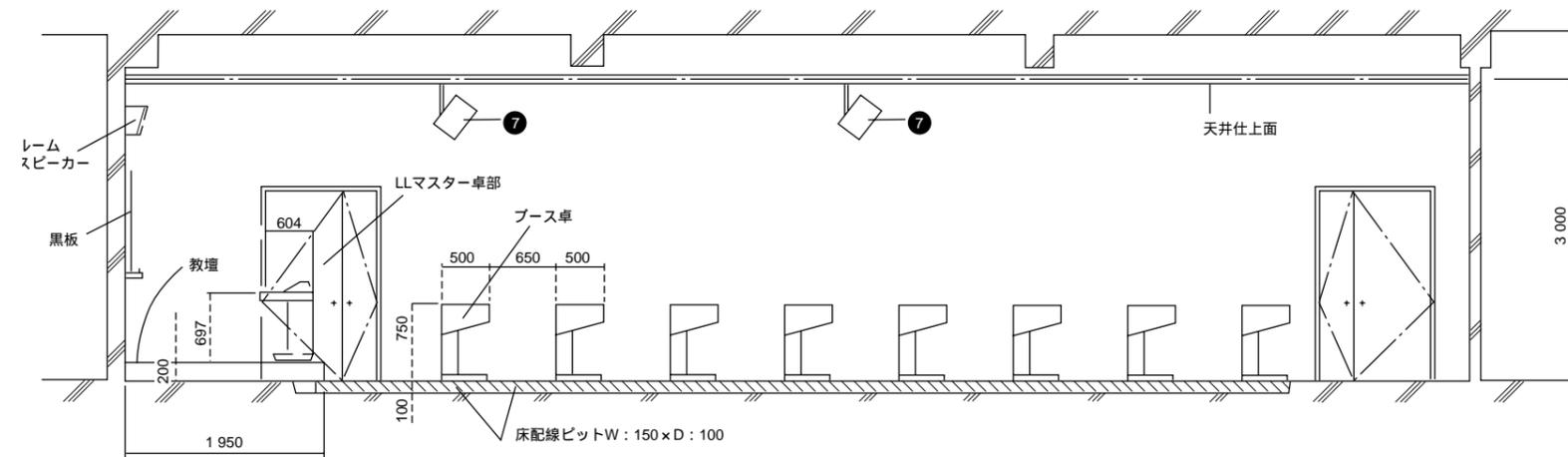
設置工事手順のフローチャート



機器配置図(例)



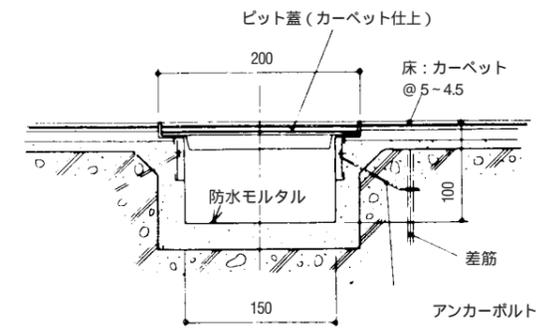
LL 教室正面図



LL 教室断面図

標準システム機器表

番号	名称	数量	内容
①	LL マスターコンソール	1 式	LL 操作ユニット WE-LL510A または WE-LL510A/80 LL プロセッサー WU-LL50 LL 表示ユニット WU-LL55A (WE-LL510A/80には標準装備) マスター卓 城下工業株式会社幹旋商品 (マスター テーブルコーダーWE-LM51使用) マスターテーブルコーダーWE-LM51 ヘッドセット WE-HS21
②	OHC	1 式	オーバーヘッドカメラ WE-MV180A 袖卓 WE-L190 パソコン 23ページ参照
③	VTR,DVD		VTR AG-7350 (RS-232C インターフェース別) DVD DVD-V730 (パイオニア (株) 製)
④	ルームスピーカー	2	壁掛型
⑤	2 人用ブース卓	24	WE-L150A,WE-L152A (WE-LB51用)
⑥	ブーステーブルコーダー	48	ブーステーブルコーダー WE-LB51 ヘッドセット WE-HS21
⑦	大型教室モニターテレビ	1 式	
⑧	その他	1 式	パワーアンプ 映像分配器



床配線ピット断面詳細図

入出力機器仕様

4 チャンネルのソースに対する基本的な教材ソースの考えかた

- CH1、CH2 はマスターテープレコーダーを割り当てます。これに対しては OHC、ビデオフロッピーなどのように音声のない映像信号をビデオ入力に割り当てます。
- CH3、CH4 は VTR や DVD の AV ソースを割り当てます。
LL 操作ユニットからの制御ができるのは以下の機種です。

VTR : AG-7350 (RS-232C ボードを組み込む)

DVD : DVD-V730 (パイオニア(株)製)

ご注意

上記以外の機種をお使いになるとリモコンが出来ません。

チャンネル別入力

		入力	接続	ステレオ	リモコン	レベル(dB)	コネクター	
CH 1	音声	MTR1	LL プロセッサ			-10	MTR-DIN	
		AUX1	LL プロセッサ		×	-10/-22	PIN	MTR1 にミキシング
	映像	V1	LL プロセッサ	-	-	1 V[p-p]	BNC	
CH 2	音声	MTR2	LL プロセッサ			-10	MTR-DIN	
		AUX2	LL プロセッサ		×	-10/-22	PIN	MTR2 にミキシング
	映像	V2	LL プロセッサ	-	-	1 V[p-p]	BNC	
CH 3	音声	AV1	LL プロセッサ			-8/-14	PIN	
		AUX3	LL プロセッサ		×	-10/-22	PIN	AV1 にミキシング
		MTR3	LL プロセッサ	×	×	-10	MTR-DIN	ノーマルレッスン時、ミキシング
	映像	AV1	LL プロセッサ	-		1 V[p-p]	BNC	
CH 4	音声	AV2	LL プロセッサ			-8/-14	PIN	
		AUX4	LL プロセッサ		×	-10/-22	PIN	AV2 にミキシング
		MTR4	LL プロセッサ	×	×	-10	MTR-DIN	ノーマルレッスン時、ミキシング
	映像	AV2	LL プロセッサ	-		1 V[p-p]	BNC	

録音、録画出力

		出力	接続	レベル(dB)	コネクター	
録音出力 1	音声	MTR1	LL プロセッサ	-22	MTR-DIN	
録音出力 2	音声	MTR2	LL プロセッサ	-22	MTR-DIN	
録音録画出力 1	音声	AV1REC	LL プロセッサ	-8	PIN	
	映像	AV1REC	LL プロセッサ	1 V[p-p]	BNC	
録音録画出力 2	音声	AV2REC	LL プロセッサ	-8	PIN	
	映像	AV2REC	LL プロセッサ	1 V[p-p]	BNC	

入出力機器仕様

ヘッドセット / マイク

		接続	レベル(dB)	コネクタ	
ステレオヘッドセット1	マイク	LL 操作ユニット	-62	ミニジャック	
	フォン		-20	ミニジャック	
ステレオヘッドセット2	マイク	LL 操作ユニット	-62	ミニジャック	
	フォン		-20	ミニジャック	
外部マイクロホン		LL 操作ユニット	-65	単頭ジャック	
ワイヤレスマイクロホン		LL プロセッサ	-20/-60	単頭ジャック	基板内でレベル切換
ワイヤレスインカム		LL プロセッサ	-20/-60	単頭ジャック	基板内でレベル切換

スピーカー出力

	接続	形式	レベル	コネクタ	
ルームスピーカーライン出力	LL プロセッサ	ステレオ	-10	PIN	パワーアンプを別に準備ください
ルームスピーカー	LL プロセッサ	ステレオ	2 W 4 × 2	端子台	
モニタースピーカー	操作ユニット	ステレオ	0.25 W 8 × 2	端子台	

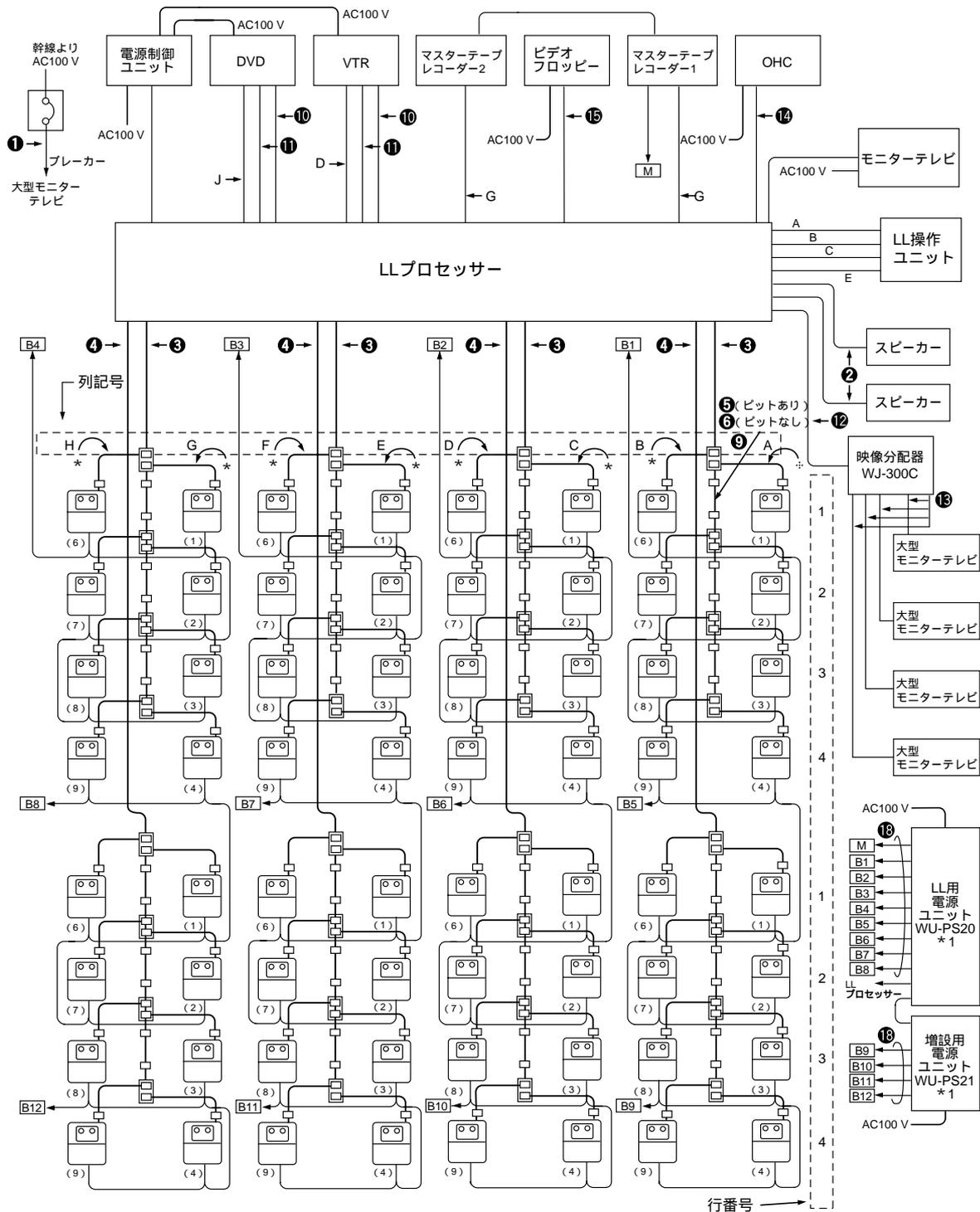
リモコン出力

		接続	コネクタ	
MTR 1	TTL 調歩同期	LL プロセッサ	MTR-DIN	
MTR 2	TTL 調歩同期	LL プロセッサ	MTR-DIN	
AV 1	RS-232C	LL プロセッサ	DSUB25P	
AV 2	RS-232C	LL プロセッサ	DSUB25P	
パソコン	RS-485	操作ユニット	端子台	

システム構成図(例).....AV-LL 例1

マスター部 : MTR WE-LM51×2、VTR AG-5700、DVD-V730、スピーカー WS-1250×2、
OHC WE-MV180A、先生用モニター、ビデオフロッピー

ブース部 : BTR WE-LB51 (8×8) モニターなしブース卓 WE-L150A、大型天井吊下げモニター



図中の () 数字は、アドレス番号を表します。(59ページ参照)

① : 黒丸数字は15ページ工事ケーブル仕様参照。

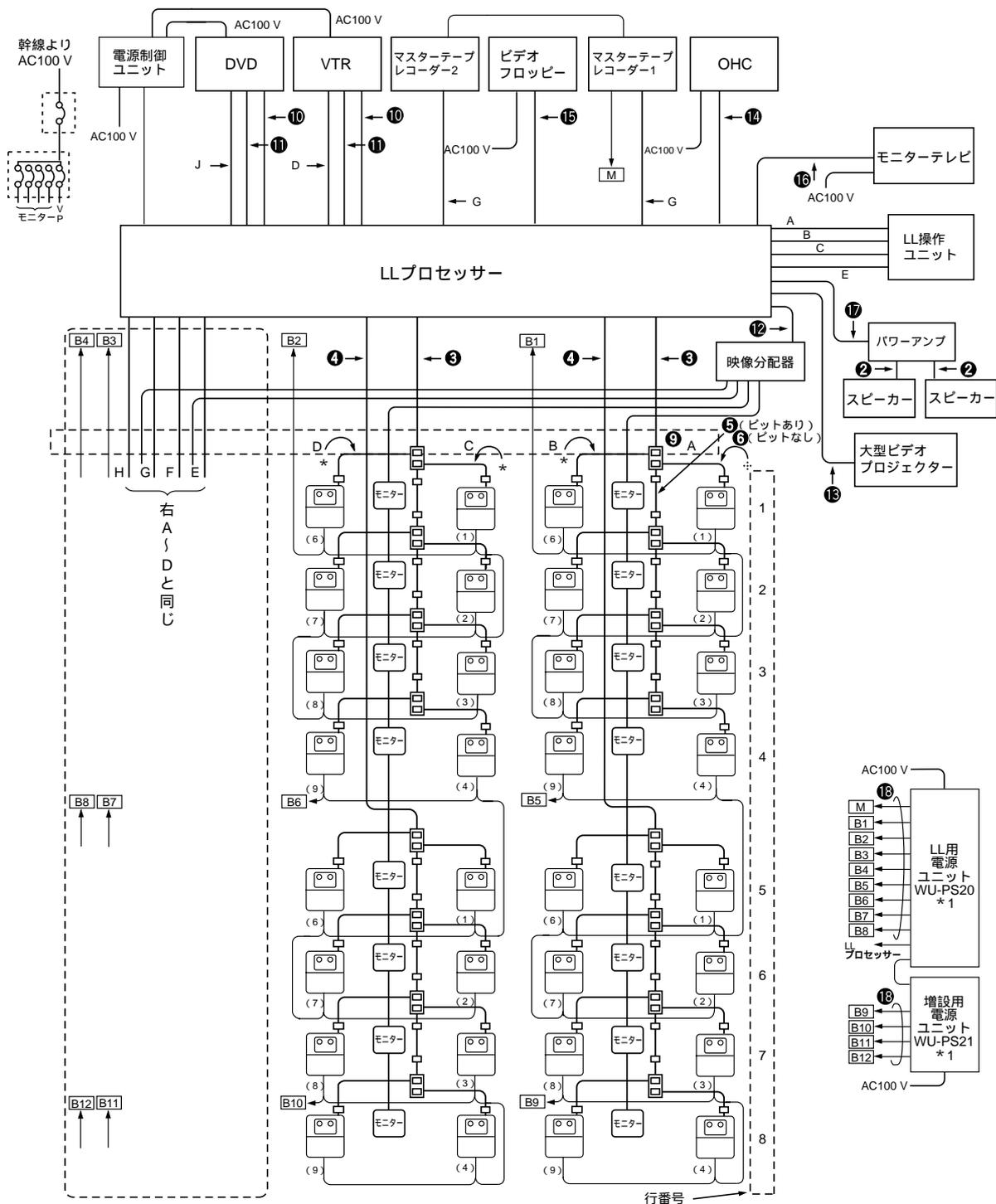
* 1 : 電源ユニットのブース電源供給端子1つからBTRへの配線は最大6台までです。

電源ユニット↔BTR間で40 m以内 (AWG 16使用) としてください。

システム構成図(例).....AV-LL 例2

マスター部 : MTR WE-LM51×2、VTR AG-5700、DVD-V730、スピーカー WS-A200×2、OHC WE-MV180A、ビデオフロッピー、パワーアンプ、映像分配器

ブース部 : BTR WE-LB51 (8×8) 生徒用モニターテレビ WV-CM1430、モニター用ブース卓 WE-L152A、大型ビデオプロジェクター



図中の () 数字は、アドレス番号を表わします (59ページ参照)

● : 黒丸数字は 15 ページ工事ケーブル仕様参照。

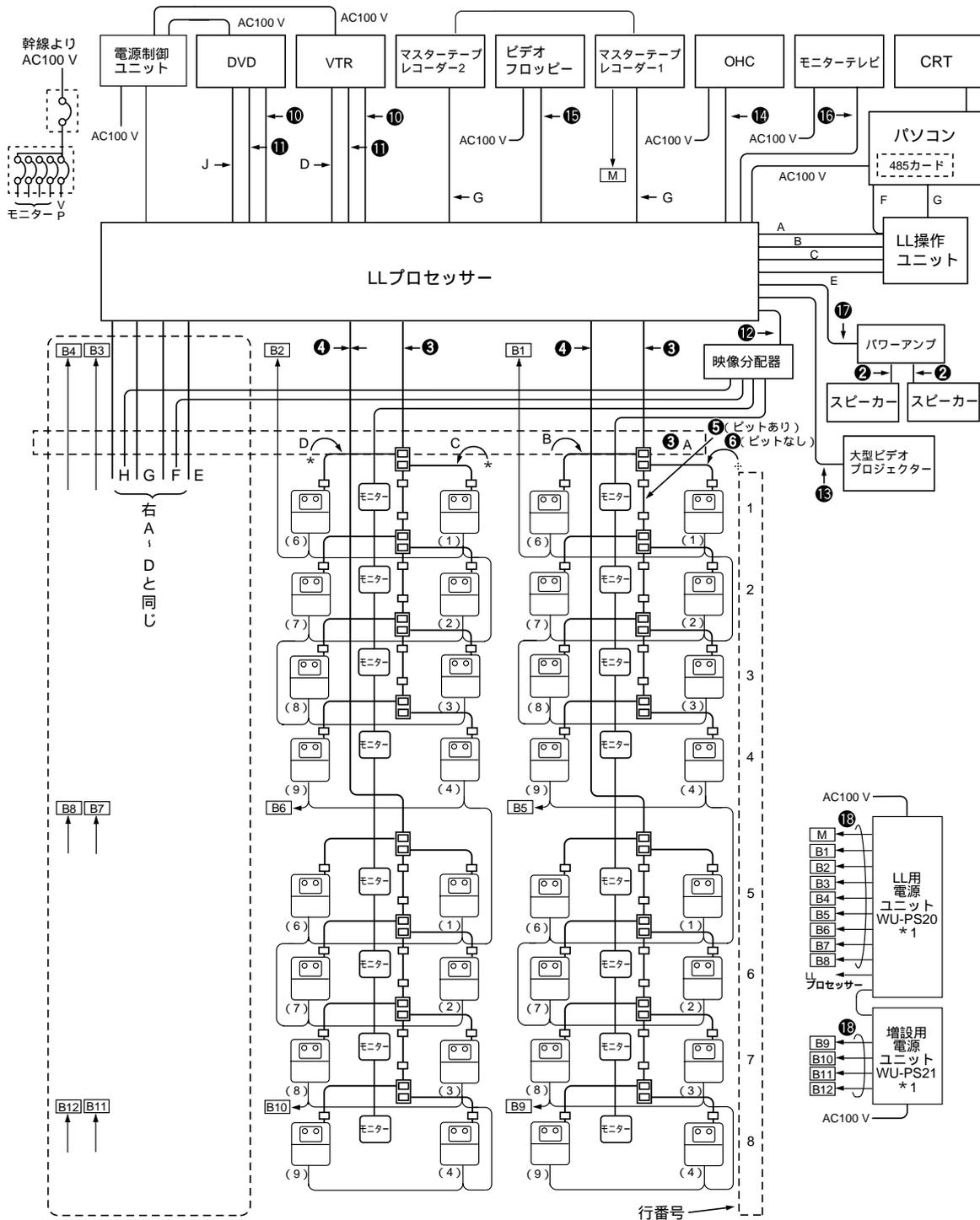
* 1 : 電源ユニットのブース電源供給端子1つからBTRへの配線は最大6台までです。

電源ユニット⇄BTR間で40 m以内 (AWG 16使用) としてください。

システム構成図(例).....AVC-LL

マスター部 : MTR WE-LM51×2、VTR AG-5700、DVD-V730、スピーカー WS-A200×2、OHC WE-MV180A、ビデオフロッピー、パワーアンプ、映像分配器、パソコン、LL表示ユニット WU-LL55A (WE-LL510A/80には標準装備)

ブース部 : BTR WE-LB51 (8×8) 生徒用モニターテレビ WV-CM1430、モニター用ブース卓 WE-L152A、大型ビデオプロジェクター



図中の () 数字は、アドレス番号を表わします (59ページ参照)

● : 黒丸数字は 11 ページ工事ケーブル仕様参照。

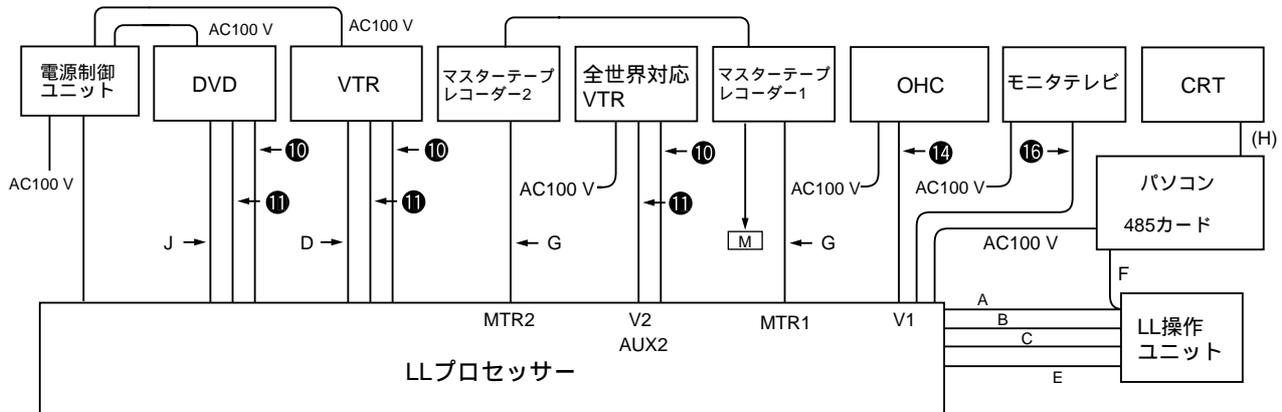
* 1 : 電源ユニットのブース電源供給端子1つからBTRへの配線は最大6台までです。

電源ユニット↔BTR間で40 m以内 (AWG 16使用) としてください。

システム構成図(例)

例 1

- 全世界対応の VTR を使用し、CH2 に接続します。

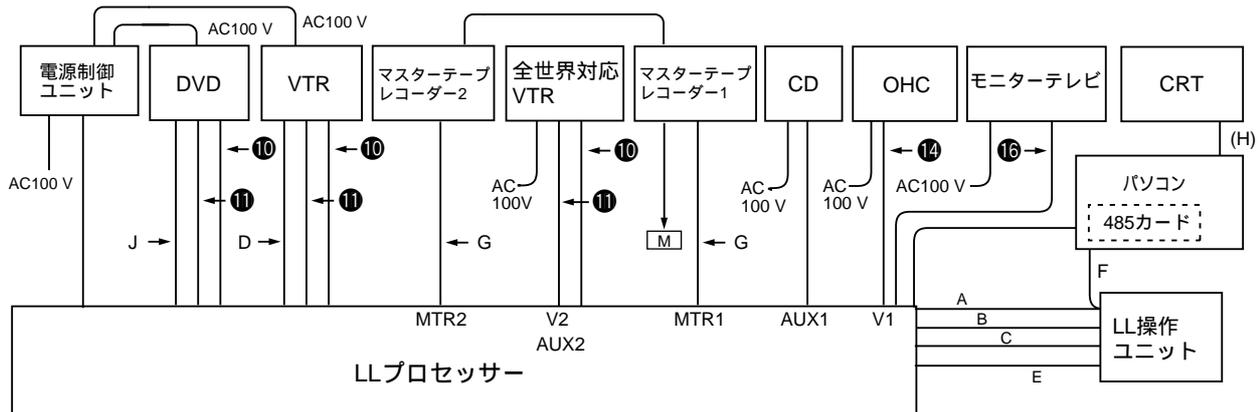


ご注意

- 音声はミキシングになります。CH2のVTRを使用するときは、MTR2を停止してください。
- CH2のVTRはマスター卓からリモコンできません。
- VTRにチューナー付のものを使用しますと、VTRからは常に受信したチューナーのTVチャンネルの音の流れます。音声はミキシングになっていますので、AUXラインにはチューナー付のVTRを接続しないでください。システム上チューナー付のVTRが必要な場合はOHCに接続して、OHCの音声出力をAUX1に接続しOHCで切り換えてお使いください。

例 2

- CDをCH1に接続します。
- 全世界対応のVTRを使用し、CH2に接続します。



ご注意

- 音声はミキシングになります。CH1のCDを使用するときには、MTR1を停止してください。
- 音声はミキシングになります。CH2のVTRを使用するときは、MTR2を停止してください。
- CH1のCDはマスター卓からリモコンできません。
- CH2のVTRはマスター卓からリモコンできません。

ケーブルについて

ケーブル長は機器配置に基づいて決めてください。実際に使用される機器により、BNC コネクタや PIN コネクタ、キャノンコネクタなど異なりますので、機器の仕様を確認してください。

工専用ケーブル

LL プロセッサ WU-LL50

- A:RS-485 ケーブル..... LL プロセッサと LL 操作ユニットをつなぐ制御線です。
B:音声信号ケーブル..... LL プロセッサと LL 操作ユニットをつなぐ音声信号線です。
C:電源ケーブル..... LL プロセッサと LL 操作ユニットをつなぐ電源線です。
D:RS-232C ストレートケーブル..... VTR と LL プロセッサをつなぎます。
E:SPC (スピードコントロール) ケーブル..... LL プロセッサと LL 操作ユニットをつなぐスピードコントロールの制御線です。
J:DVD用RS-232Cケーブル..... DVDとLLプロセッサをつなぎます。

LL 表示ユニット WU-LL55A

- F:RS-485 ケーブル.....パーソナルコンピュータと LL 操作ユニットをつなぐ制御線です。

マスターテープレコーダー

- G:マスターテープレコーダー延長ケーブル.....マスターテープレコーダーと LL プロセッサを延長します。

パソコン

- H:パソコン用 VGA 延長ケーブル.....パソコンと CRT の間を延長します。

工専用ケーブル品番

上記のケーブルは設置状況に応じて長さの異なるものを下記の品番で別売しています。

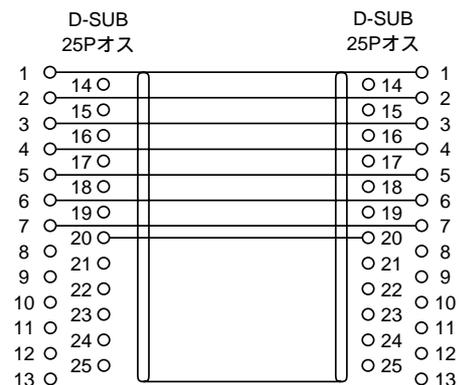
- (1) LL プロセッサ～操作ユニットケーブルセット..... W4-LLE/MS1 (2.5m)
構成 A,B,C,E
- (2) LL プロセッサ～操作ユニットケーブルセット (ロング) ... W4-LLE/MS1L (4m)
構成 A,B,C,E
- (3) LL 用パソコン接続ケーブルセット..... W4-LLE/MS3 (3m)
構成 F
- (4) LL 用パソコン接続ケーブルセット (ロング) W4-LLE/MS3L (5m)
構成 F
- (5) RS-232C ストレートケーブル..... W4-LLE/2M5 (2.5m)
構成 D
- (6) RS-232C ストレートケーブル (ロング) W4-LLE/5M (5m)
構成 D
- (7) マスターテープレコーダー用延長ケーブル..... W4-LLE/A1M5 (1.5m)
構成 G
- (8) パソコン用 VGA 延長ケーブル..... W4-LLE/1M5A (1.5m)
構成 H
- (9) DVD用 RS-232Cケーブル..... 次ページ参照
構成 J

ケーブルについて

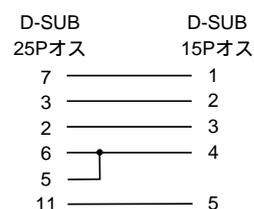
- 1 : 電源ケーブル キャップタイヤケーブルで配線します。
- 2 : スピーカーケーブル スピーカーケーブルで配線します。
- 3 : 幹線ケーブル A
- 4 : 幹線ケーブル B
- 5 : 延長ケーブル A
- 6 : 延長ケーブル B
- 7 : 分岐ケーブル A
- 8 : 分岐ケーブル B
- 9 : 幹線コネクタ
- 10: ビデオケーブル BNC/BNC コネクタ VTR/DVD と LL プロセッサをつなぎます。
- 11: 音声ステレオケーブル PIN/PIN コネクタ VTR/DVD と LL プロセッサをつなぎます。
- 12: ブースビデオケーブル BNC/BNC コネクタ LL プロセッサと映像分配器をつなぎます。
- 13: モニター/VP ビデオケーブル BNC/PIN または BNC/BNC コネクタ LL プロセッサまたは映像分配器と大型モニターテレビやビデオプロジェクターをつなぎます。
(注: モニターテレビの仕様と台数によっては映像分配器は不用です)
- 14: OHC ビデオケーブル BNC/PIN コネクタ OHC と LL プロセッサをつなぎます。
- 15: ビデオフロッピーケーブル BNC/PIN または BNC/BNC コネクタ ビデオフロッピーと LL プロセッサをつなぎます。
- 16: 先生用モニタービデオケーブル BNC/BNC コネクタ LL プロセッサと先生用モニターテレビをつなぎます。
- 17: ステレオライン出力ケーブル PIN/PIN または PIN/キャノンコネクタ LL プロセッサとパワーアンプをつなぎます。
- 18: テープレコーダー用DC電源ケーブル 電源ユニットとマスターテープレコーダー (WE-LM51)、ブーステープレコーダー (WE-LB51) をつなぎます。かならずAWG#16以上のケーブルとし、最大長は40 mまでとしてください。

配線仕様

- ・ D:RS-232C ストレートケーブル
(VTR と LL プロセッサをつなぎます)



- ・ J: DVD 制御用ケーブル (現地制作)
(DVDとLLプロセッサをつなぎます)



ケーブル区分	工事仕様	工事ケーブル仕様		48人(6列×8行) 時必要数		
		ピットあり(幹線コネクタをピット内に収納)	ピットなし(幹線コネクタを机に設置)	ピットあり	ピットなし	
電源ケーブル				①キャップタイヤケーブル 5		
スピーカーケーブル				②スピーカーケーブル スピーカー 片側をLシプロセッサに、もう一方をスピーカーに接続する。 1		
マスター卓と、最初のブース卓間の幹線ケーブル仕様				③幹線ケーブルA 品番 マスター卓へ 幹線コネクタへ DTN 14P 角形14P 9m 47m W4-14E/T80S	3	3
				④幹線ケーブルB マスター卓へ 幹線コネクタへ 15m 角形14P DTN 14P W4-14E/T150S	3	3
ブース卓間の延長ケーブル仕様				⑤延長ケーブルA 幹線コネクタへ 幹線コネクタへ 2m 角形14P 角形14P W4-14E/J20E	18	--
				⑥延長ケーブルB 幹線コネクタへ 幹線コネクタへ 4.5m 角形14P 角形14P W4-14E/J45S	--	18
幹線コネクタ BTR間の分岐ケーブル				⑦分岐ケーブルA 幹線コネクタへ ブーステーブルコーダへ 1m 角形14P DIN 14P W4-14E/B10S	--	48
				⑧分岐ケーブルB 幹線コネクタへ ブーステーブルコーダへ 2.2m 角形14P DIN 14P W4-14E/B22S	48	--
幹線コネクタ				⑨幹線コネクタ W3-CNB7800 幹線コネクタにケーブルを接続した場合のスペース寸法	24	24

• マスターテーブルコーダ音声リモコンケーブル、SPCケーブルは手配の必要はありません。

上記 番号はシステム構成図(例)に記載しているケーブル類の番号です。

WE-LL500A シリーズシステム構成

マスター部

LL 操作ユニット	WE-LL510A、WE-LL510A/80	1
LL プロセッサ	WU-LL50	1
LL 表示ユニット	WU-LL55A (使用時パソコンが必要)(WE-LL510A/80 には標準装備されています)	1
マスター卓	城下工業株式会社斡旋商品	1
袖卓	WE-L190	任意
コーナー天板	WU-L210A (オプション)	0~2
60 コーナー用リアーパネル	W2-EP/L210 (オプション)	0~2
ヘッドセット	WE-HS21 (ステレオ仕様)	1~2
外部マイク	(オプション)	1
マスターテープレコーダー	WE-LM51	2
OHC	WE-MV180A	1
映像分配器	WJ-300C (システム構成により必要)	0~8
VTR	AG-7350 (ビデオシステム(事)扱い、RS-232Cカード(AG-IA232TC)が必要)	1~2
DVD	DVD-V730 (パイオニア(株)製)	1
パソコン	(23ページ参照)	
JIS キーボード	(パソコンと組み合わせて)	1
CRT ディスプレイ	(パソコンと組み合わせて)	1
プリンター	(パソコンと組み合わせて)	1

ブース部〔 〕内は WE-LL510A/80 の場合

ブース卓	WE-L150A	最大32〔40〕
	WE-L152A (14型モニターテレビ(WV-CM1430)用)	最大32〔40〕
ブーステープレコーダー	WE-LB51	最大64〔80〕
14型モニターテレビ	WV-CM1430(WE-L152A 使用時)	最大32〔40〕
ヘッドセット	WE-HS21	最大64〔80〕

LL 操作ユニット WE-LL510A、WE-LL510A/80

定格

入力

ステレオヘッドセット1マイク : -62 dB 1k ミニジャック
 ステレオヘッドセット2マイク : -62 dB 1k ミニジャック
 外部マイクロホン : -62 dB 47k 単頭ジャック
 予備入力端子 (R・L) : -10 dB 10k ピンプラグ
 質量 : 約 10.5 kg

出力

ステレオヘッドセット1フォン : -20 dB 32 ×2 ステレオミニジャック
 ステレオヘッドセット2フォン : -20 dB 32 ×2 ステレオミニジャック
 モニタースピーカー : 0.25 W 8 ×2 (R・L) 端子台

周波数特性 : 50 Hz ~ 20 kHz
 S/N : 50 dB (A) 以上
 ひずみ率 : 1% 以下
 電源 : LL プロセッサより供給
 質量 : 約 10.5 kg
 寸法 : 幅 640 mm 165.5 mm 奥行き 440 mm
 仕上げ : AV アイボリー
 (マンセル 7.9Y6.8/0.8 近似色)

接続機器と端子

LL プロセッサ

電源 : 角形 15P コネクター・
 角形 3P コネクター
 音声 : 15P D-SUB コネクター
 制御 : 3P 端子台
 スピードコントロール : 9P D-SUB コネクター

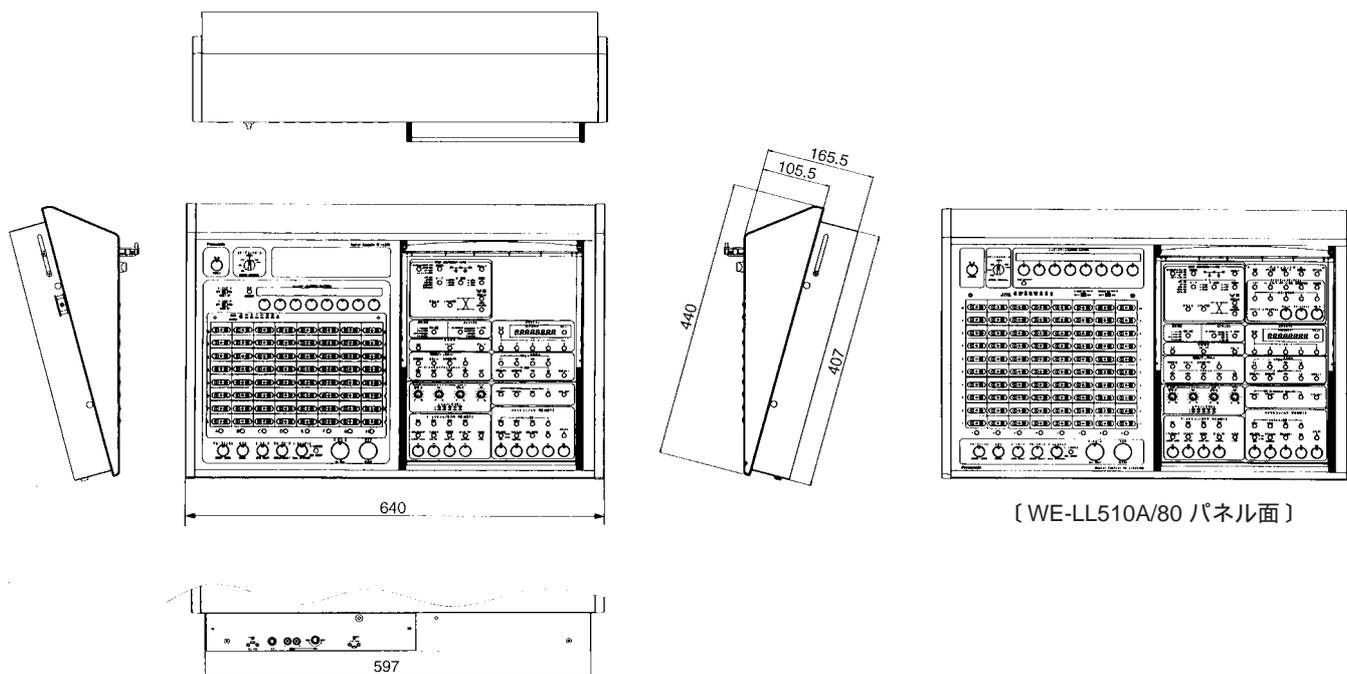
パソコン

制御 : 3P 端子台

付属品

生徒記名シート5
 エキスパート機能シート1
 番号ラベルシート1

外観寸法図



WE-LL500A シリーズシステム構成

LL プロセッサ WU-LL50

定格

•チャンネル別入力

		入力	レベ ル	コネクタ ー	
CH1	音声	MTR1	-10 dB 22 k × 2	MTR-DIN(T,S)	
		AUX 1	-10 dB/-22 dB 22 k × 2	PIN(L,R)	MTR1 にミキシング
	映像	V1	1 V[p-p] 75	BNC	
CH2	音声	MTR2	-10 dB 22 k × 2	MTR-DIN(T,S)	
		AUX2	-10 dB/-22 dB 22 k × 2	PIN(L,R)	MTR2 にミキシング
	映像	V2	1 V[p-p] 75	BNC	
CH3	音声	AV1	-8 dB/-14 dB 22 k × 2	PIN(L,R)	通常 VTR
		AUX3	-10 dB/-22 dB 22 k × 2	PIN(L,R)	AV1 にミキシング
		MTR3	-10 dB 22 k × 1	MTR-DIN	ノーマルレッスン時、ミキシング
	映像	AV1	1 V[p-p] 75	BNC	
CH4	音声	AV2	-8 dB/-14 dB 22 k × 2	PIN(L,R)	通常 DVD
		AUX4	-10 dB/-22 dB 22 k × 2	PIN(L,R)	AV2 にミキシング
		MTR4	-10 dB 22 k × 1	MTR-DIN	ノーマルレッスン時、ミキシング
	映像	AV2	1 V[p-p] 75	BNC	

•録音、録画出力

			レベ ル	コネクタ ー
録音出力 1	音声	MTR1	-22 dB (負荷ハイインピーダンス) × 2	MTR-DIN(T,S)
録音出力 2	音声	MTR2	-22 dB (負荷ハイインピーダンス) × 2	MTR-DIN(T,S)
録音録画出力 1	音声	AV 1 REC	-8 dB (負荷ハイインピーダンス) × 2	PIN(R,L)
	映像	AV 1 REC	1 V[p-p]	BNC
録音録画出力 2	音声	AV 2 REC	-8 dB (負荷ハイインピーダンス) × 2	PIN(R,L)
	映像	AV 2 REC	1 V[p-p]	BNC

•ワイヤレスマイク / ワイヤレスインカム

	レベ ル	コネクタ ー	
ワイヤレスマイクロホン入力	-20 dB/-60 dB 20k	大型複式ジャック	基板内でレベル切換
ワイヤレスインカム出力	-20 dB/-60 dB (負荷ハイインピーダンス)	大型複式ジャック	基板内でレベル切換

•スピーカー出力

	レベ ル	コネクタ ー
ルームスピーカーライン出力	-10 dB (負荷ハイインピーダンス) × 2	PIN (L,R)
ルームスピーカー	2 W 4 × 2	端子台 (L,R)

•イングリッシュトレーナーとの入出力

		レベ ル (dB)	コネクタ ー	
イングリッシュトレーナー	入力	-10 dB 22 k	PIN	CH1 にミキシング
	出力	-22 dB (負荷ハイインピーダンス)	PIN	

•幹線ライン入出力

		レベル	
プログラムライン	4 系統 × 8	入力	-26 dB 180
		出力	-26 dB 1 k
通話ライン	1 系統 × 8	入力	-22 dB 220
		出力	-22 dB 1 k
制御ライン	1 系統 × 8	入力	正極性 100 プルアップ
		出力	正極性 100 プルアップ

•リモコン出力

		接 続	コネクタ	
MTR1	TTL 調歩同期	LLプロセッサ	MTR-DIN	
MTR2	TTL 調歩同期	LLプロセッサ	MTR-DIN	
AV1	RS-232C	LLプロセッサ	D-SUB 25P	通信速度 2400 bps 奇数パリティ、データ長 7 ビット(VTR)
AV2	RS-232C	LLプロセッサ	D-SUB 25P	通信速度 4800 bps パリティなし、データ長 8 ビット(DVD)

注：MTR3、MTR4 には電源オン/オフを除いてリモコンがききません。

•スピードコントロール制御

	信号仕様	接 続	コネクタ
MTR1	TTL パラレル	MTR1	DIN6P
	TTL パラレル	操作ユニット	D-SUB 9 P

•制御出力

	仕 様	接 続	コネクタ	
電源制御	トランジスターメイク接点	LL プロセッサ 電源ユニット	ミニジャック	電源制御ユニット (WU-L60A) LL用 電源ユニットWU-PS20専用
VP 制御	トランジスターメイク接点	LL プロセッサ	ミニジャック	負荷条件：最大 DC + 12 V/80 mA

•電気的特性

周波数特性 : マスターテープレコーダープログラムライン 50 Hz ~ 15 kHz
 その他のライン 50 Hz ~ 15 kHz
 S/N : 総合 50 dB(A)以上
 歪み率 : 1 %以下
 消費電力 : 74 W (操作ユニットWE-LL510A 含む)
 電源 : AC100 V (50 Hz/60 Hz)

•機械的特性

質量 : 約26.5 kg
 寸法 : 幅 420 mm 高さ 458 mm 奥行き 375 mm
 仕上げ : AV アイボリー (マンセル 7.9Y6.8/0.8 近似色)

EIA ラック取付用アングル

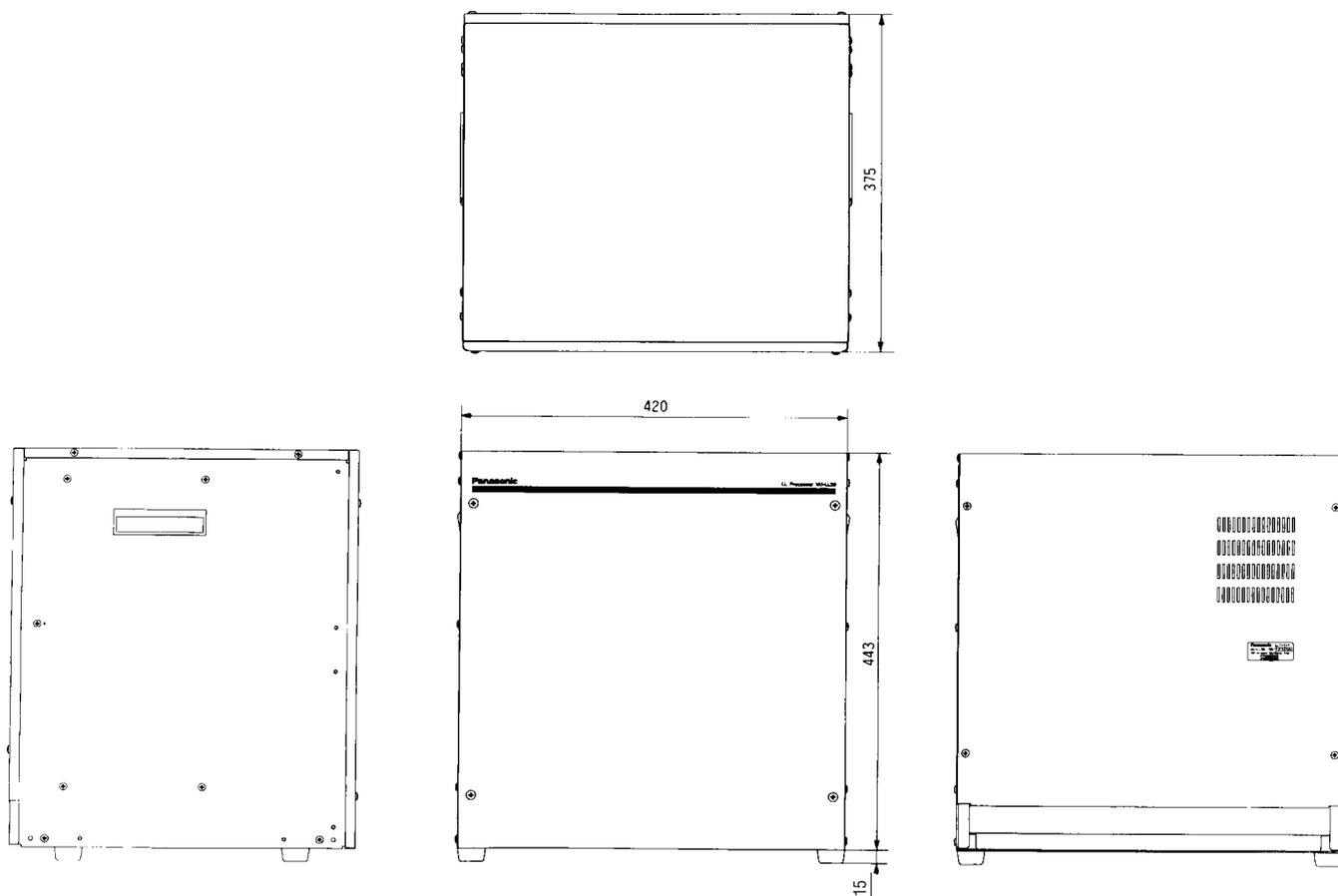
YWA5PE0002A4 (別売)4

付属品

プーステープレコーダー用ヒューズ.....10 メインヒューズ (630 mA)1
 メインヒューズ (7A)1 ミニプラグ2
 メインヒューズ (4A)3 大形複式プラグ2
 メインヒューズ (2A)1 コードクランプ5

WE-LL500A シリーズシステム構成

外観寸法図



LL 表示ユニット WU-LL55A (WE-LL510A/80には標準装備)

構成

RS-485 カード (パソコン内のスロットに差し込んで使用)1 アナライザーパネル (操作ユニットWE-LL510Aに取り付けて使用)1
 システムソフト、アナライザー分析ソフト1

定格

RS-485 カード

電源 : DC+5 V/250 mA
 (パソコンのスロットより供給)

通信ライン : RS-485 相当

寸法 : 262(W) × 98(H) × 33(D)mm

質量 : 165 kg

LL システムソフト

媒体 : 3.5 型 2HD フロッピーディスク

周囲温度 : 10 ~ 35

保存温度 : 4 ~ 50

湿度 : 20 % ~ 80 %

推奨パーソナルコンピューター

OS : Windows98

画面 : 640 × 480ドット, 256色以上

メモリ容量 : 40 MB以上

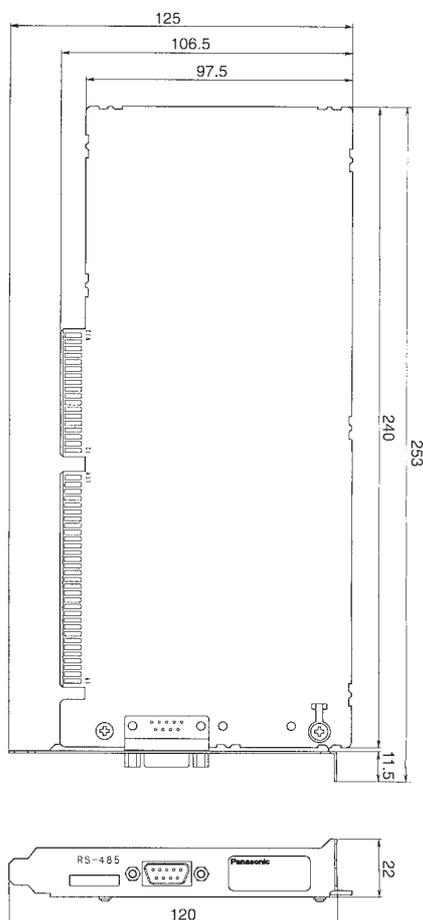
ハードディスク空き容量 : 20 MB以上

その他 : ISAバスの空きスロットがあること
 (RS-485カードを装着します)

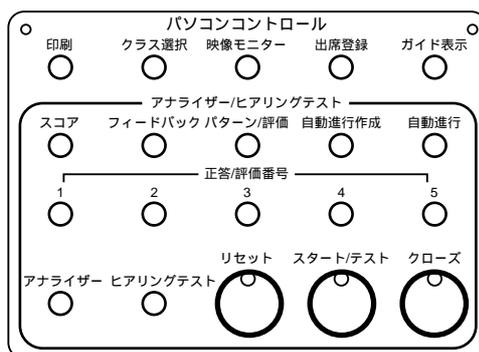
機種によってISAバスの空きスロットがあっても、スペースの関係でRS-485カードを取り付けられない場合があります。実際の使用機種については、お買い上げの販売店にご相談ください。

外観寸法図

・RS-485 カード



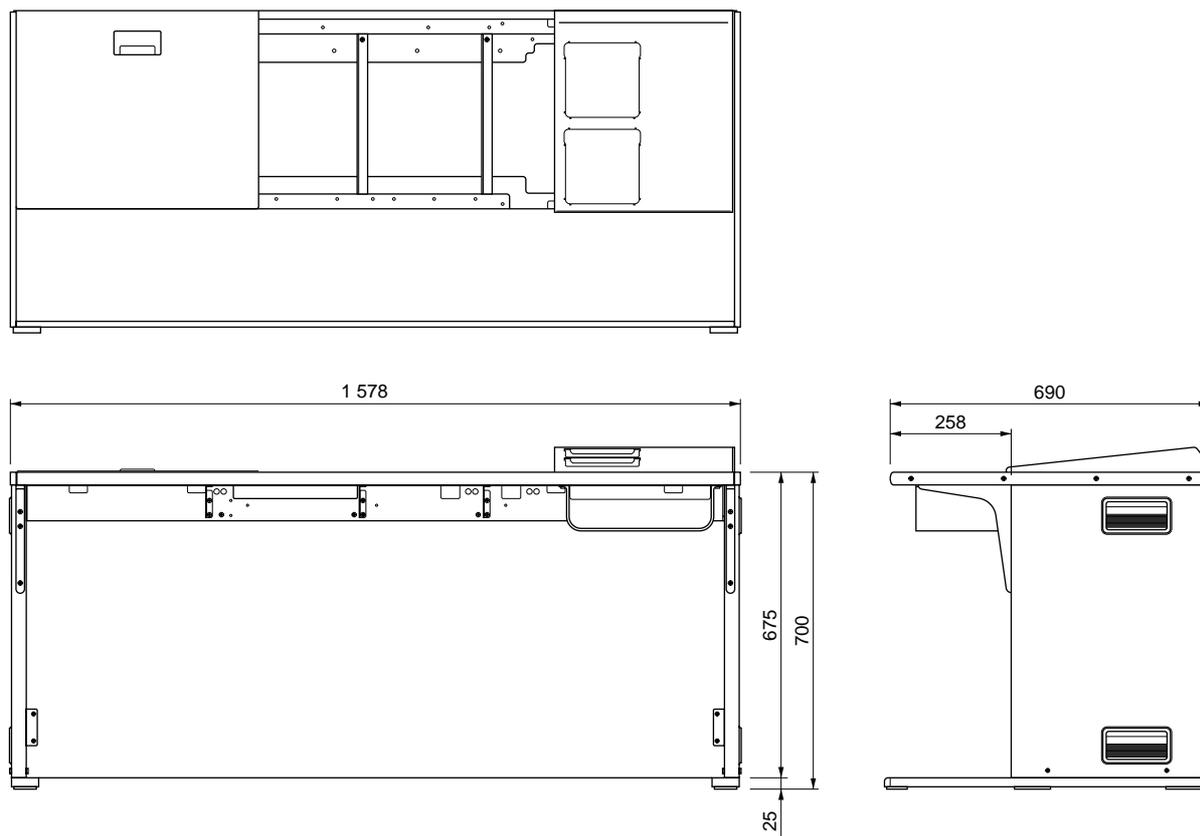
・アナライザーパネル (WE-LL510A/80 では、操作ユニットに取り付けられています)



WE-LL500A シリーズシステム構成

マスター卓(LL操作ユニット、マスターテープレコーダー
(WE-LM51用) 城下工業株式会社斡旋商品

外観寸法図



マスターテープレコーダーWE-LM51

定格

<電気的特性>

電源 : DC12 V
 消費電力 : 0.5 W (スタンバイ時)
 6.0 W (録音時)

入力

ライン入力(PGM) : - 22 dB 100 k 以上
 双方向制御ライン(D.SN) : 正極性

出力

ライン出力 : - 10 dB
 ハイインピーダンス(受け)
 双方向制御ライン(D.SN) :
 (100 プルアップ)

機械的特性

接続方式 : 共通線方式
 (アドレススイッチによる選択)

周波数特性 : 63 Hz ~ 10 kHz
 S/N : 50 dB (A) 以上
 ひずみ率 : 2 %以下 (315 Hz再生時)
 録音方式 : 交流バイアス (145 kHz)
 消去方式 : 交流消去
 音量切換 : 8ステップ切換
 トラック方式 : 4トラック2チャンネル

付属品

MTRケーブル1

MTR / SPCケーブル1

操作

: 録音 (REC BOTH / REC TRACK2)、
 巻戻し (↶ / ◀◀)、停止 (⏹)
 再生 (▶) 早送り (▶▶)、1セン
 テンス繰返し(SBL)10回、パラグ
 ラフリピートリスン(PRL)5回、メモ
 リー、リセット、イジェクト、電源

使用テープ : カセットテープ(C-30、46、60)
 モーター : キャプスタン (DDモーター)
 : リール (DCモーター)

テープスピード : 4.76 cm / 秒, 19.04 cm / 秒
 ワウ・フラッター : 0.1 %以下

ヘッド構成 : 録音再生ヘッド1、消去ヘッド1

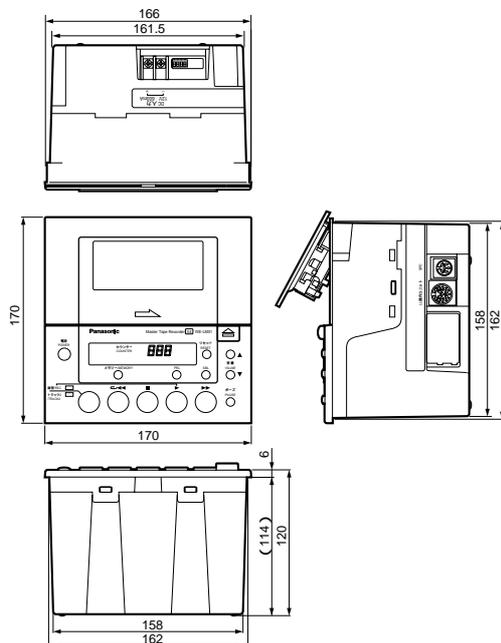
質量 : 約 1.7 kg

設置 : 水平置き

寸法 : 幅 170 mm 高さ 170 mm
 奥行 120mm
 奥行きは、操作パネル面から底面
 までの寸法です。

仕上げ : AVアイボリー
 (マンセル7.9Y6.8/0.8近似色)

外観寸法図



WE-LL500A シリーズシステム構成

ブースタプレコーダーWE-LB51

定格

<電気的特性>

電 源 : DC12 V (電源ユニットWU-PS20またはWU-PS21より供給)
消費電力 : 0.5 W (スタンバイ時)
7.0 W (PRAC時)
質 量 : 約 1.7 kg
設 置 : 水平置き
寸 法 : 幅 170 mm 高さ 170 mm
奥行き 120 mm
奥行きは、操作パネル面から底面までの寸法です。
仕 上 げ : AVアイボリー
(マンセル7.9Y6.8/0.8近似色)

入力 (双方向ライン入力)

プログラムライン (PGM) : -26 dB 100 k 以上
通話ライン (COMM) : -22 dB 100 k 以上
制御ライン (D.SN) : 正極性
HEADSET MIC : -62 dB 390
(ECMマイクのみ)
HEADSET PHONE(L,R) : -20 dB 32

出力 (双方向ライン出力)

プログラムライン (PGM) : -26 dB 1 k
通話ライン (COMM) : -22 dB 180
制御ライン (D.SN) : 正極性
(100 プルアップ)

<機械的特性>

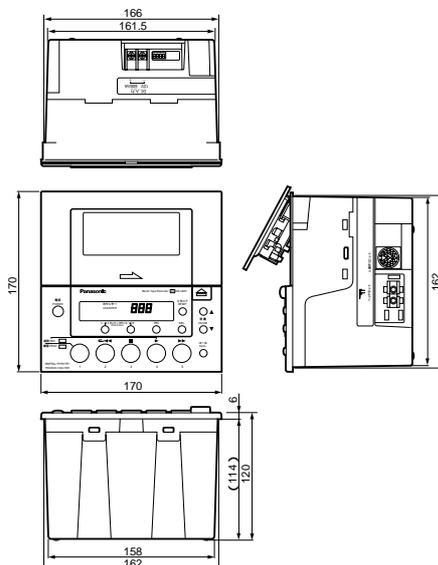
接 続 方 式 : 共通線方式
(アドレススイッチによる選択)
周 波 数 特 性 : 63 Hz ~ 10 kHz
S / N : 50 dB (A) 以上
ひ ず み 率 : 2 % 以下 (315 Hz再生時)
録 音 方 式 : 交流パイアス (145 kHz)
消 去 方 式 : 交流消去
音 量 切 替 : 8ステップ切替
トラック方式 : 4トラック2チャンネル
操 作 : 録音 (REC)、練習録 (PRAC)、
巻戻し (↶ / ◀)、停止
()、再生 (▶)、早送り
(▶▶)、1センテンス繰返し
(SBL) 10回、パラグラフリピ
ートリスン (PRL) 5回、
トラック/バランス (L.R)、
リセット、イジェクト、電源、
コール
使 用 テ ー プ : カセットテープ (C-30、46、60)
モ ー タ ー : キャプスタン (DDモーター)
リール (DCモーター)
テープスピード : 4.76 cm / 秒, 19.04 cm / 秒
ワウ・フラッター : 0.1 % 以下
ヘ ッ ド 構 成 : 録音再生ヘッド1、消去ヘッド1

付属品

ヘッドセットプラグカバー1

取扱説明書1

外観寸法図



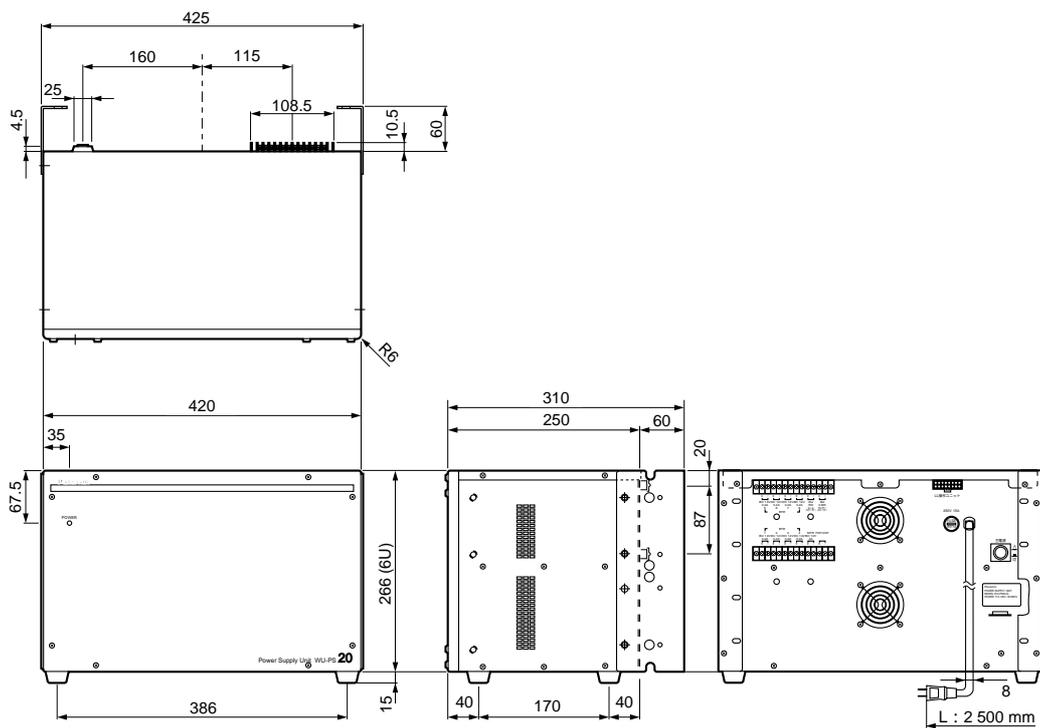
LL 用電源ユニットWU-PS20

定格

電 源	: AC100 V (50 Hz/60 Hz)		
消 費 電 力	: 660 W (最大時) 28 W (最小時)		
定 格 出 力	: 電源出力部		
	ブーステープレコーダー1~8	+ 14 V 3.2 A	端子台
	LL操作ユニット	+ 5 V系 + 5.3 V 2.6 A	16Pコネクター
		+ 12 V + 12 V 700 mA	16Pコネクター
		- 12 V - 12 V 400 mA	16Pコネクター
	マスターテープレコーダー	+ 12 V 2.0 A	端子台
	音声出力部		
	モニタースピーカー出力 (WE-LL210接続時)	0.8 W 8 (不平衡)	端子台
	ルームスピーカー出力 (WE-LL210接続時)	5 W 8 (BTL出力)	端子台
定 格 入 力	モニタースピーカー入力	- 10 dB 20 k (平衡)	16Pコネクター
	ルームスピーカー入力	- 10 dB 20 k (平衡)	16Pコネクター
その他入出力	LL操作ユニットコネクタ (WE-LL210専用)	専用インターフェース	16Pコネクター
	(スピーカー制御、電源制御)		
	電源制御出力	トランジスタメイク接点	端子台
周波数特性	モニタースピーカー	100 Hz ~ 10 kHz	
	ルームスピーカー	100 Hz ~ 10 KHz	
S / N	モニタースピーカー	75 dB以上	
	ルームスピーカー	75 dB以上	
歪 率	モニタースピーカー	5.0 %以下	
	ルームスピーカー	0.5 %以下	
寸 法	: 幅 425 mm 高さ 281 mm 奥行 310 mm		
質 量	: 約30 kg		
仕 上 げ	: AVアイボリー (マンセル7.9Y6.8/0.8近似色)		

付属品

ヒューズ (15A) 1



WE-LL500A シリーズシステム構成

増設用電源ユニットWU-PS21

定格

電 源 : AC100 V (50 Hz/60Hz)

消 費 電 力 : 310 W (最大時) 12 W (最小時)

定 格 出 力 : 電源出力部

ブーステーブルコーダー1~4

+ 14 V 3.2 A

端子台

マスターテーブルコーダー

+ 12 V 2.0 A

端子台 (未使用)

その他入力 : 電源制御

トランジスタメイク接点

端子台

寸 法 : 幅425 mm 高さ 281 mm 奥行き 310 mm

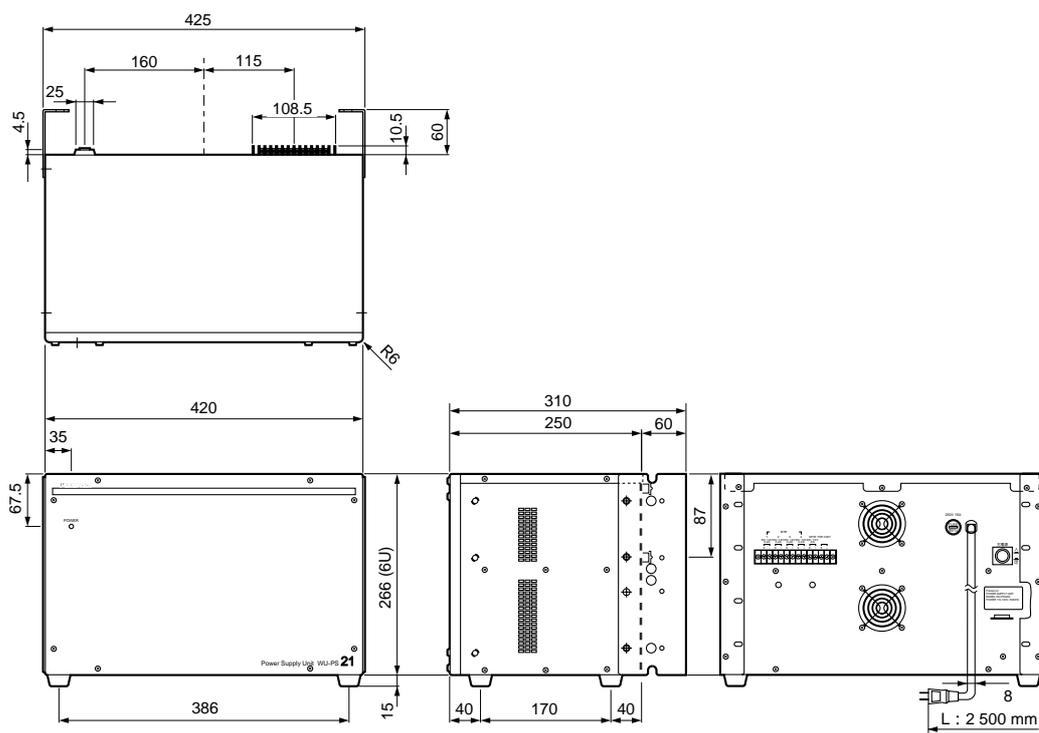
質 量 : 約19 kg

仕 上 げ : AVアイボリー (マンセル7.9Y6.8/0.8近似色)

付属品

ヒューズ (8A)1

外観寸法図



ブース卓(モニター無し)WE-L150A

定格

寸法 : 幅1,390 mm 高さ 725 mm
奥行き 470 mm

質量 : 約 24.5 kg

材質 : パーチクルボード、鋼板

仕上げ : テーブル : OA アイボリーメラミン樹脂仕上げ
(マンセル 6.5Y7.8/0.9 近似色)

背面 : OA アイボリー塩ビシート仕上げ

脚 : OA アイボリー塗装

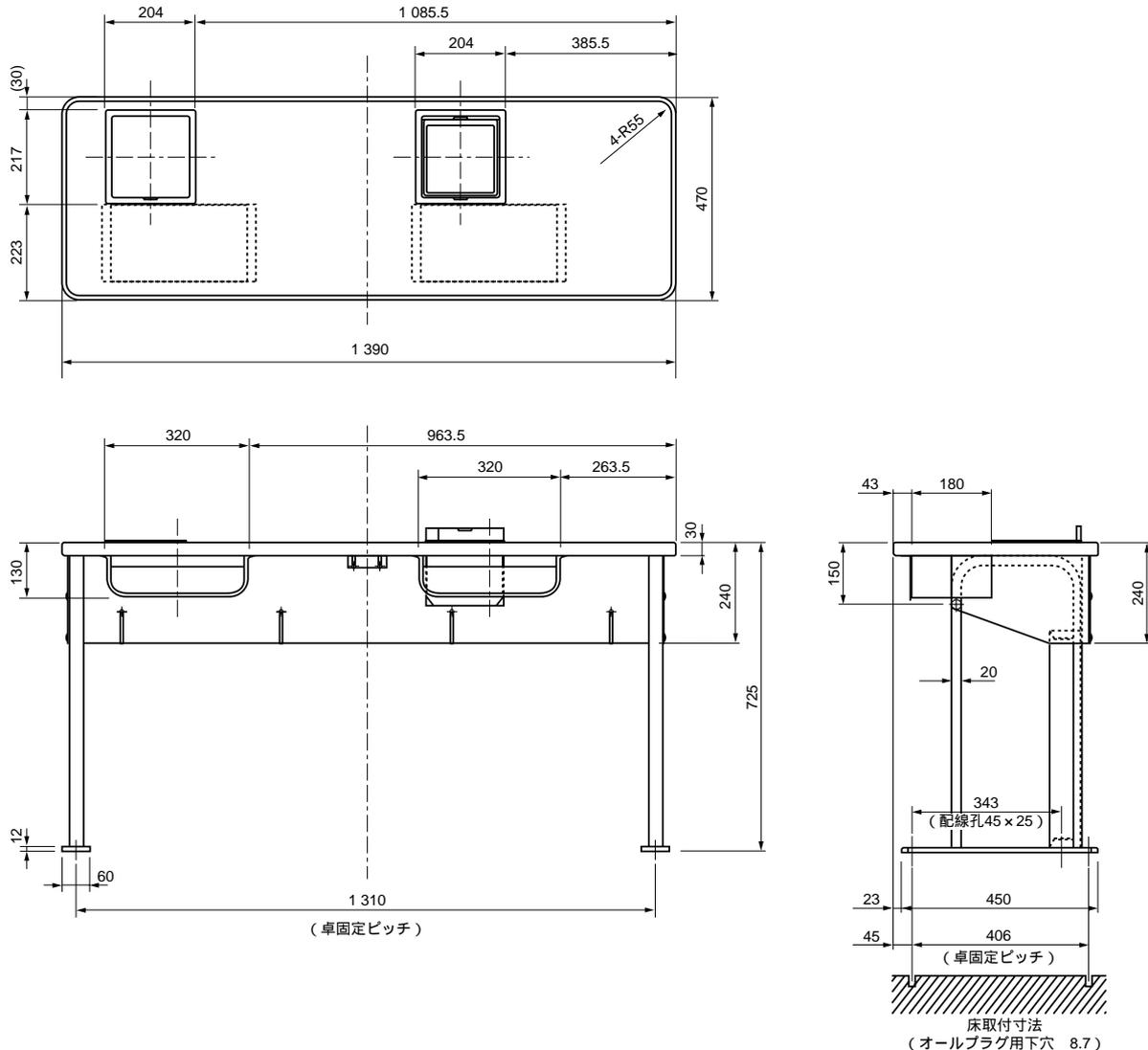
構成部品

テーブル 1 脚(左・右) 各 1
背板 1 側板(左・右) 各 1

付属品

固定ねじ(側板用 M4×10) 2 オールプラグ(#14×32) 4
ワッシャー(側板用) 2 コードクランパー 4
飾りねじ(背板用 M4×25) 4 固定ねじ(コードクランパー用 4×12) 4
固定ねじ(テーブル、脚用 M5×35) 6 床固定木ねじ(5.8×32) 4
ねじキャップ 6

外観寸法図



WE-LL500A シリーズシステム構成

ブース卓(14型モニターテレビ用)WE-L152A

定格

寸法 : 幅 1,490 mm 高さ 725 mm
 奥行 570 mm
 質量 : 約 37 kg
 材質 : パーチクルボード、鋼板

仕上げ : テーブル : OA アイボリーメラミン樹脂仕上げ
 (マンセル 6.5Y7.8/0.9 近似色)
 背面 : OA アイボリー塩ビシート仕上げ
 脚 : OA アイボリー塗装

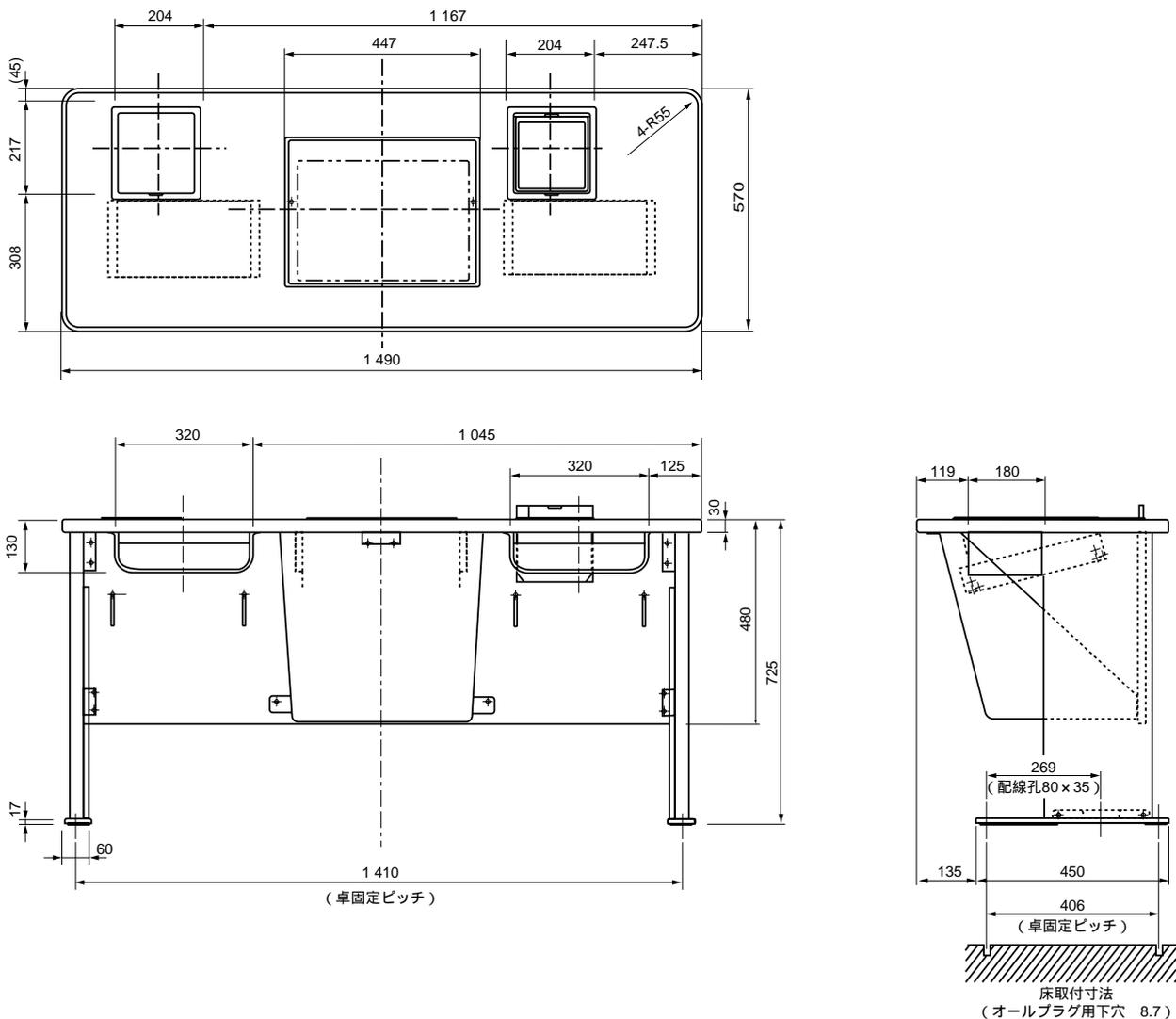
構成部品

ブース卓本体 1
 脚(左・右) 各 1

付属品

固定ねじ(テーブル、脚用 M4×8) 12
 コードクランパー 4
 固定ねじ(コードクランパー用、4×12) 4
 オールプラグ(#14×32) 4
 床固定木ねじ(5.8×38) 4
 固定ねじ(モニター取付用 M4×10) 4
 モニター取付金具 A・B(左・右) 各 1

外観寸法図



ヘッドセット WE-HS21

定格

ヘッドホン部

形式 : ムービングコイル形

インピーダンス : 32 (1 kHz) × 2

定格入力 : 0.5 mW × 2

出力音圧レベル : 96 dB (600 Hz、2 mW) ± 6 dB

マイクロホン部

形式 : エレクトレットコンデンサ

出力インピーダンス : 1.8 k (1 kHz)

感度 : -72 dB (1 kHz)

指向性 : マイクロユニット単一指向性

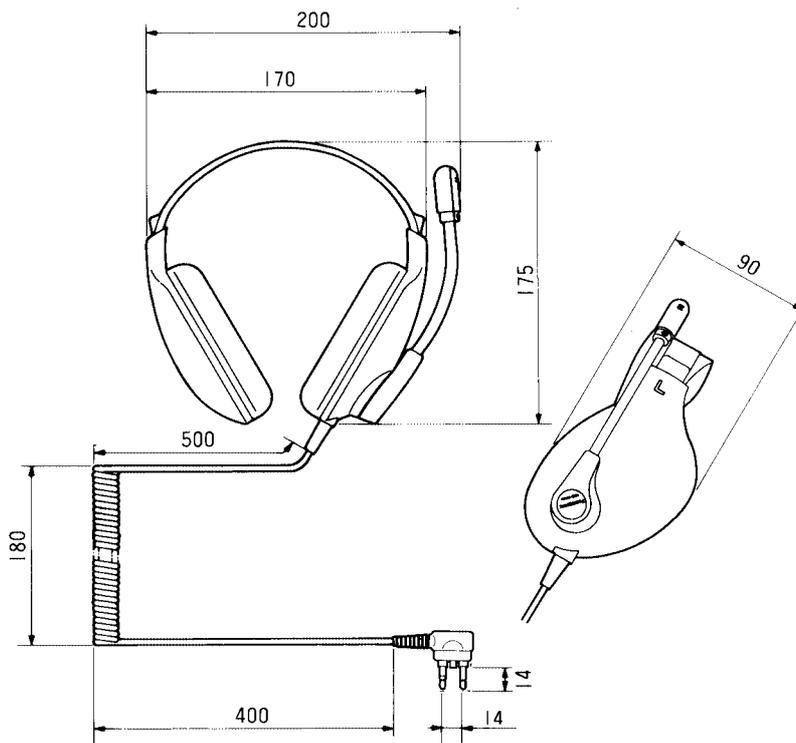
総合

プラグコード : コード長さ約 1.7 m (カール部含む)
プラグ (M3 ミニプラグ)

質量 : 約 230 kg

寸法 : 外観寸法図による

外観寸法図



WE-LL500A シリーズシステム構成

袖卓 WL-L190A

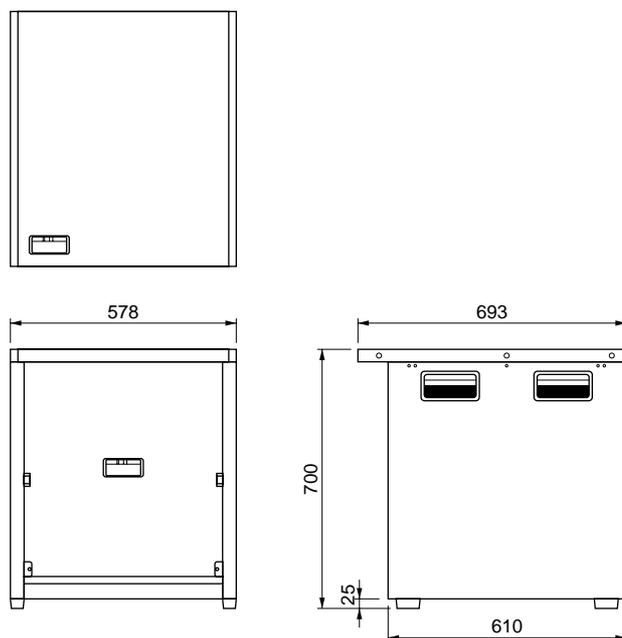
定格

寸法：幅 578 mm 高さ 700 mm 奥行 693 mm
質量：約 27 kg
仕上げ：天板：OA アイボリー色メラミン化粧板貼付（マンセル 8.0Y7.8/0.8 近似色）
卓本体：鉄板焼き付け塗装 マンセル8.0Y7.8/0.8近似色

別売品

- ・側板ユニット.....WE-L192（拡張用）
- ・キャスターユニット.....WE-L197（4個1組）
- ・棚板ユニット.....WE-L195（2枚組）
- ・コーナー天板60.....WU-L210A
- ・収納ラック.....WE-L198（鍵付き）
- ・コーナー天板90.....WU-L220A
- ・袖卓用ラックアングル.....WE-Q08（13U）
- ・60コーナーリアパネル.....W2-EP/L210
- ・扉.....WE-L196（鍵付き）

外観寸法図



60 コーナー天板 WU-L210A

概要

カラー AV 調整卓 WL-AV110A シリーズ用の60°用コーナー天板です。

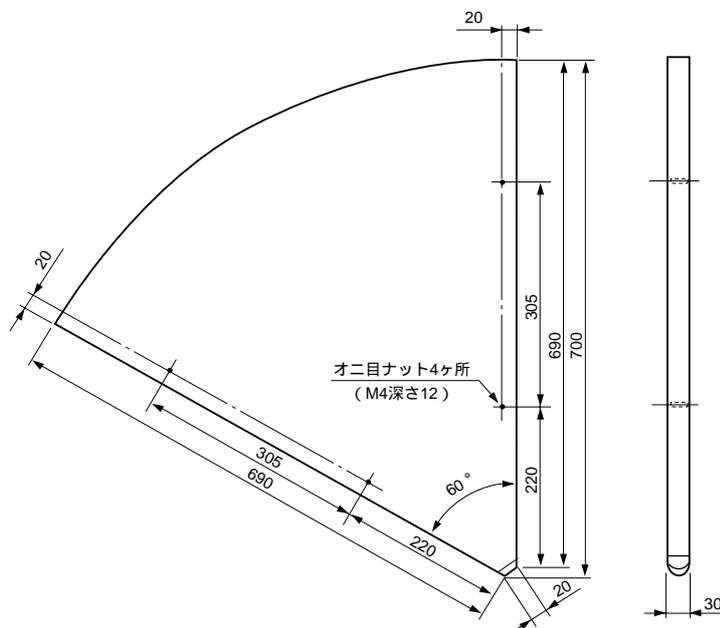
定格

寸法 : 幅 700 mm × 高さ 30 mm 奥行き 約610 mm
質量 : 約6 kg
仕上げ : OA アイポリーメラミン化粧板貼り (マンセル6.5Y7.8 / 0.9近似色)

付属品

取付アングル..... 3種 束線材.....5
取付ねじ (M4 × 8)11

外観寸法図



WE-LL500A シリーズシステム構成

90 コーナー天板 WU-L220A

概要

カラー AV 調整卓 WL-AV110A シリーズ用の90°用コーナー天板です。

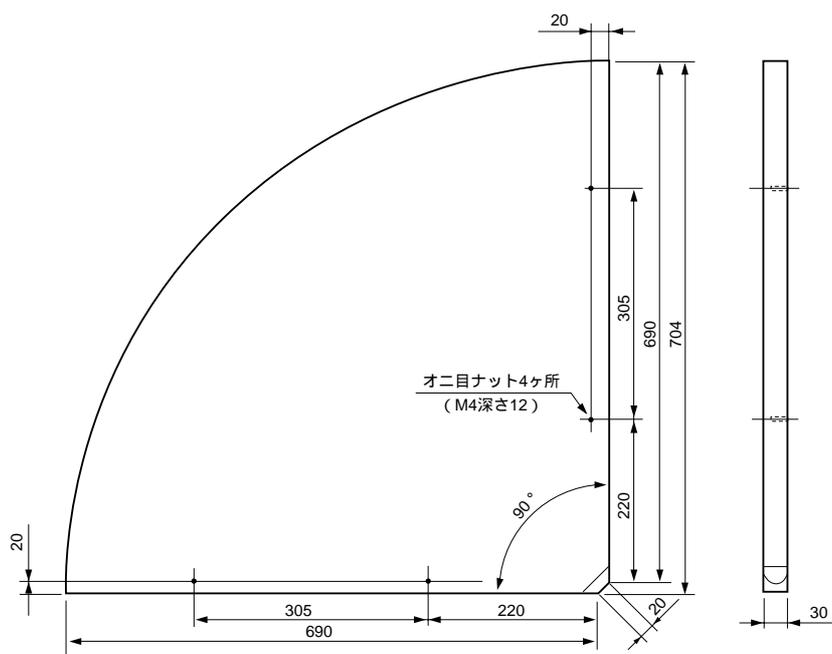
定格

寸法 : 幅 704 mm 高さ 30 mm 奥行き 704 mm
質量 : 約8 kg
仕上げ : OA アイボリーメラミン化粧板貼り (マンセル6.5Y7.8 / 0.9近似色)

付属品

取付アングル..... 3種 束線材.....5
取付ねじ (M4 × 8)11

外観寸法図



60 コーナー用リアーパネル W2-EP/L210

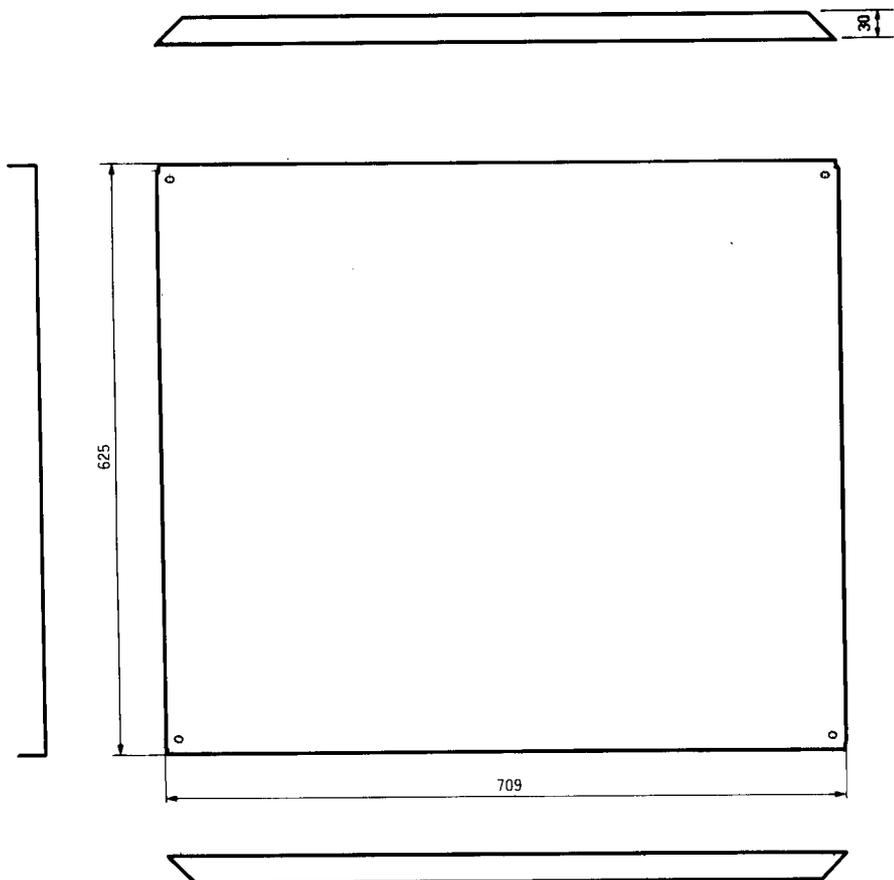
定格

寸法 : 幅709 mm 高さ 625 mm 奥行き 30 mm 仕上げ : OA アイボリーエリオ鋼板
質量 : 約 5 kg (マンセル 8.0Y7.8/0.8 近似色)

付属品

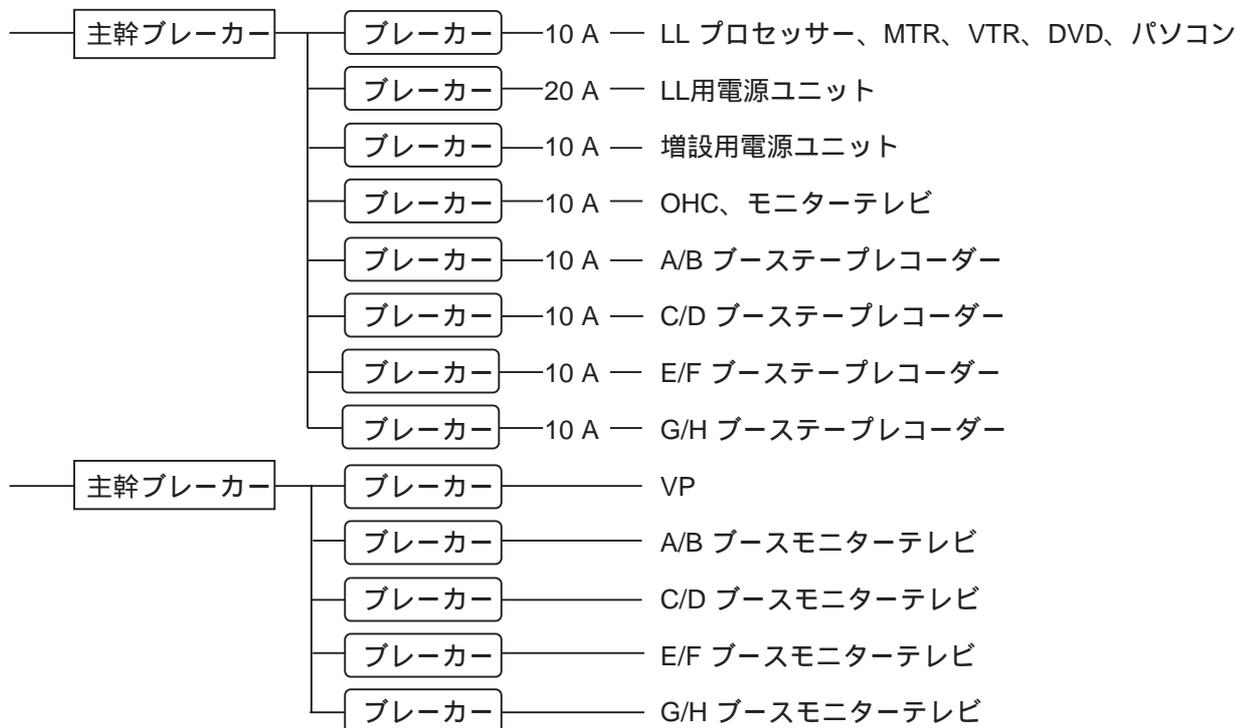
取付ねじ (M4×8)11 取付アングル B (左取付用・右取付用)各 1
取付アングル A (左取付用・右取付用)各 1 取付アングル C.....2

外観寸法図



電源(AC100 V)の配線

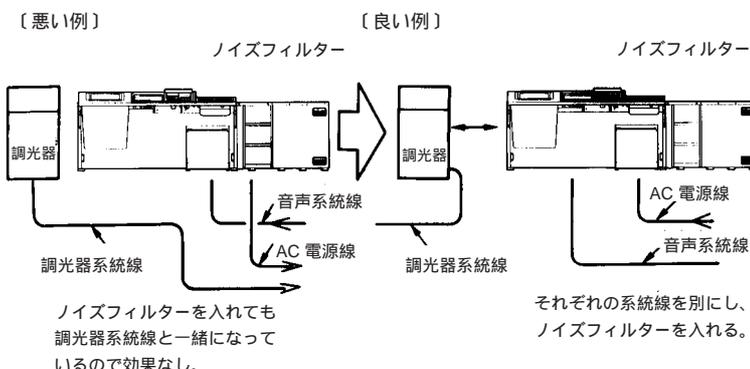
標準的な設置例



- LL プロセッサはLL 用電源ユニット、増設用電源ユニット、モニターテレビからのノイズ対策のため接地工事をしてください。
- ブースモニターテレビの電源は幹線を分けてください。
- ブースモニターテレビのラインのブレーカー容量はブースモニターテレビにより計算してください。
- 漏電ブレーカーを使用される場合は、機器によりリーク電流が異なりますので、ご注意ください。
- 一斉に電源を投入すると、突入電流でブレーカーが焼き付いたり、電圧効果でほかの機器が誤動作することがあります。
- モニターテレビの電源投入後、LL 機器の電源を投入してください。

電源ノイズの対策

- ノイズ源となるようなものに供給している AC コンセントからできる限り離れた AC コンセントより供給してください。
- LL 本体の LL 幹線系統線、映像線は調光器、水銀灯、水銀灯スイッチなどの系統線とは別にしてください。
- LL 本体への AC 電源線にノイズフィルターを接続します。



- ノイズフィルター紹介

デンセイ・ラムダ株式会社

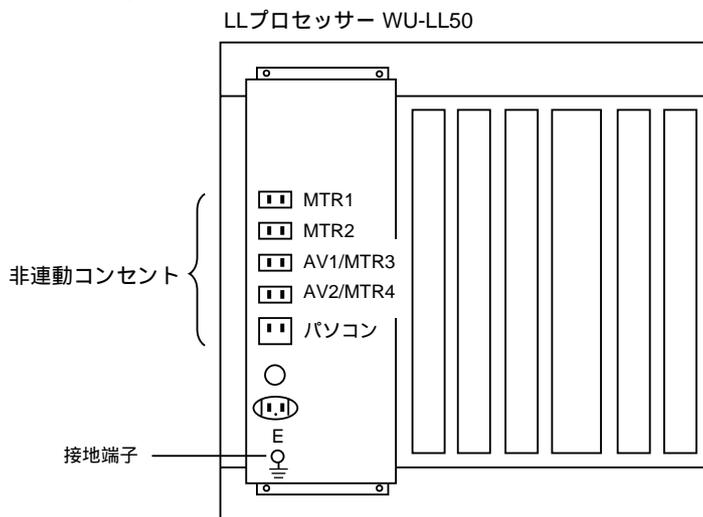
MBS-1205-22(5A)PA120 W まで

MBS-1210-22(10A).....PA120 W ~ 360 W まで

接地アースを必ず接続してください。

LL プロセッサ内蔵のコンセント

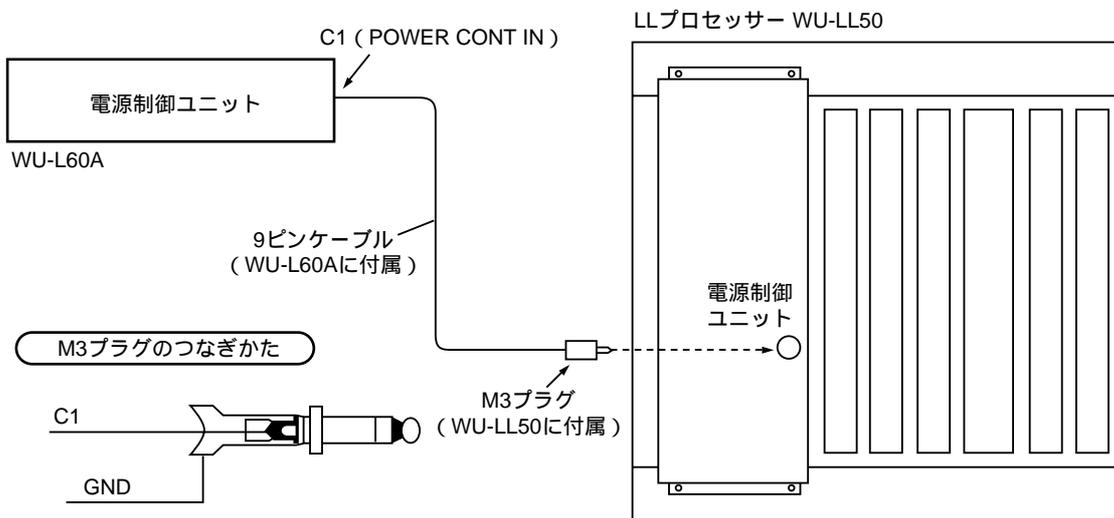
LL プロセッサ WU-LL50 には MTR、VTR、パソコン用に非運動のコンセントを内蔵しています。DVDは、必ず下記の連動コンセントから電源供給してください。非運動コンセントから供給した場合は、LL本体からの制御ができなくなることがあります。



LLプロセッサ、LL用電源ユニット、増設用電源ユニットの接地

接地端子 (E、≡) に接地工事をしてください。

連動コンセント



電源制御ユニット WU-L60A を別に設置してください。

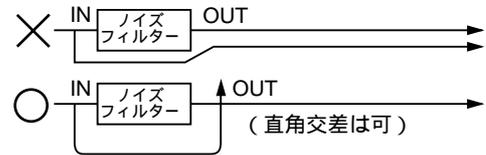
連動で電源が入ったときに、電圧降下で機器が誤動作しないように配慮してください。

- ・ 幹線を分ける。
- ・ 新しく電源線を教室内に引き込む。

ブース用モニターテレビの電源配線について

ご注意

- ・ 雑音混入防止のため必要に応じてノイズフィルターを配電盤内に設置してください。
- ・ ノイズフィルターと本体は必ずアース工事をしてください。
- ・ 同じ室内に調光器を使用しないでください。
- ・ ノイズフィルターの電源入力側の線と電源出力側の線を束ねたり平行にしないでください。
- ・ モニターテレビを使用する場合と使用しない場合は電源配線が異なります。

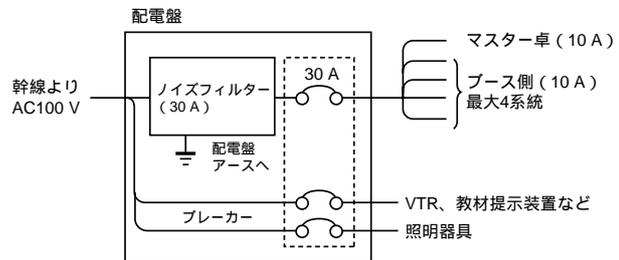


モニターテレビを使用しない場合

VTR、教材提示装置などと照明器具はノイズフィルターの入力側に接続してください。

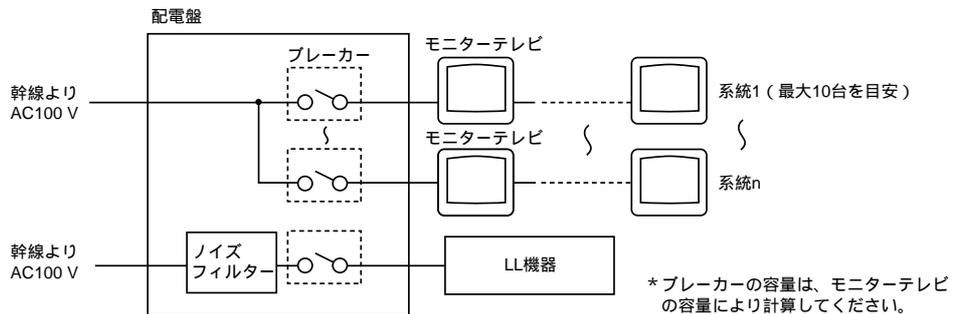
モニターテレビを使用する場合

各ブースにモニターテレビを設置した場合、一斉に電源投入しますと突入電流によりブレーカーが焼き付いたり、電圧降下により他の機器を誤動作させることがあります。工事の設計・施工や操作上、次の点に注意を払ってください。



1. 電源容量の確保と系統分け

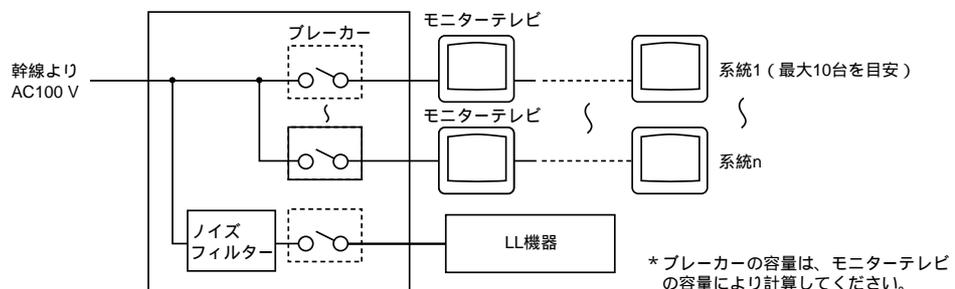
新設のとき



- ・ LL 機器とモニターテレビの電源を別の系統から引いてください。
- ・ ブース用モニターテレビは1系統10台を目安にブレーカーを設けてください。

既設のとき

(止むを得ず一つの電源ラインしかないとき)



- ・ 新設のときと同様にブレーカーの設置が必要です。
- ・ 幹線容量は突入電流を含めて余裕をもたせてください。

2. 電源投入順序

- ・ モニターテレビの電源投入 (系統ごと) 後、LL 機器の電源を投入してください。LL 機器を使用中にモニターテレビの電源投入をしないでください。特に既設の場合には LL 機器が誤動作することがあります。

LL 操作ユニットのマスター卓への取り付け

マスター卓の組み立ては、マスター卓の取扱説明書をご参照ください。

LL 操作ユニットの前面のねじ 4ヶ所を取りはずし、(内 2本 (M4) は輸送ねじ (青色) です) 上カバーを開け、マイクジャック、ボリュームつまみなどをマスター卓の孔に通してそのまま置きます。

LL 操作ユニットを手前に引き、付属ねじ (バインド M4×8) 4本で固定します。

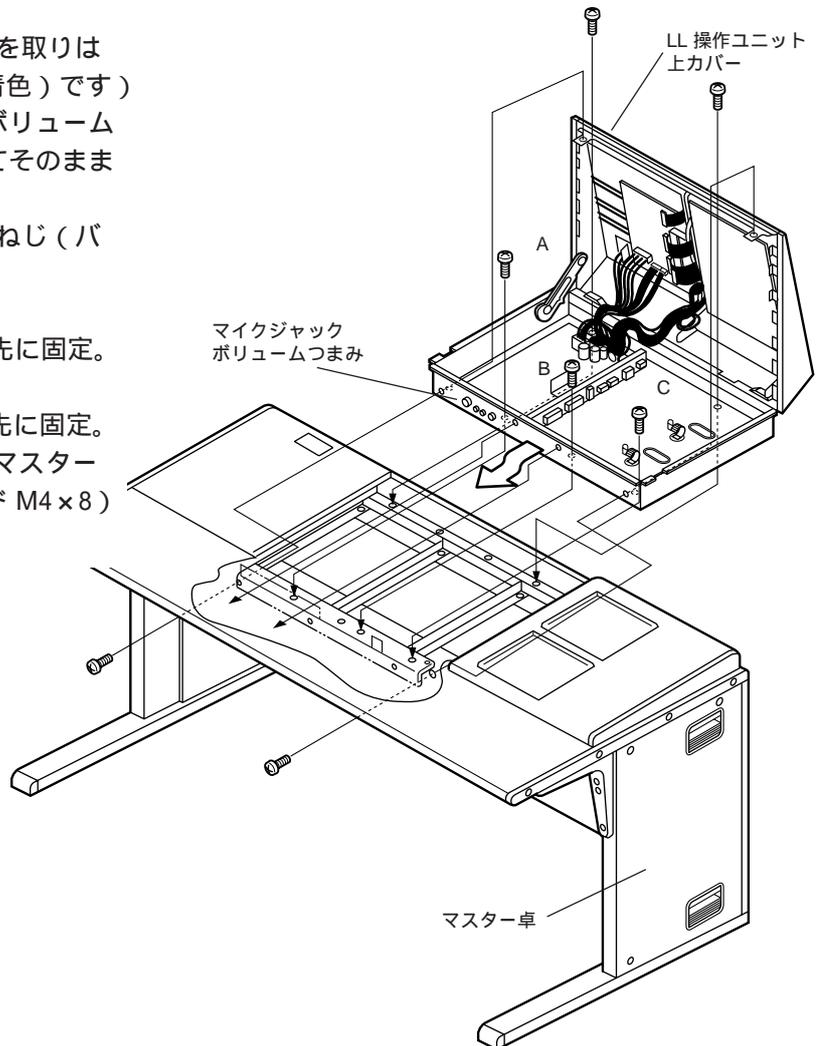
モニターが左側のとき：

の手前 2本を A、C の位置で先に固定。

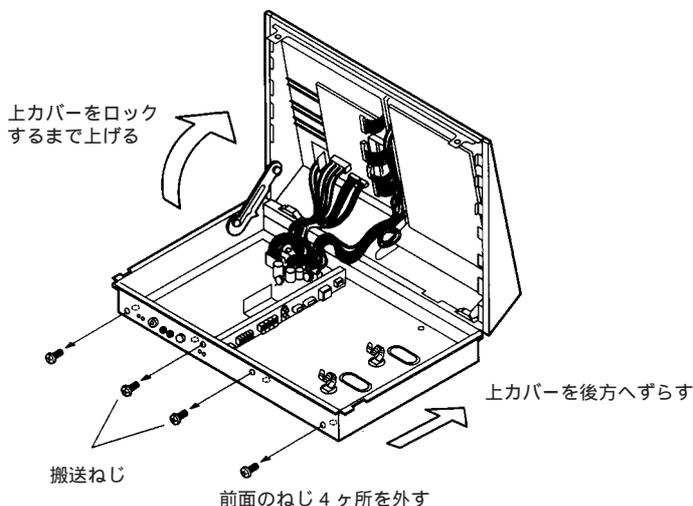
モニターが右側のとき：

の手前 2本を B、C の位置で先に固定。

LL 操作ユニットの上カバーを閉め、マスター卓前面を はずしたねじ (バインド M4×8) 2本で固定します。

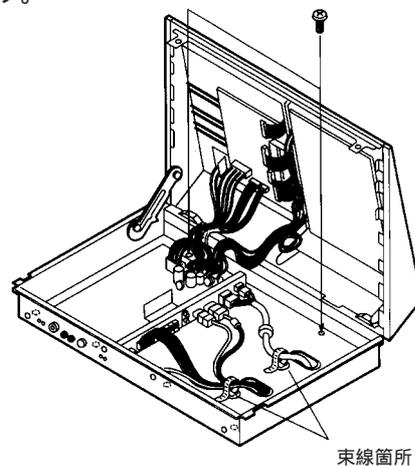


LL 操作ユニット開閉方法



LL 操作ユニット内束線方法

LL プロセッサーとの配線が外れないように、2ヶ所で束線します。



LL 操作ユニットのマスター卓への取り付け

コードクランプをマスター卓テーブル奥のシャーシ面取付穴に差し込んで取り付けます。

生徒記名シートは5枚付属していますが、別途お求めになる場合は、お買い上げの販売店へご依頼ください。

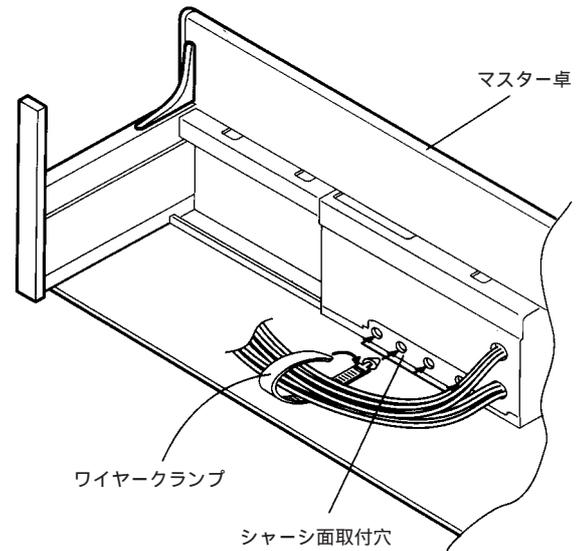
品名：生徒記名シート

品番：YWA5DA0397B2

(WE-LL510A の場合)

YWA5DA0415B2

(WE-LL510A/80 の場合)



ボタンカバーのLL 操作ユニットへの取り付け

出席表示ランプにカバーをつけたい場合は、ボタンカバー（別売）をご使用することができます。お買い上げの販売店へご依頼ください。

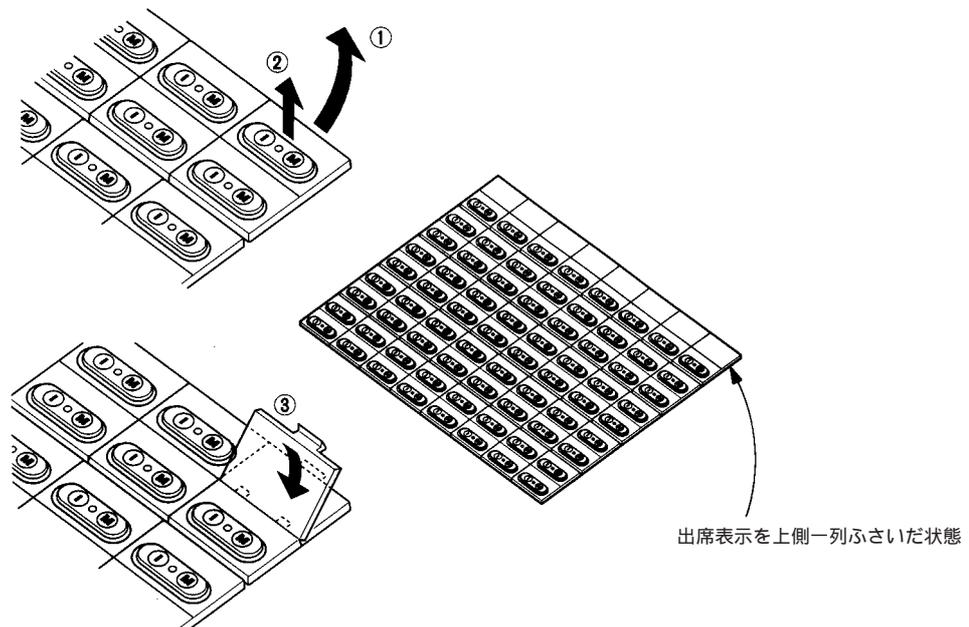
品名：ボタンカバー

品番：YWA5EA1303A3

ボタンカバーの上側を爪で引っ掛け、取り外します。

シーソーボタンを取り外します。

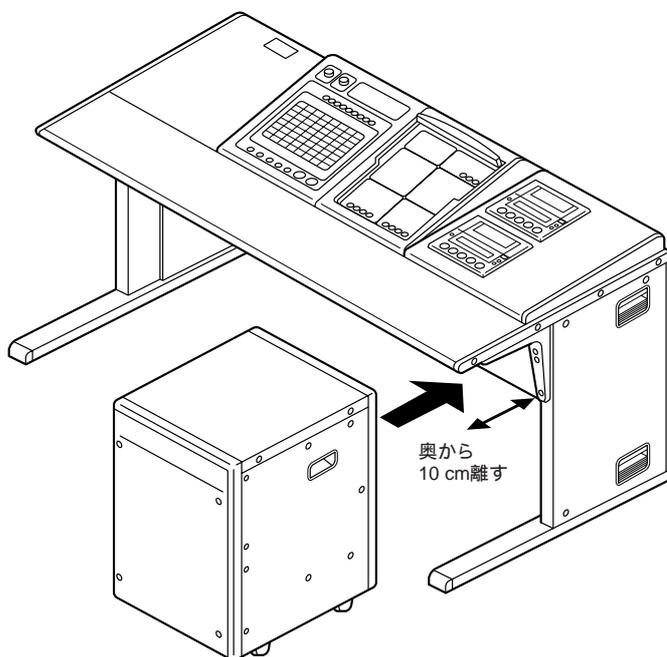
ボタンカバーの下側2ヶ所のツメを先に引っ掛けた後、上側のツメをはめ込みます。



LL プロセッサの設置

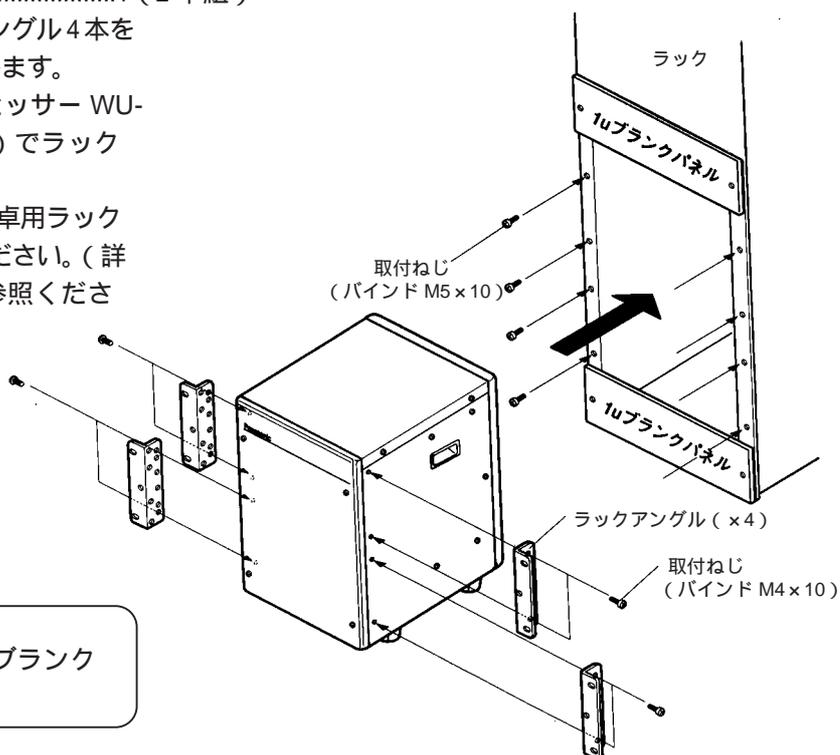
マスター卓の下に設置

- LL プロセッサは、奥から 10 cm 離して通風スペースをあけてください。



ラックへの取り付け

- LL プロセッサ WU-LL50 をラックマウントするときは、次のものが別途必要になります。
ラックアングル (YWA5PB0002A4)4
取付ねじ (バインド M4×10)8
取付ねじ (バインド M5×10)8
 - 袖卓 WE-L190 にラックマウントするときは、上記に加えてさらに次のものが必要になります。
袖卓用ラックアングル (WL-Q08)1 (2本組)
- LL プロセッサ WU-LL50 にラックアングル 4 本を取付ねじ (バインド M4×10) で固定します。
ラックアングルを固定した LL プロセッサ WU-LL50 を取付ねじ (バインド M5×10) でラックに取り付けます。
- 袖卓 WE-L190 に取り付ける場合は、袖卓用ラックアングル WL-Q08 を袖卓に固定してください。(詳しくは、WL-Q08 の取扱説明書をご参照ください。)



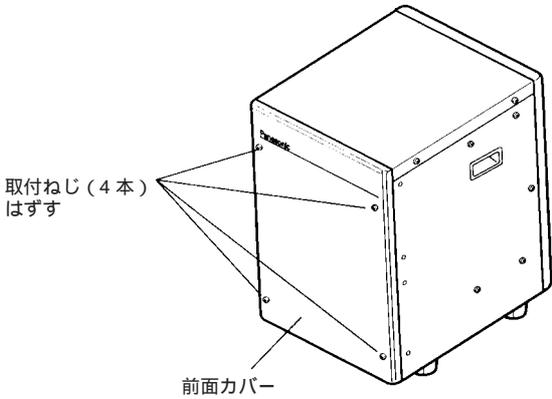
ご注意

LL プロセッサの上下に必ず 1U のブランクパネルを入れてください。

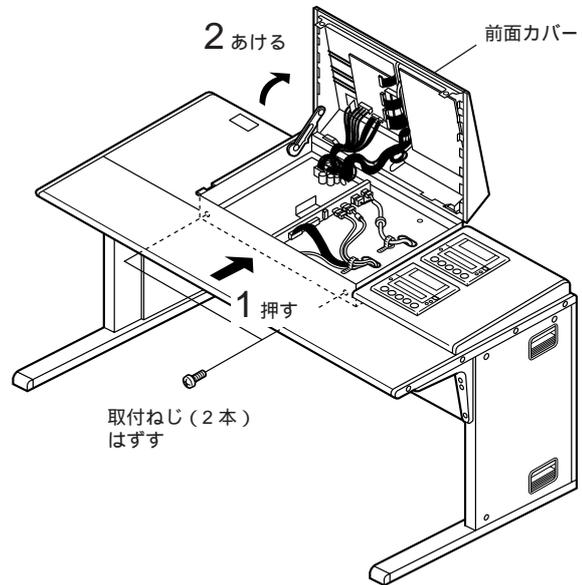
LL 操作ユニットとLL プロセッサの接続

カバーのあけかた

LL プロセッサ

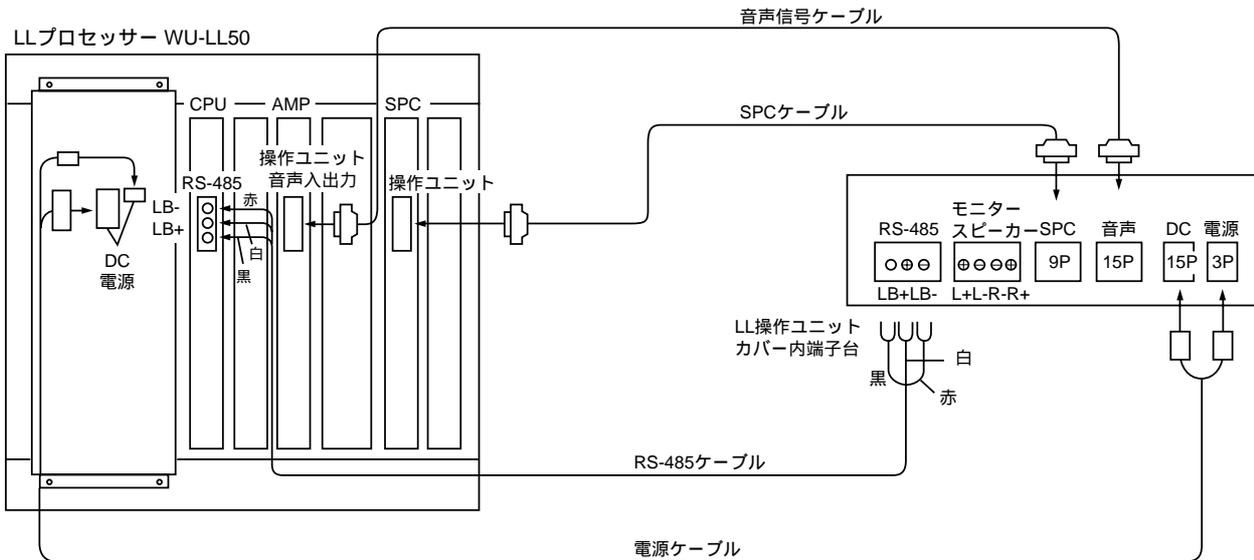


LL 操作ユニット



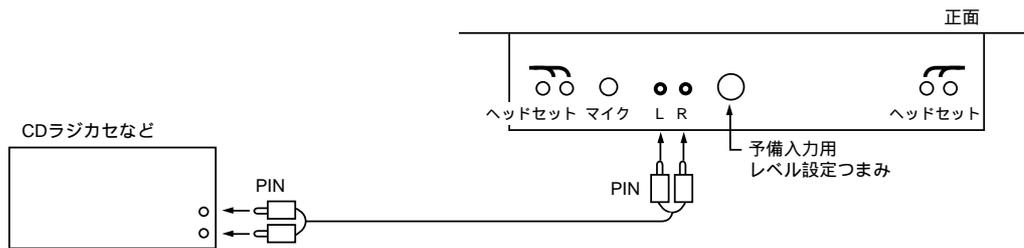
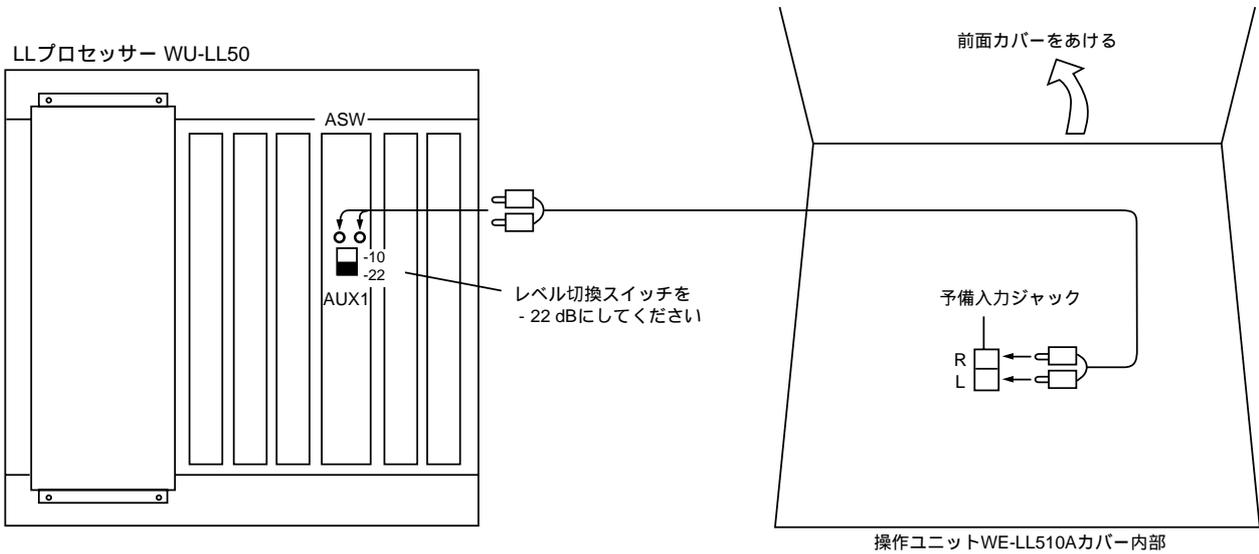
接続のしかた

LL 操作ユニットの上カバーと LL プロセッサの前面カバーをあけます。
下図のように接続します。



予備入力を操作ユニットで使用する場合

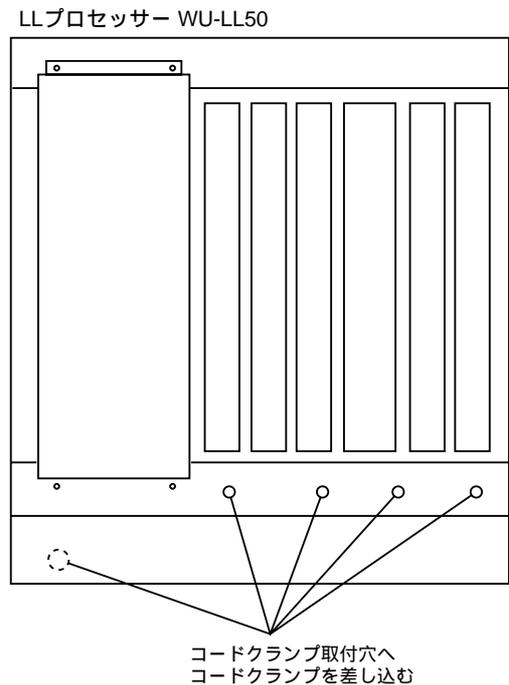
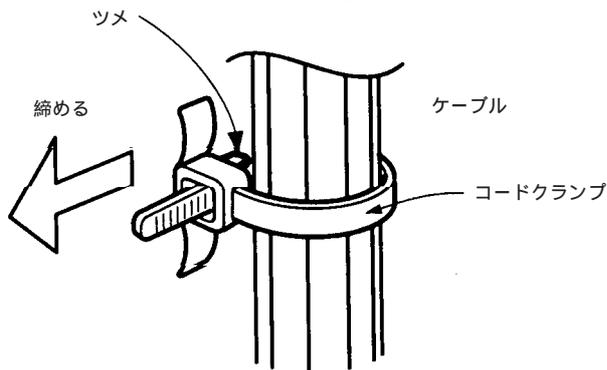
LL 操作ユニットの予備入力ジャックに AUX1 を接続するとき



接続ケーブルの束線について

LL プロセッサに接続したケーブルを束線する場合、次のよう
に行ってください。

- LL プロセッサ WU-LL50 に付属のコードクランプを、コードクランプ取付穴に差し込みます。
- 接続ケーブルを適当な太さに束ねて、コードクランプで束線します。
- 接続したケーブルのクランプをはずす場合は、コードクランプのツメを押すとはずれます。



袖卓の組立とコーナー天板の取り付け

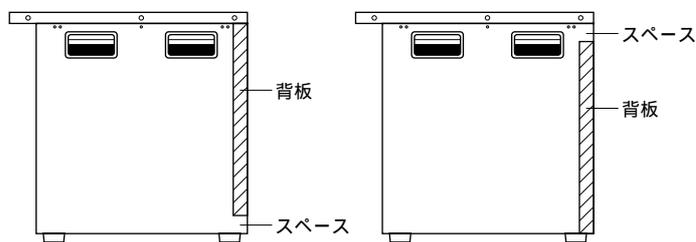
袖卓WE-L190の背板の取り付け

背板は上下を逆に取り付けることでスペース（約25 mm）が背板の上側（テーブル面近く）または下側に来ようように選択できます。

下側スペース外観重視のとき
上側スペース工場出荷状態、通風重視のとき
ケーブルを通すとき

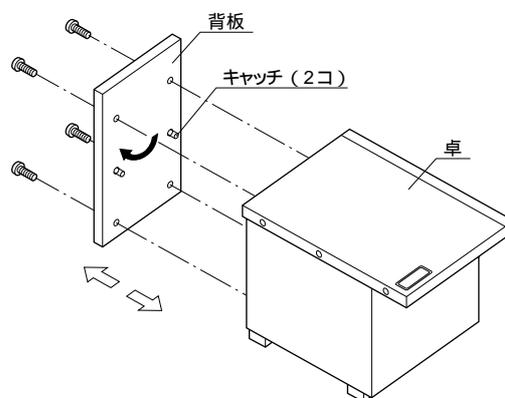
背板のつけかえかた

背板の固定ねじ（4本）を外します。
キャッチで仮止めされている背板を引いて卓から取り外します。
背板の上下を逆にします。
背板を取り付け位置に押し込みます。
（キャッチで仮止めされます。）
固定ねじ（4本）で止めます。



下側スペースのとき

上側スペースのとき

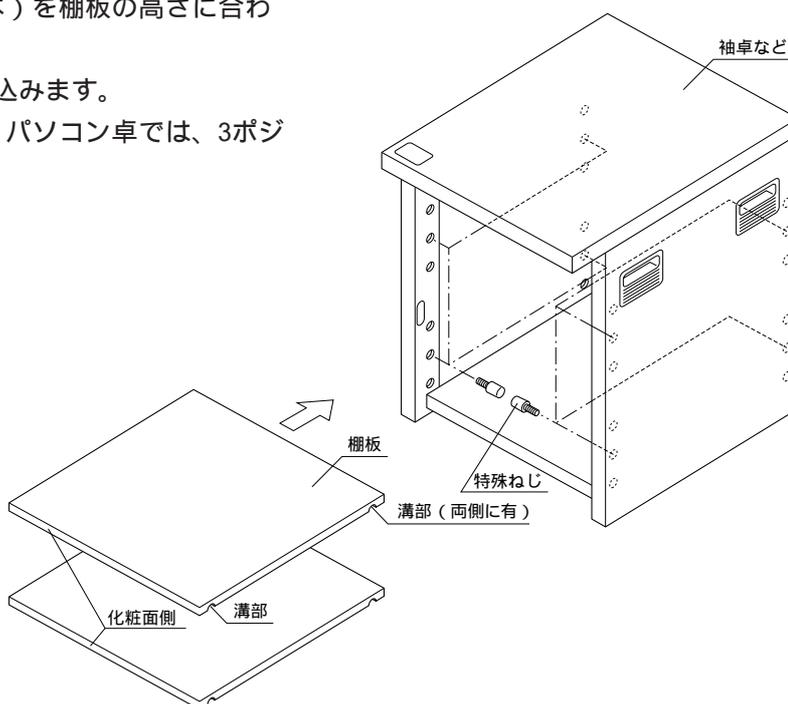


棚板WE-L195の取り付け

棚板（WE-L195）付属の特殊ねじ（8本）を棚板の高さに合わせて取り付けます。

棚板の溝部を特殊ねじに合わせてはめ込みます。

棚板取付位置は袖卓では5ポジション、パソコン卓では、3ポジション選択できます。

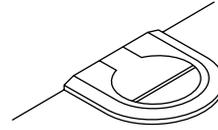


天板の通線孔について

ケーブルの多さで使い分けてください。

ケーブルがないとき

ふたをした状態にします。



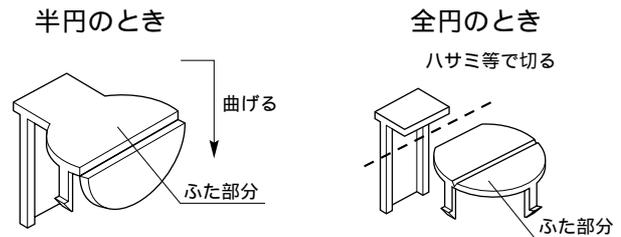
ケーブルが少ないとき（半円の通線孔）

ふたを取り出します。

テーブルを通します。

ふたの中央を下に曲げます。

ふたをします。



ケーブルが多いとき（全円の通線孔）

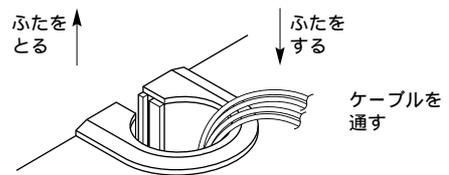
ふたを取り出します。

テーブルを通します。

ふた部分をはさみ等で切り取ります。

ふた（切取った残り）をします。

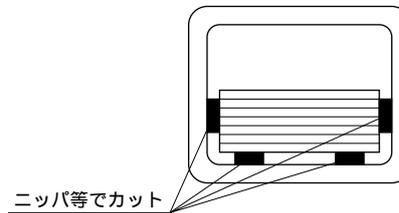
切取ったふたは保管して、必要になったときに使用してください。



側板の通線孔について

側板の把手は、卓を連続して並べるときなど、通線孔としても使用できます。

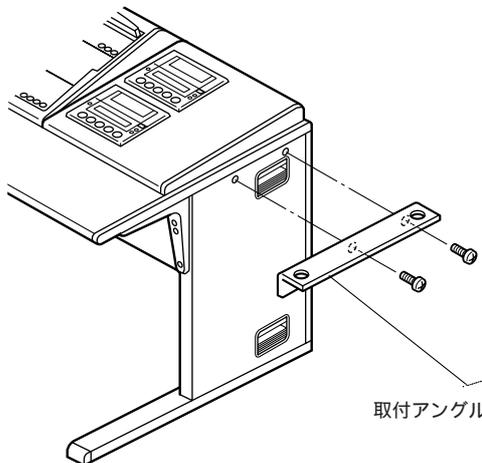
右図の4ヶ所のつなぎ目をニッパ等で切り話して孔を開けます。



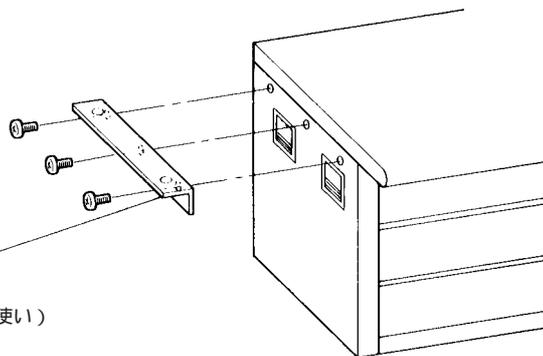
袖卓の組立とコーナー天板の取り付け

コーナー天板 WU-L210A、WU-L220A の取り付けかた

操作卓側面に取付アングルを取り付けます。

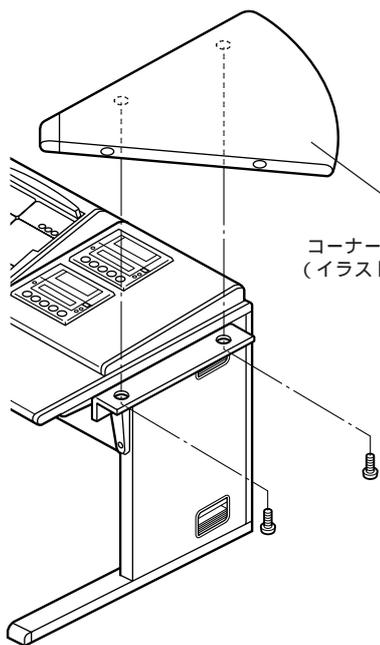


袖卓側面に取付アングルを取り付けます。

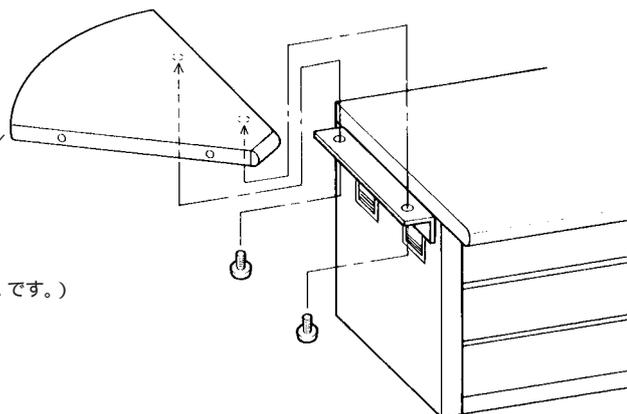


取付アングル (共通 2 個使い)

下から天板をねじ止めます。



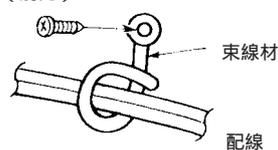
操作卓と結合し、下からねじ止めます。



コーナー天板
(イラストは WU-L220A です。)

配線コードは束線材 (付属品) で所々クランプしてください。

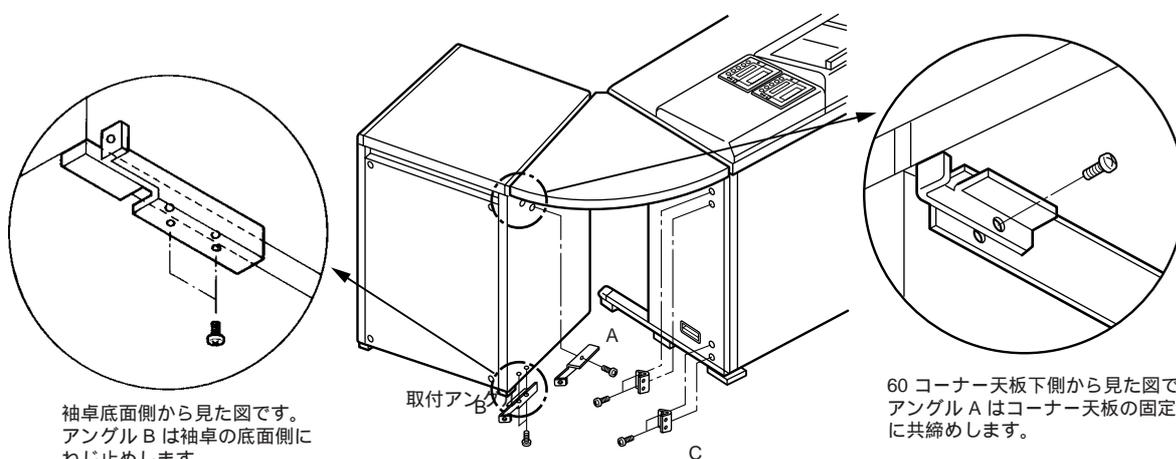
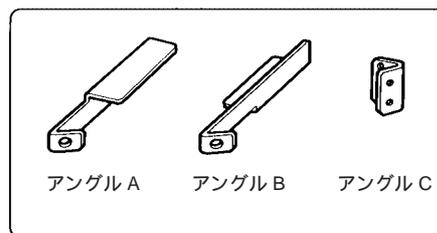
木ねじ (別売)



60 コーナー用リアパネル W2-EP/L210 の取り付けかた

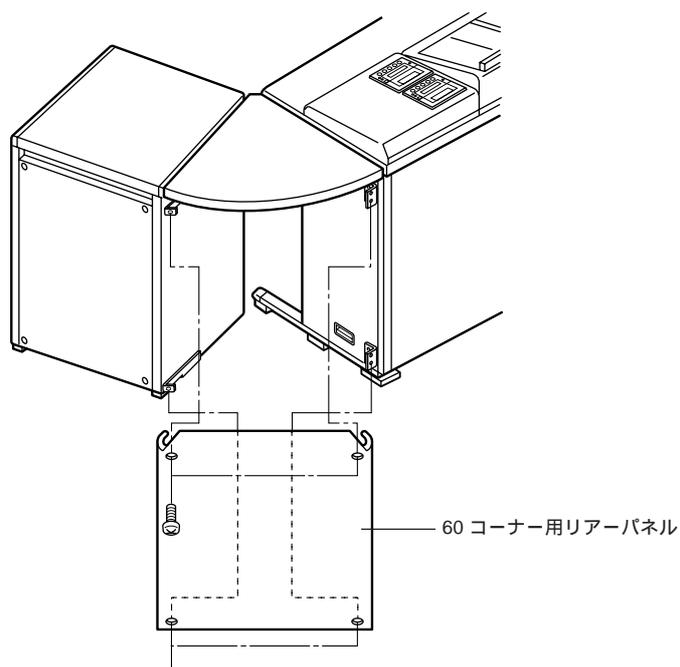
操作卓側面、袖卓側面に取付アングルを取り付けます。

本図と反対側に取り付ける場合、アングル A、
アングル B は図と対称形状のものを使用します。



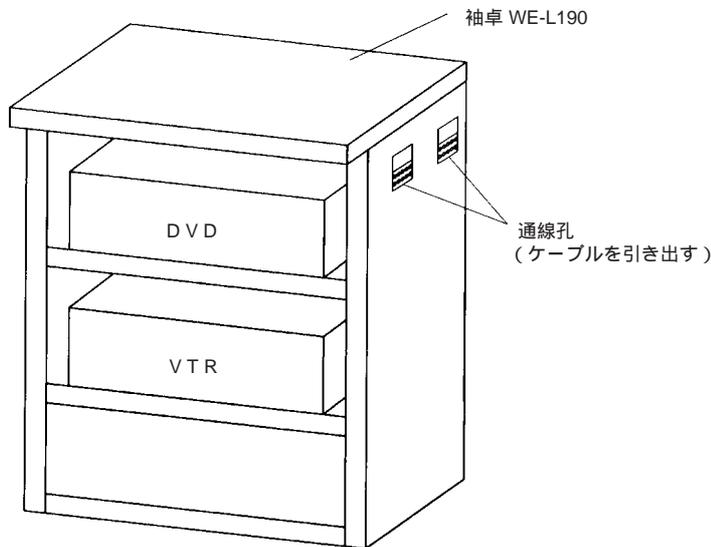
袖卓底面側から見た図です。
アングル B は袖卓の底面側に
ねじ止めします。

60 コーナー天板下側から見た図です。
アングル A はコーナー天板の固定アングル
に共締めします。



VTR、DVD の収納と接続

収納のしかた

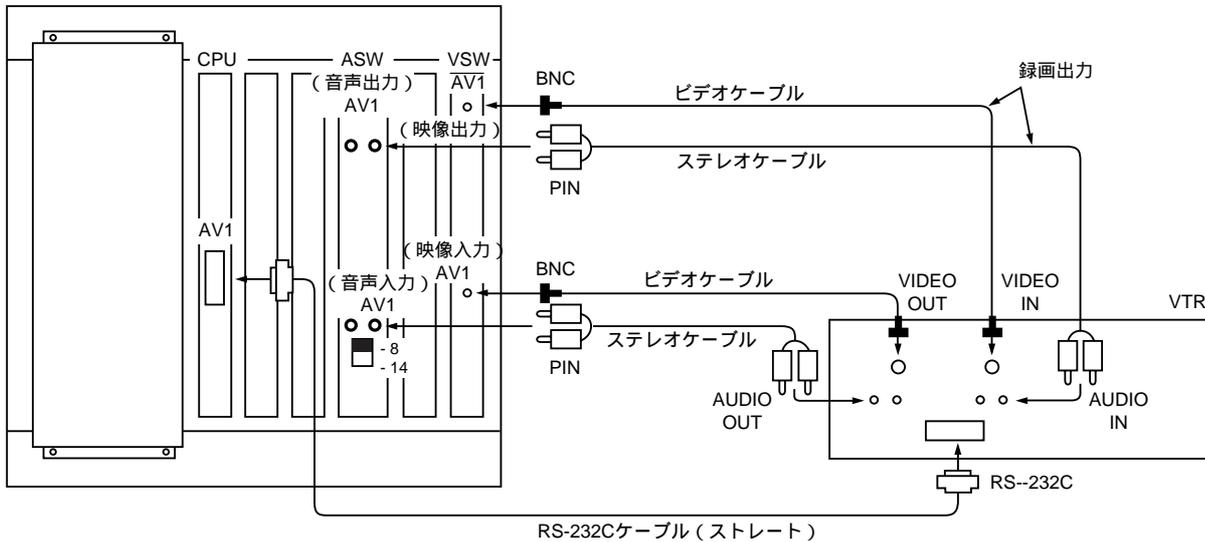


接続のしかた

VTR の接続 (AV1 に接続するとき)

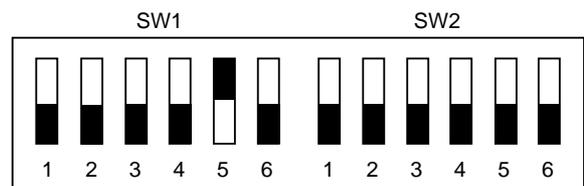
AV1 のレベル切換スイッチ (-8/-14) は、-8 dBV にしてください。

LLプロセッサ WU-LL50



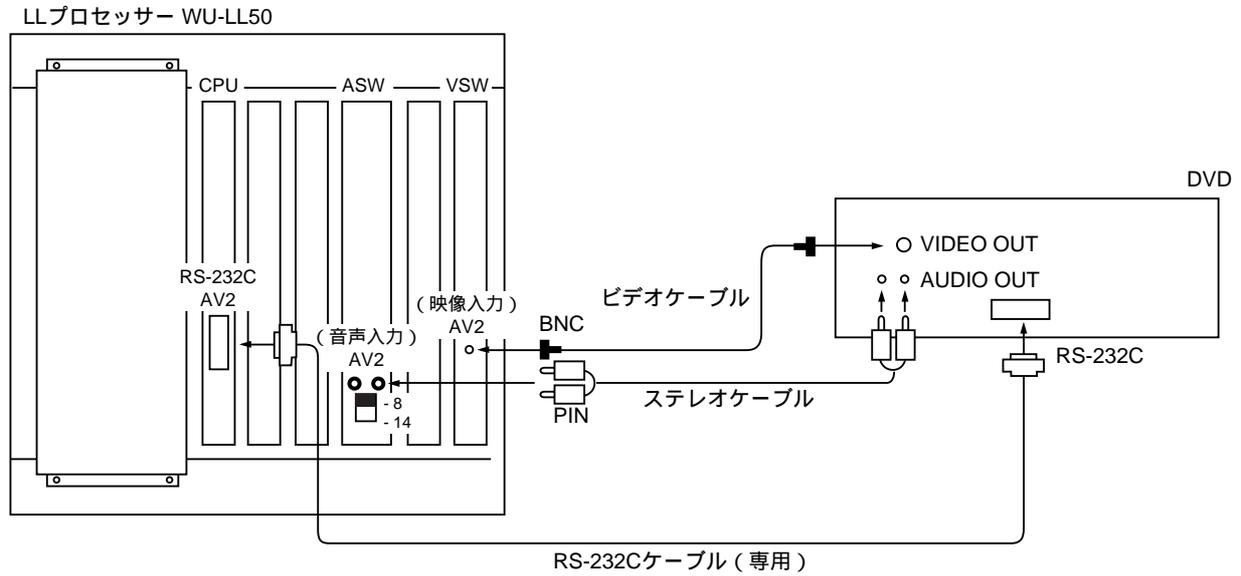
通信速度の設定

- ・ RS-232C インターフェイスアダプター (AG-IA232TC) を右のように設定します。SW1 の 5 番以外は「下」に設定してください。
- ・ 詳細は AG-IA232TC の取扱説明書をご参照ください。
- ・ VTR の電源スイッチは常時 "ON" にしてお使いください。



DVD の接続 (AV2)

AV2 のレベル切換スイッチ(-8/-14)は -8 dBV にしてください。



DVD本体の設定

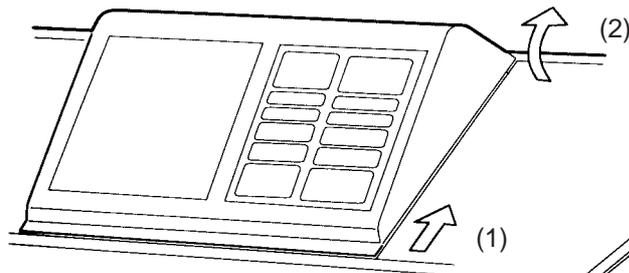
- DVD の「ADV.SETUP」メニューを表示させ、下記設定を行ってください。
 - POWER ON START : タイトル99を入力
(この設定を行わないと、LL操作ユニットの電源投入時に、再生が始まってしまいます)
 - B A U D R A T E : 4 8 0 0 bpsを選択
- 詳細は、DVD-V730 の取扱説明書をご参照ください。

アナライザーパネルの取り付け(WE-LL510A のみ)

LL 表示ユニット WU-LL55A アナライザーパネルを LL 操作ユニットに取り付けます。

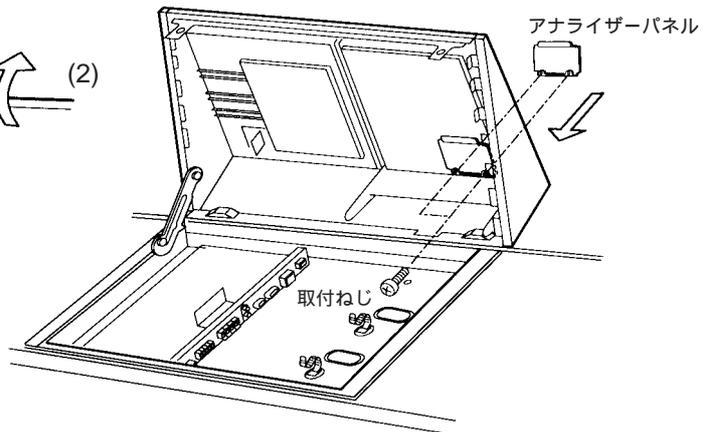
LL 操作ユニットの前面カバーをあけます。

(1) 前面カバーを後方に押ししてスライドさせます。



アナライザーパネルを取り付けます。

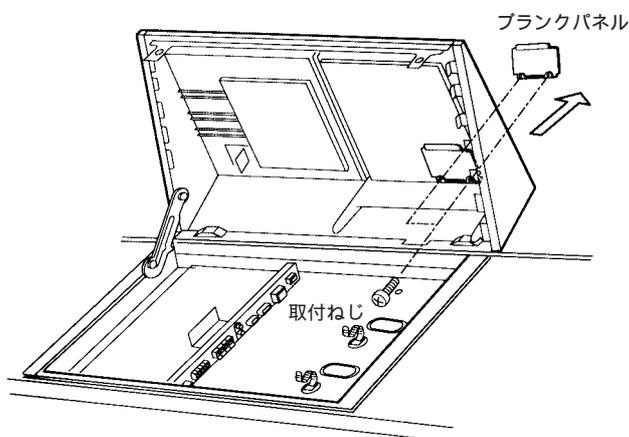
取付ねじで2ヶ所を固定します。



LL 操作ユニットのアナライザー部の

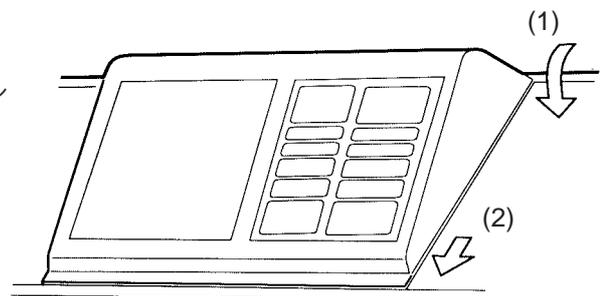
ブランクパネルをはずします。

取付ねじ2ヶ所をはずします。



LL 操作ユニットの前面カバーを元に戻します。

と逆の手順で行います。



(2) 前面カバーを上を持ち上げます。

パソコン関連の接続

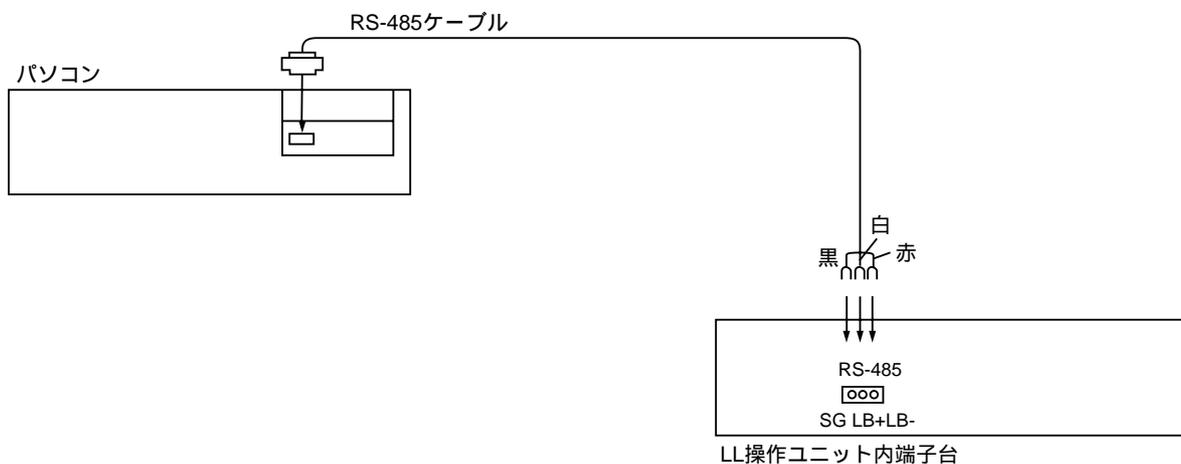
RS-485 カードのパソコンへの装着

パソコンのISAスロットにLL表示ユニット WU-LL55AのRS-485カードを取り付けます。
(WE-LL510A/80には、WU-LL55AのRS-485カードを標準装備しています)
取付方法は、パソコンの取扱説明書をご参照ください。

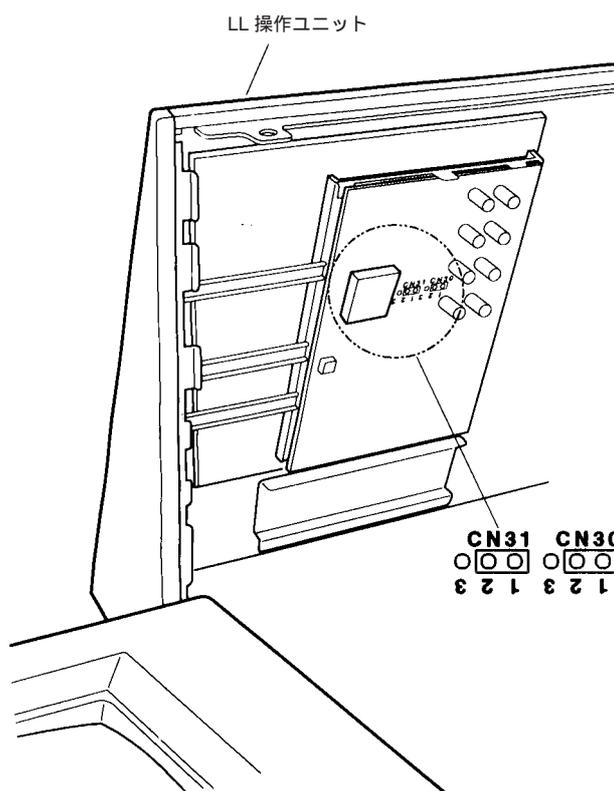
LL 操作ユニットとパソコンの接続

LL 操作ユニットの前面カバーをあけます。
(39 ページ参照)

操作ユニット内の RS-485 の端子台に、パソコンからの RS-485 ケーブルを LL プロセッサからの RS-485 ケーブルと共締めします。



操作ユニット内の CPU 基板の CN30、CN31 の位置を変更します。

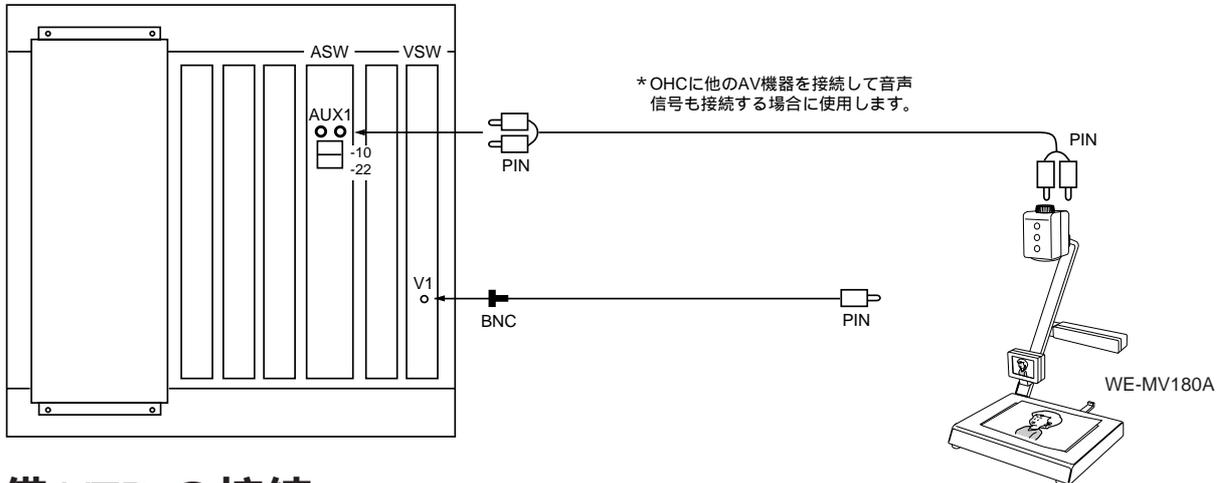


マスター部周辺機器の接続

オーバーヘッドカメラの接続

AUX1のレベル切換スイッチ(-10/-22)は、接続するオーバーヘッドカメラにつながるAV機器の音声出力レベルによって切り換えてください。

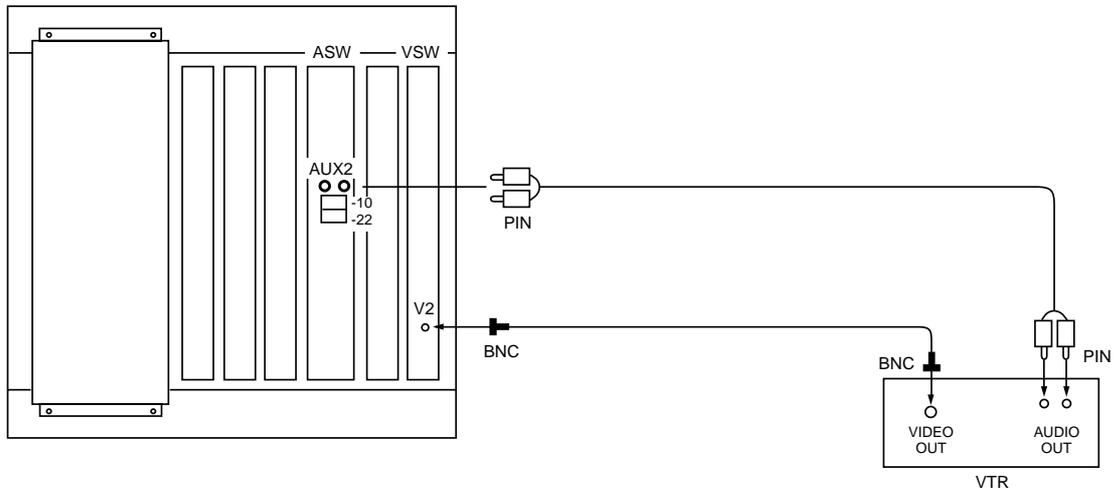
LLプロセッサ WU-LL50



予備 VTR の接続

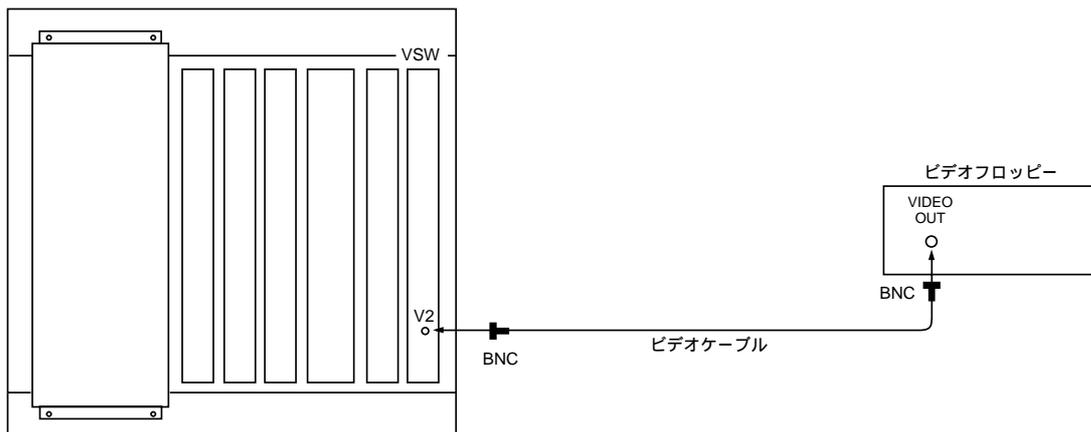
AUX2のレベル切換スイッチ(-10/-22)は、接続するVTRの音声出力レベルによって切り換えてください。

LLプロセッサ WU-LL50



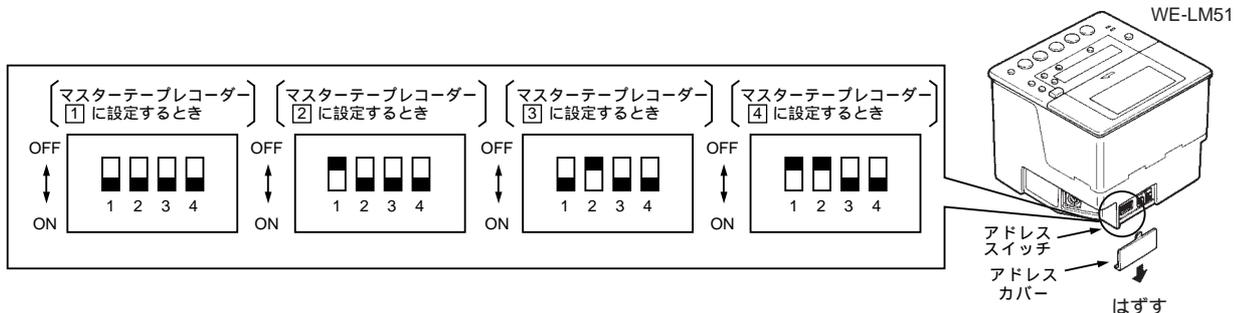
ビデオフロッピーの接続

LLプロセッサ WU-LL50



マスターテープレコーダーの取り付けと接続

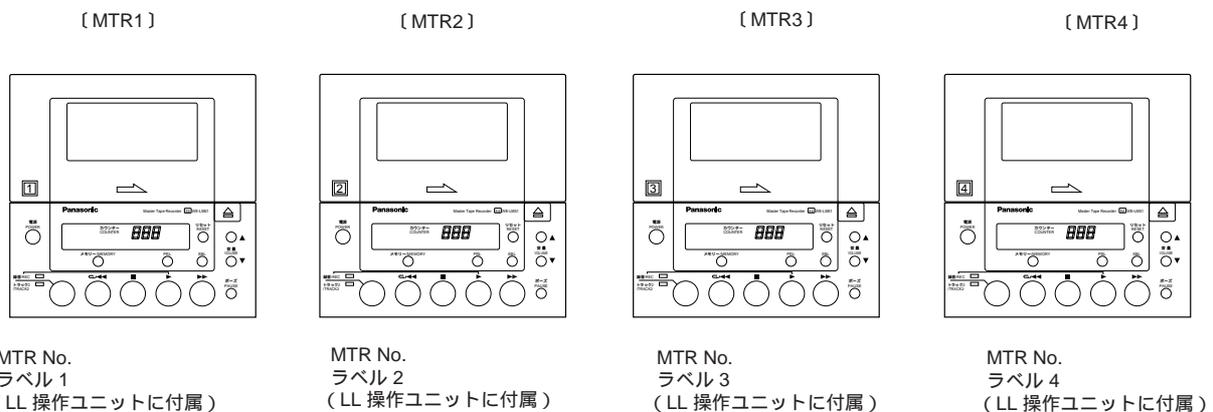
取り付け、接続の前に



ご注意

設置後にアドレスを設定する場合は、必ず電源ユニット（WU-PS20,WU-PS21）の電源を切った状態で行ってください。

① アドレスカバーをはずして、アドレススイッチを図のように設定します。



設定後、MTR No.ラベル 1～4（LL 操作ユニットに付属）をマスターテープレコーダー 1～4 にそれぞれ貼り付けます。

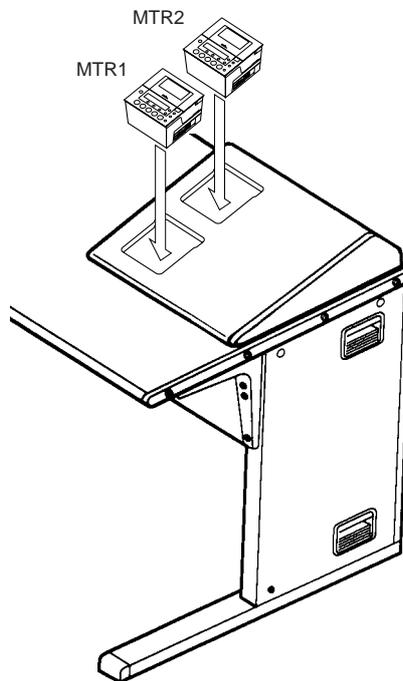
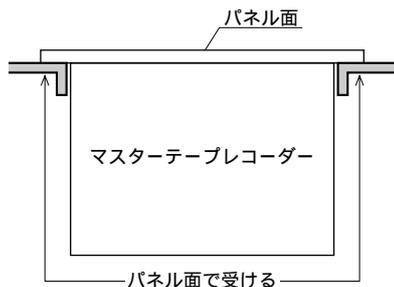
マスターテープレコーダーの取り付けと接続

マスターテープレコーダー (WE-LM51) の収納方法

MTR1, MTR2 の電源配線を行う (5~6ページ参照)。

MTR1 を前側、MTR2 を後側に収納する。

③ 収納後、各ケーブルの接続を行う。



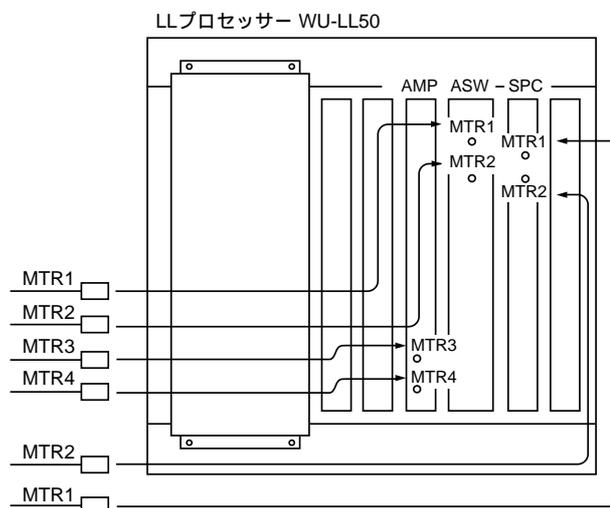
接続方法 (5ページ参照)

MTR1 の音声リモコンケーブルは ASW の "MTR1" に、MTR2 の音声リモコンケーブルは ASW の "MTR2" に接続します。

MTR1、MTR2 の電源コードは、LL プロセッサ内の AC ソケットに接続します。

MTR1 の SPC ケーブルは、SPC の MTR1 に、MTR2 の SPC ケーブルは、SPC の MTR2 に接続します。

MTR3 と MTR4 の音声リモコンケーブルは、AMP の "MTR3" と "MTR4" に接続します。

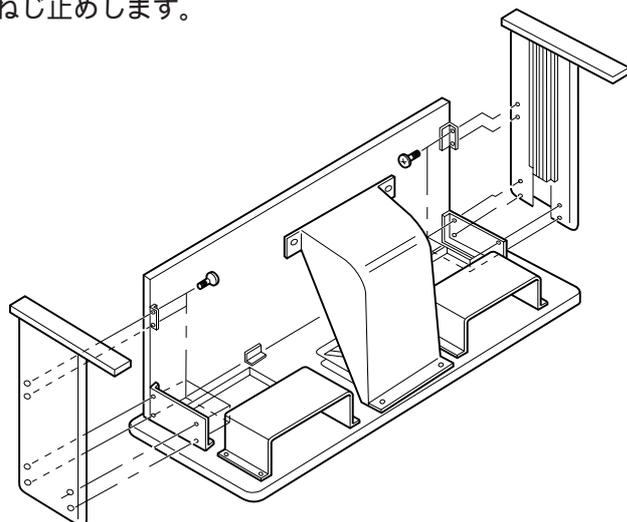


ブース卓の組み立て

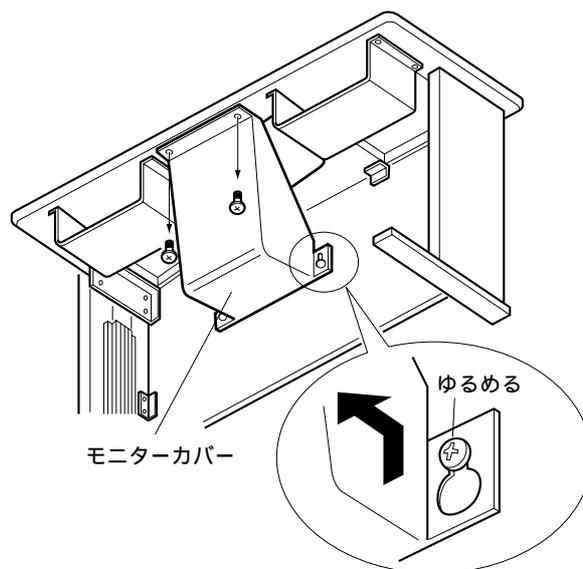
ブース卓 WE-L152A (WE-L150Aの場合は、WE-L150Aの取扱説明書をご参照ください)

両脚を取り付けます。

付属ねじ (M4×8) を 12 本使用し、内側からねじ止めします。

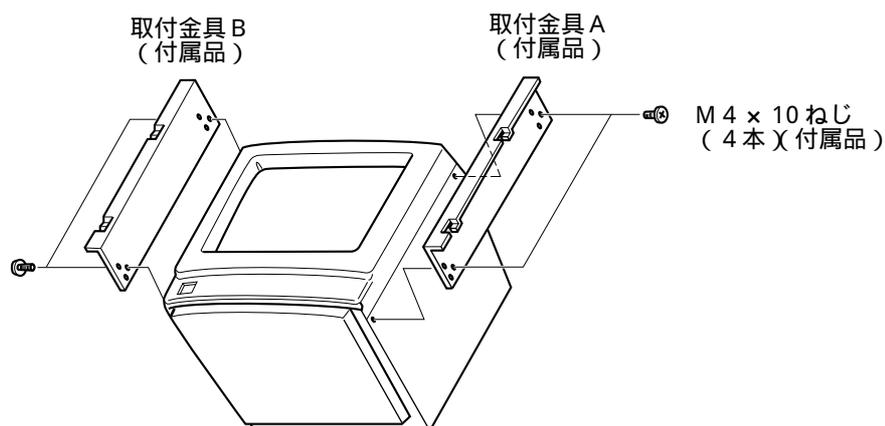


モニターカバーの上側のねじ 2 本を外し、下側のねじ 2 本をゆるめて、モニターカバーを矢印方向に持ち上げ、手前に引いて外します。



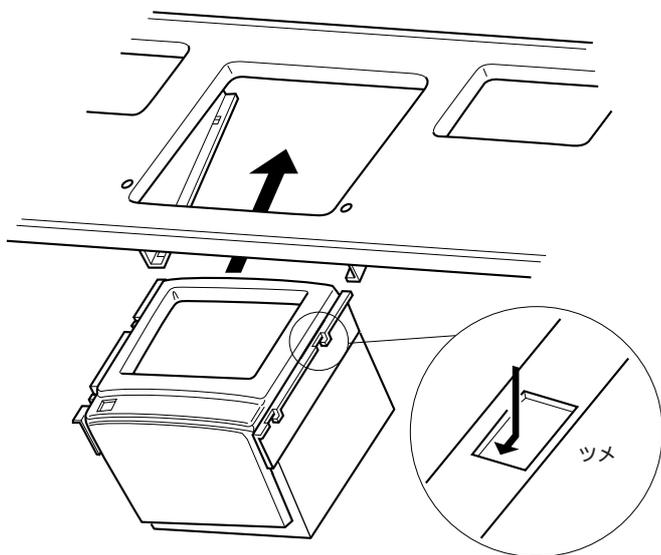
モニターテレビにモニター取付金具を取り付けます。

WV-CM1430 の場合



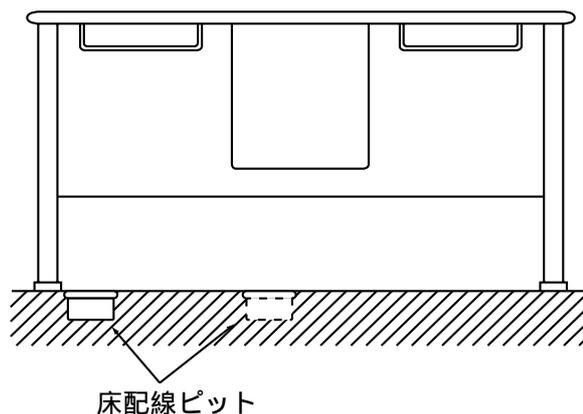
ブース卓の組み立て

モニターテレビを卓の金具の上から矢印方向に入れ、ツメを引っかけて少し手前に引き、固定します。



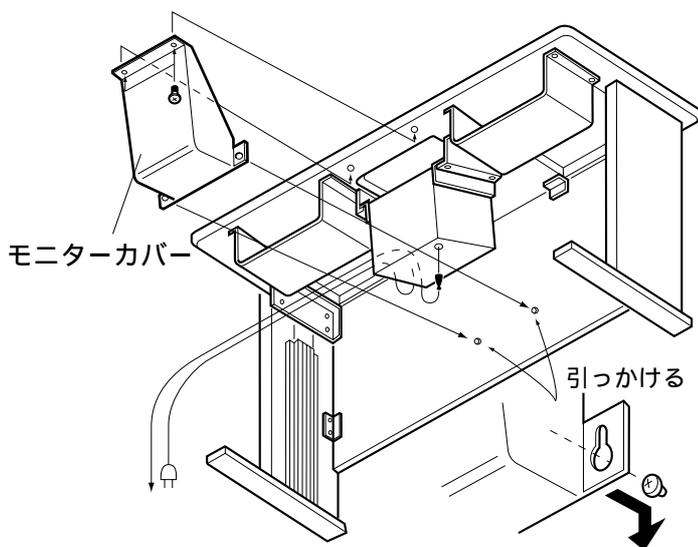
床配線ピットにブース卓の脚がくるように設置します。

やむなく床配線ピットの位置がブース卓の脚間中央に位置する場合は、ケーブルカバーを使用して配線してください。(58ページ参照)

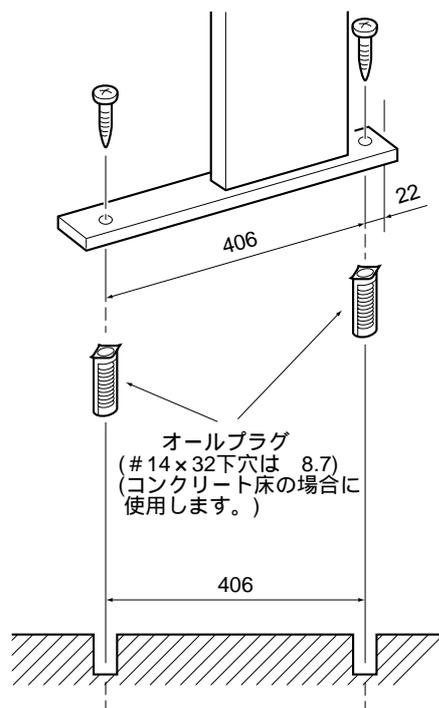


モニターケーブルを接続し、モニターカバーを取り付けます。モニターカバーは、先に下側のねじに引っかけて、上側ねじをしめてから、下側ねじをしめてください。

ケーブルは所々クランパーでクランプしてください。



付属のねじを使って図のように床にブース卓を固定します。



ブーステーブルレコーダーの取り付けと接続

取り付けの前に

ブーステーブルレコーダーのアドレス番号を設定します。(58 ページ参照)

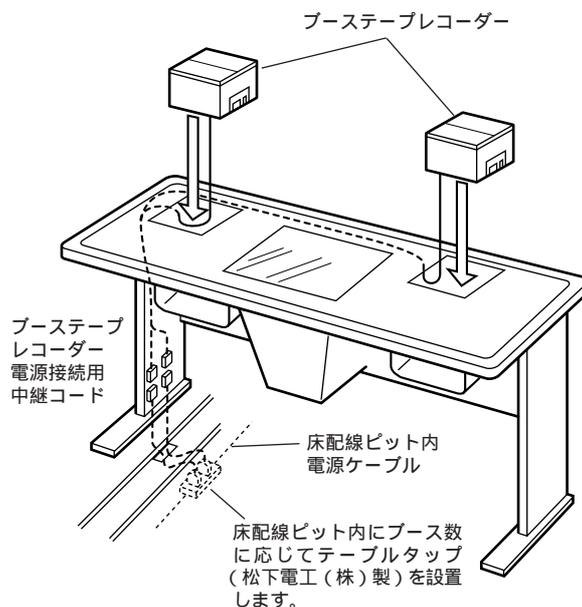
取付方法

電源配線を行ったブーステーブルレコーダーを静かに入れます(6ページ参照)。

* このとき、ブーステーブルレコーダー用開口部の下から一方の手を入れブーステーブルレコーダーを支えて、そっと落とし込んでください。

ご注意

ブーステーブルレコーダーの設置は水平にしてください。

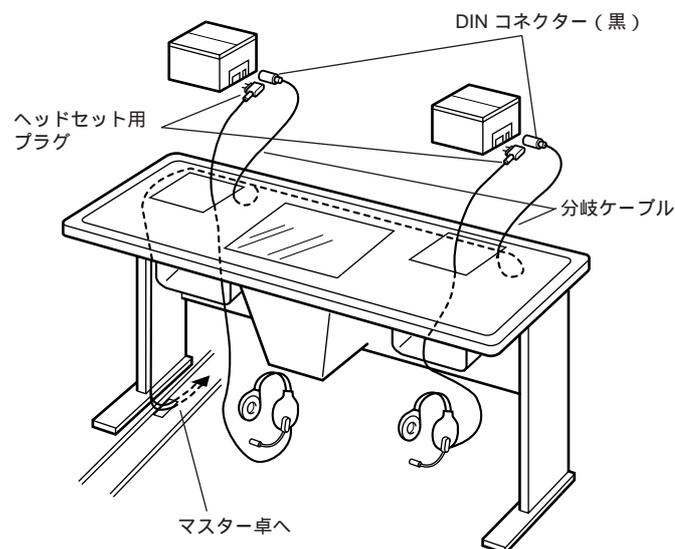


接続方法

分岐ケーブルの14P DINコネクター(丸型)をそれぞれのブーステーブルレコーダーに接続します。

ヘッドセットをそれぞれのブーステーブルレコーダーに接続し、ブース卓下のヘッドセット収納部に置きます。

* ブース卓のブーステーブルレコーダー用カバーを収納したときに、分岐ケーブルが邪魔にならない位置に固定します。



ご注意

分岐ケーブルを接続するときは、接続位置を間違えないように、あらかじめ分岐ケーブルの両端にブース位置を書いた紙をセロハンテープなどで貼り付けておいてください。

ブーステーブルレコーダーの取り付けと接続

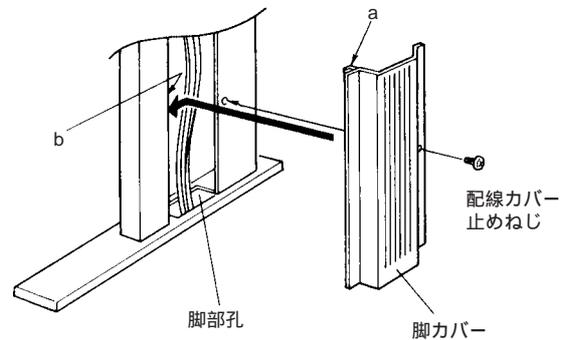
-1 配線ダクトを使用しない場合

(WE-L152A の場合)

- ・ ブース卓の脚カバー止めねじ 1 本を外し、配線カバーを外します。
- ・ ケーブル類を脚部の底より立ちあげ、凹部に押し込んでから脚カバーを元通り取り付けます。

ご注意

脚部の片側端面 b に、脚カバーの溝 a を差し込んでから、ねじで固定します。



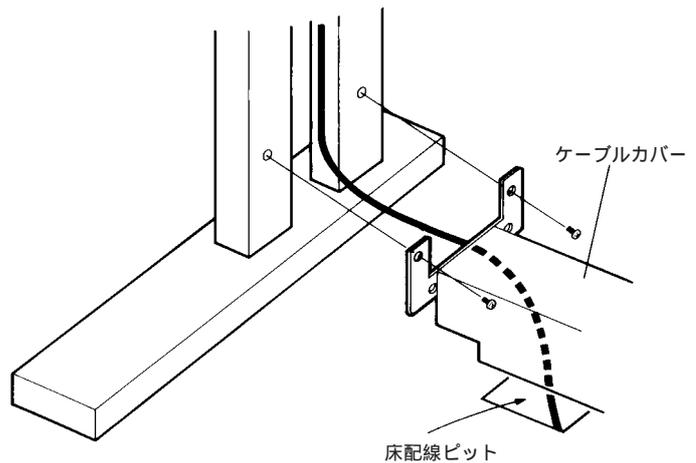
-2 配線ダクトを使用する場合

(WE-L152A の場合)

床配線ピットがブース卓の脚から離れているときは、配線ダクト(別売工事部品)を使用してください。

配線ダクト品番

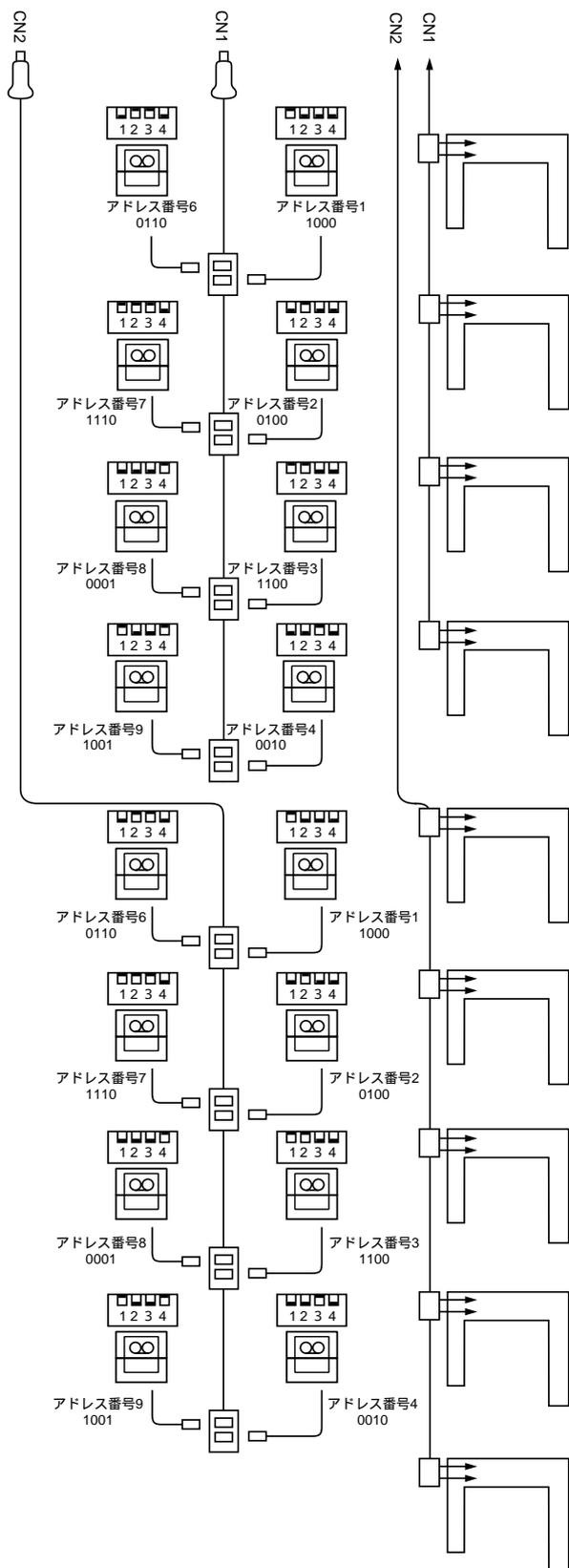
ケーブルカバー : W2-CDE/L152 (WE-I152A用)



ブースユニットのアドレス設定

8 行 × 8 列のとき

ブーステーブルコーダーのとき



ブーステーブルコーダーは取り付けの前にそれぞれのアドレス番号を設定します。

ブーステーブルコーダーのアドレススイッチ	アドレス番号										コード番号 に対応する アドレス番号
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0001
2	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	
3	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	
4	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	

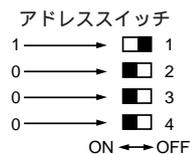
1-4はアドレススイッチの表示

0 のとき、スイッチは ON 側、ジャンパー線はそのまま（ショート状態）です。

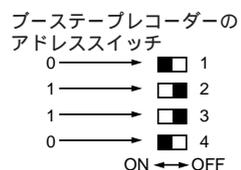
出荷時ブーステーブルコーダーは、全て ON 側になっています。

[例]

- ・アドレス番号 1（コード番号 0001）を設定するには、スイッチ 1 を OFF 側にします。
- ・アドレス番号 6（コード番号 0110）を設定するには、



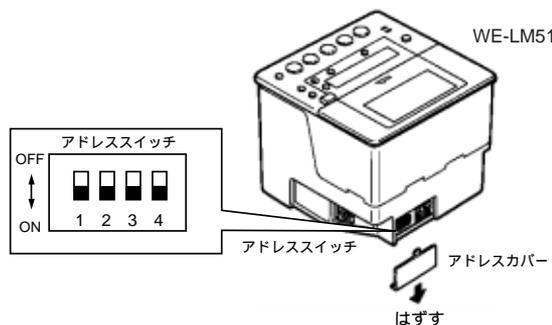
スイッチ 2、3 を OFF 側にします。



(注) アドレスの 5 と 10 は使用しません。

アドレス設定のしかた

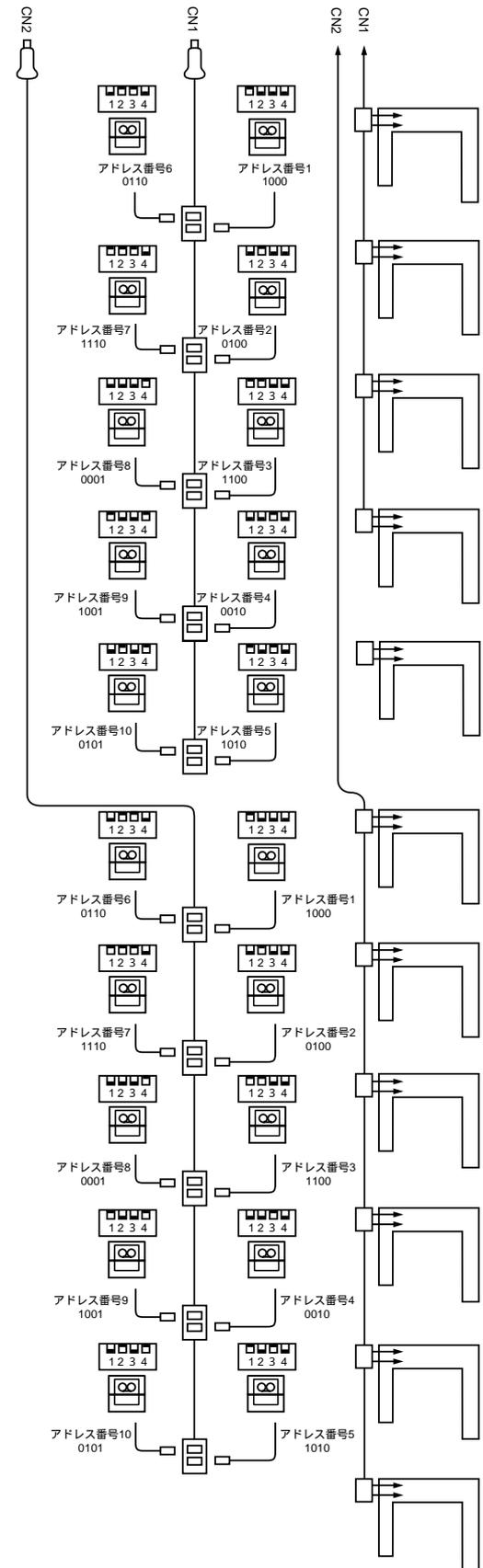
- ・アドレスカバーをはずし、アドレス番号（コード番号）に従って設定します。
- ・終わったら、アドレスカバーを元に戻します（6ページ参照）。



ブースユニットのアドレス設定

10 行 × 8 列のとき

ブーステーブルコーダーのとき



ブーステーブルコーダーは取り付けの前にそれぞれのアドレス番号を設定します。

ブーステーブルコーダーのアドレススイッチ	アドレス番号										コード番号	アドレス番号に対応する	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1000	
2	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0110		
3	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0			1100
4	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1			
ON ↔ OFF													

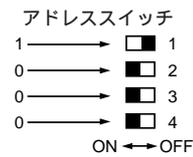
1-4はアドレススイッチの表示

0 のとき、スイッチは ON 側、ジャンパー線はそのまま（ショート状態）です。

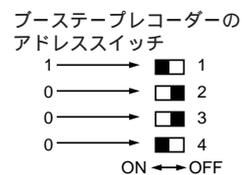
出荷時ブーステーブルコーダーは、全て ON 側になっています。

[例]

- ・アドレス番号 1（コード番号 0001）を設定するには、スイッチ 1 を OFF 側にします。



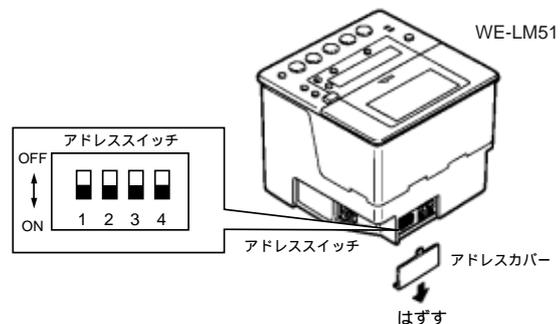
- ・アドレス番号 6（コード番号 0110）を設定するには、スイッチ 2、3 を OFF 側にします。



アドレス設定のしかた

アドレスカバーをはずし、アドレス番号（コード番号）に従って設定します。

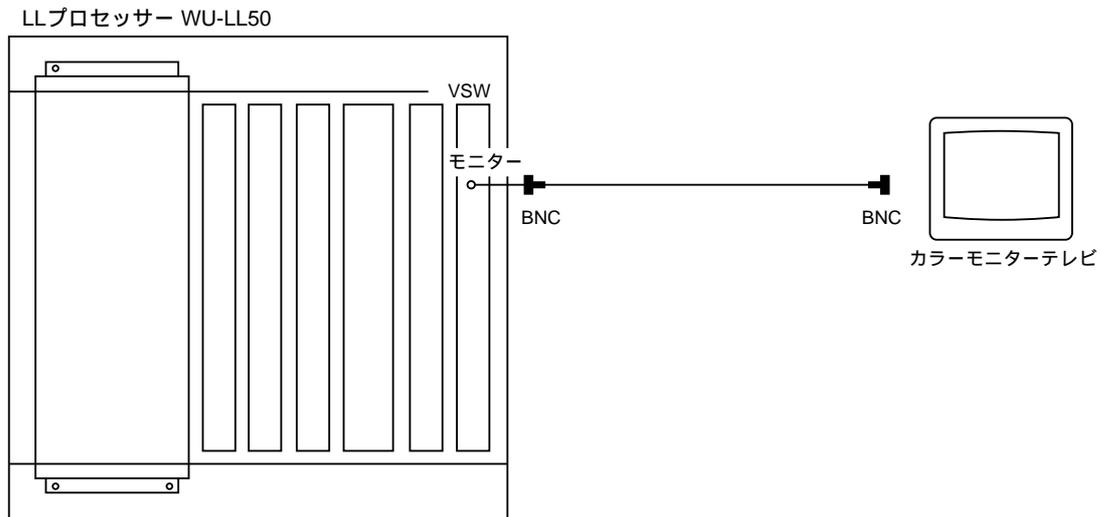
終わったら、アドレスカバーを元に戻します（6ページ参照）。



先生用モニターテレビの接続

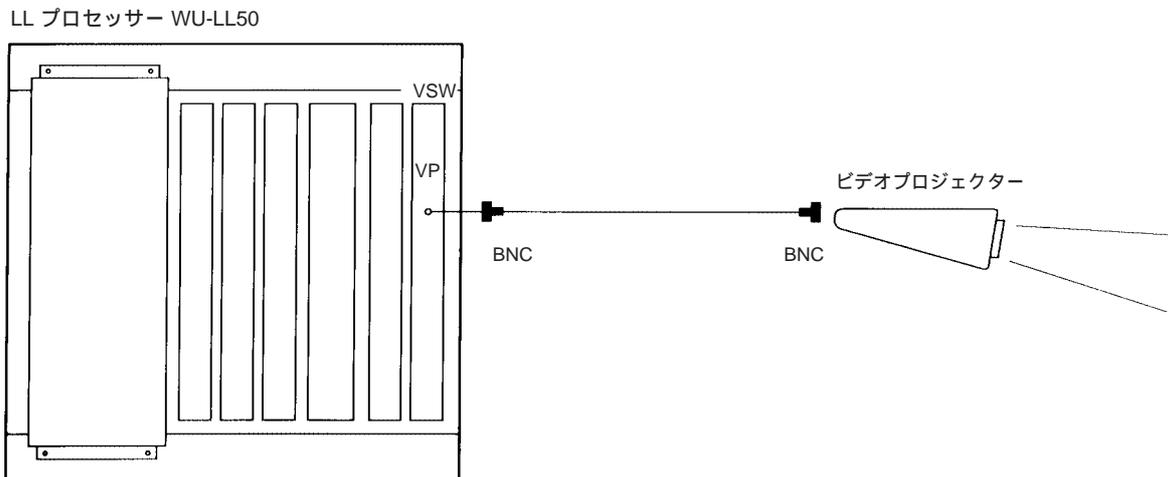
LL プロセッサ WU-LL50 の前面パネルをはずします。
(42 ページ参照)

カラーモニターテレビと LL プロセッサのモニター
端子を接続します。



ビデオプロジェクターの接続

LL プロセッサ WU-LL50 の前面パネルをはずします。(42 ページ参照)
ビデオプロジェクターと LL プロセッサの VP 端子を接続します。



VP コントロール端子

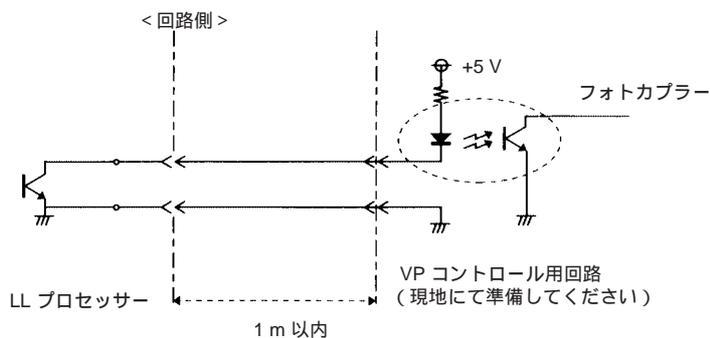
LL 操作ユニット WE-LL510A の VP 送り出しスイッチ (V1/V2/AV1/AV2) のいずれかを押すと、VP 送出がオンの間 VP コントロール端子がメイクされます。
トランジスタのオープンコレクター出力です。

負荷条件 DC5 V ~ DC 12 V
負荷電流 最大 80 mA

ご注意

本出力で他の機器を制御するときには、別に回路が必要です。

- ・制御線は 1 m 程度にしてください。

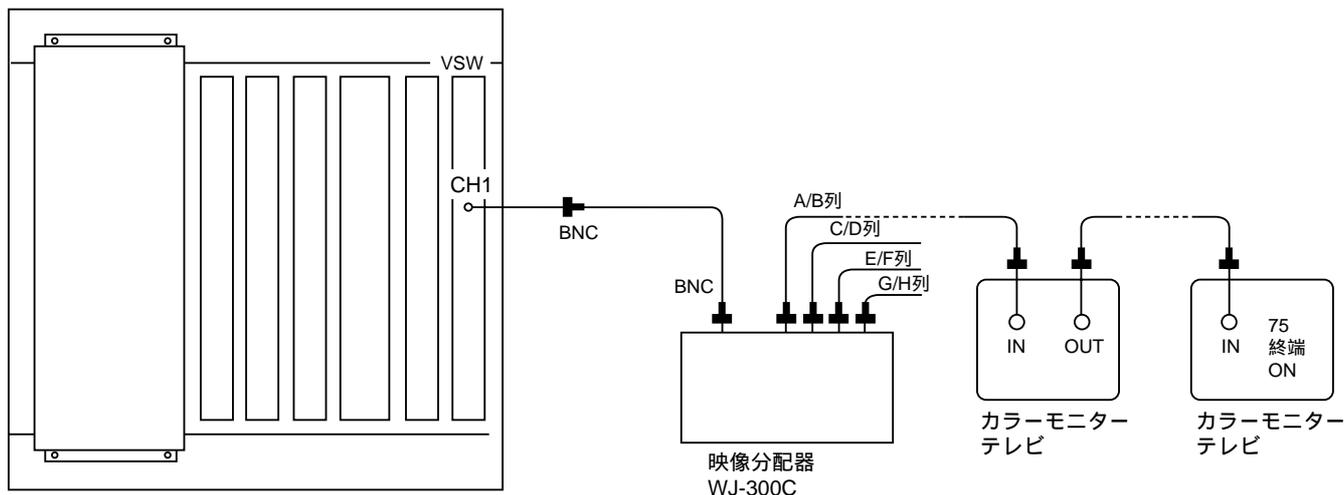


ブース用モニターテレビの接続

一斉授業により映像を使用する場合 - 1

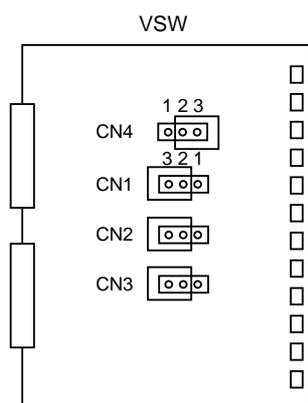
映像分配器を使用します。

LLプロセッサ WU-LL50



- ・ エキスパート設定で複数チャンネルを設定すると、V1 の映像が CH1 出力に出るためブースのモニターテレビに V1 の映像が出力されます。エキスパート設定で複数チャンネルを設定することが多い場合は、複数チャンネルによる映像を利用する場合（66 ページ）をご参照ください。
- ・ 1 ラインからの映像入力を複数のモニターテレビに分配する場合の方法は映像分配器 WJ-300C の取扱説明書をご参照ください。
- ・ LL 操作ユニットのディップスイッチ設定で、“ビデオランダムユニット”を“接続しない”にしてください。（67 ページ参照）

このとき複数チャンネルに設定すると下記の設定になります。



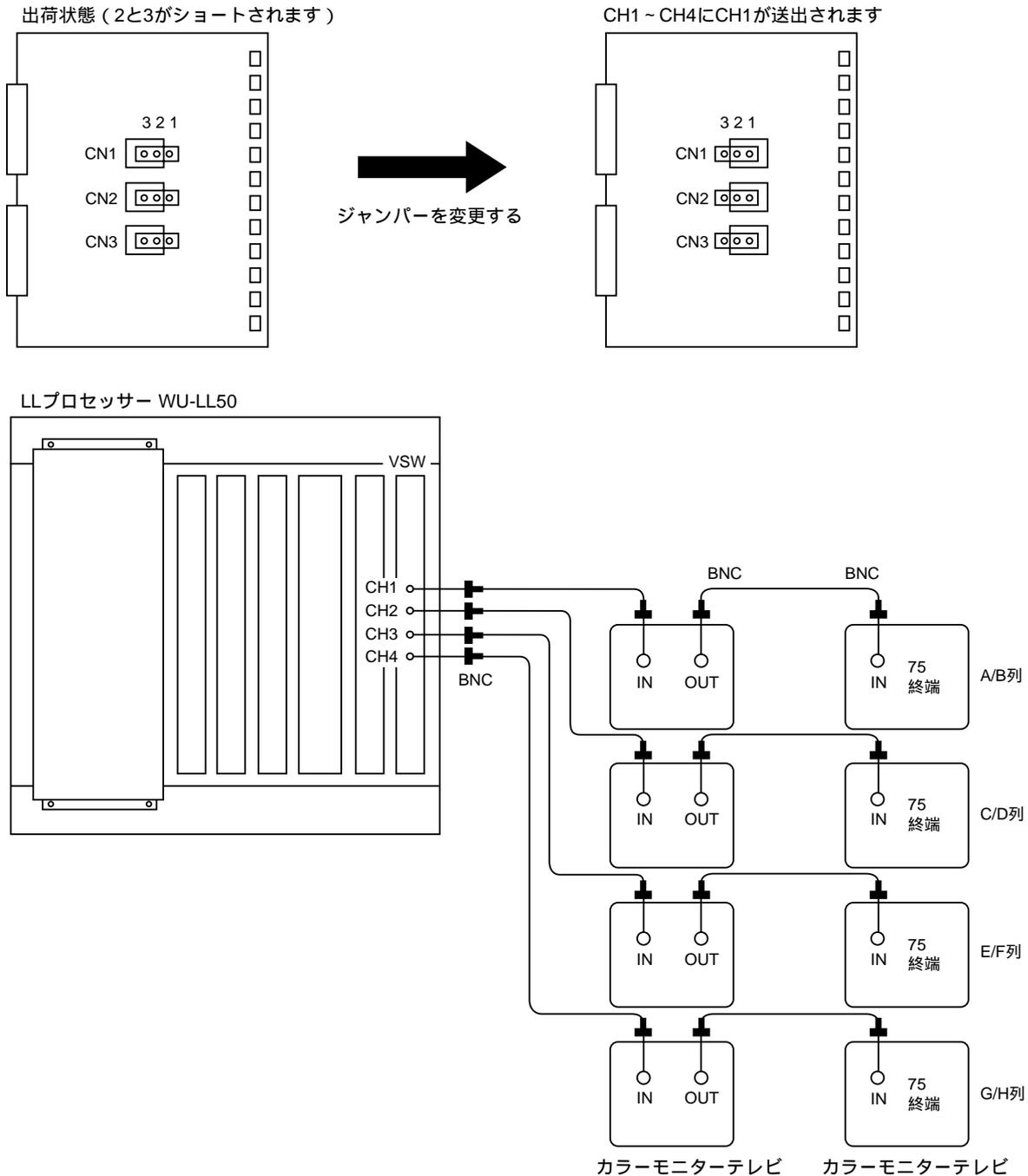
(出荷状態)

- (1) VSW 基板 CN4 のピン 2 と 3 をショートさせると、CH1 に VP 出力と同じものが出力されます。
- (2) VSW 基板 CN4 のピン 1 と 2 をショートさせると、CH1 の出力は下記ようになります。
 - (A) REC 入力があるモニターするとき
CH1 の出力は先生モニターの操作に連動して切り換わります。
 - (B) REC 入力がある教材のとき
CH1 の出力はブース出力に連動して切り換わります。

ブース用モニターテレビの接続

一斉授業により映像を使用する場合 - 2

エキスパート設定で複数チャンネルを設定しないで授業する場合は、以下の方法により、映像分配器を使用しないで配線できます。



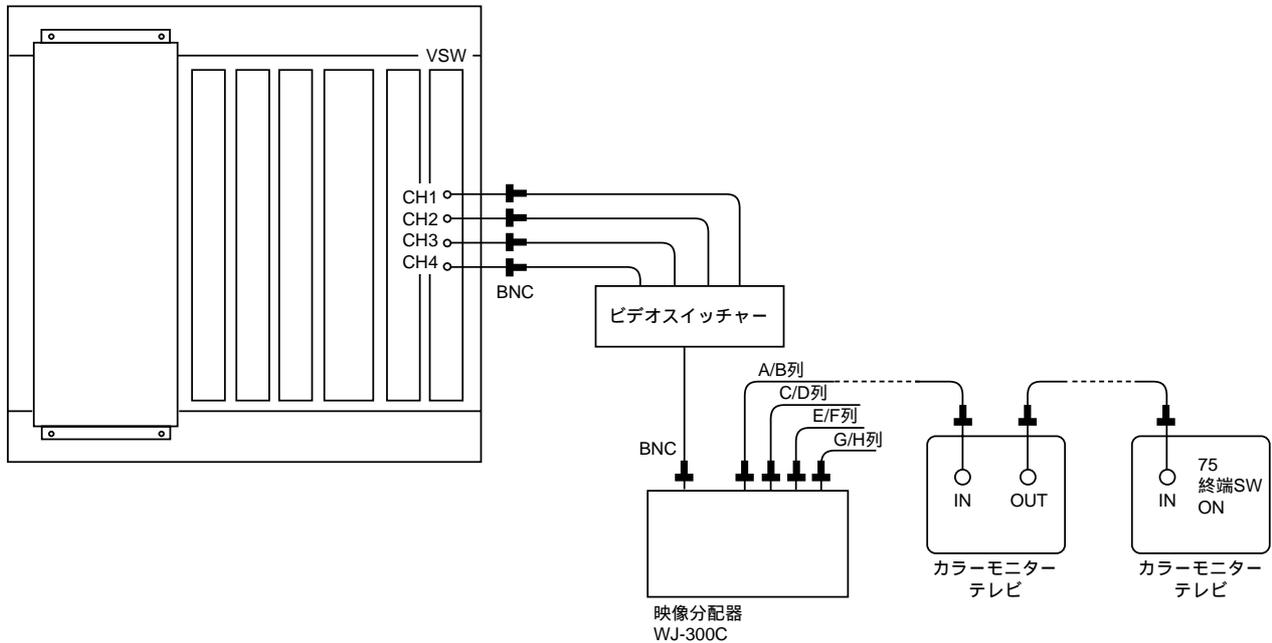
ご注意

- ・1ラインに接続できるモニターテレビは8台までです。(WE-LL510A/80の時は10台までです)
- ・最後のモニターテレビで終端してください。
- ・1つの教室内で配線して他の教室などへ延長するときは、映像分配器を接続してください。
- ・エキスパート設定で複数チャンネルを設定すると、エキスパート設定を変更する(電源を切って、別のエキスパート設定をする)まで、V1の映像が送出されます。(ビデオランダムユニット“接続する”のとき)

複数チャンネルにより映像を利用する場合 - 1

必要により、別途ビデオスイッチャーをご準備ください。

LLプロセッサ WU-LL50



ご注意

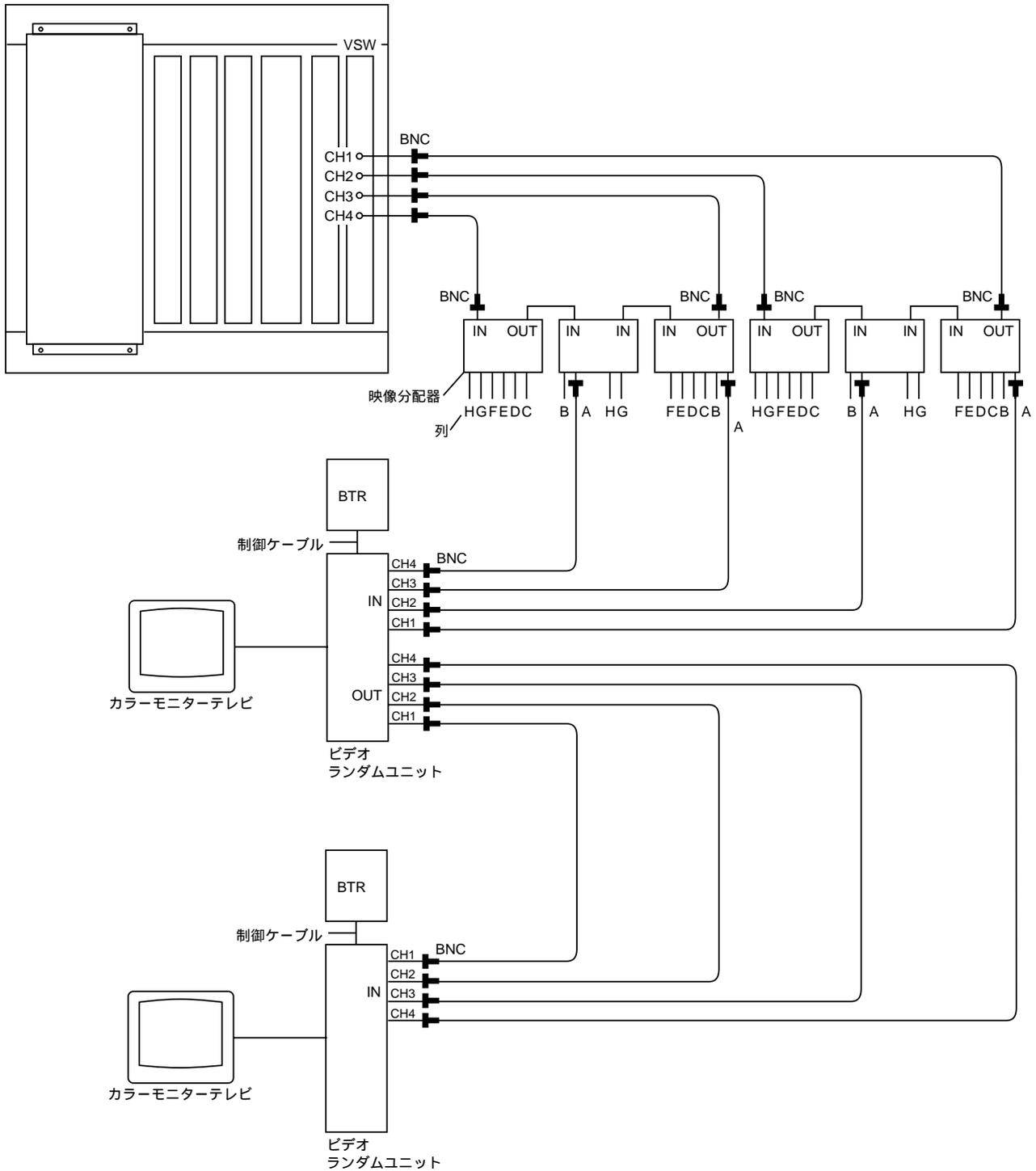
- ・ VSW のジャンパーは出荷設定にしてください。
- ・ 一斉モードのときは、ビデオスイッチャーを CH1 にしてください。
- ・ ブースのモニターテレビに出力されている映像と、ブーステープレコーダーの音声不一致することがあります。
- ・ LL 操作ユニットのディップスイッチ 1 の設定でビデオランダムユニットを “ 接続する ” にしてください。(67 ページ参照)

ブース用モニターテレビの接続

複数チャンネルにより映像を利用する場合 - 2

生徒 1 人に 1 台のモニターテレビを使用します。

LLプロセッサ WU-LL50



ビデオランダムユニットとビデオランダムユニット制御用 BTR については、別途 AV システム (事) へお問い合わせください。

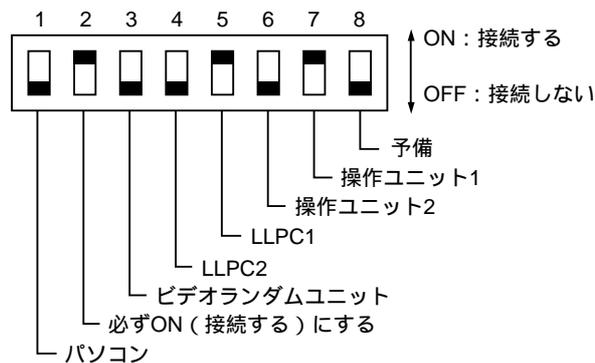
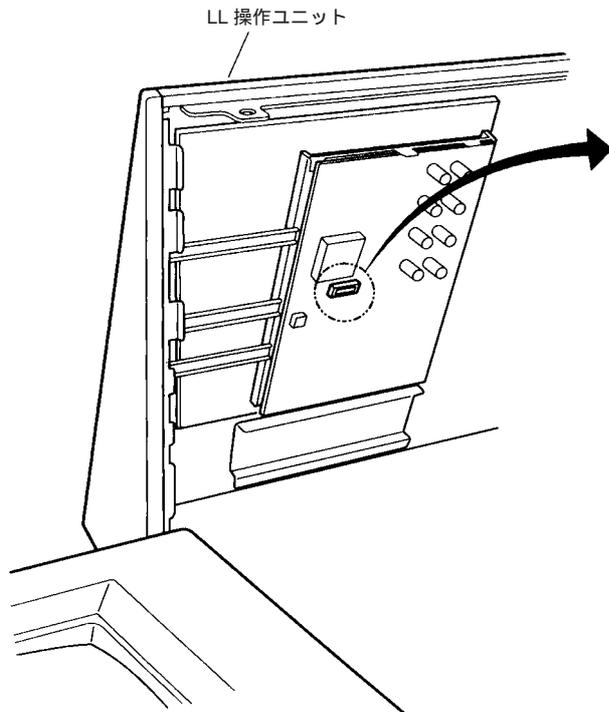
ディップスイッチの設定

LL 操作ユニット / CPU 基板

スイッチ 1

接続する機器によって、スイッチ 1 を下記のように設定してください。

- ・ LL 表示ユニット WU-LL55A を接続するときは、1 番 (パソコン) を「ON」にします。



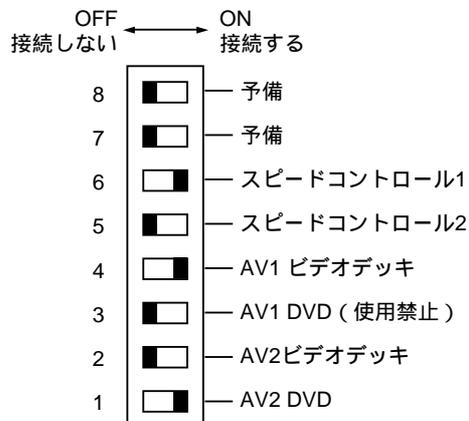
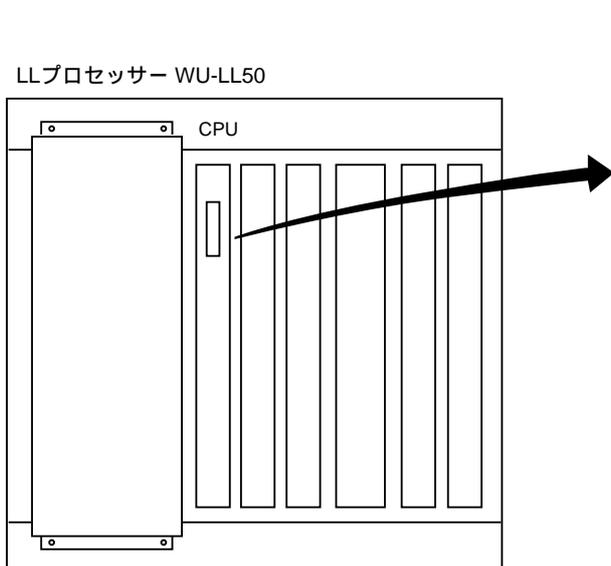
このスイッチ位置は、工場出荷時の設定位置です。

LL プロセッサ / CPU 基板

スイッチ 1

接続する機器によって、スイッチ 1 を下記のように設定してください。

- ・ AV2 に VTR を接続するときは、2 番 (AV2 ビデオデッキ) を「ON」にして、1 番 (AV2 DVD) を「OFF」にしてください。 ショートピンの設定 (68ページ参照) も必要です。



このスイッチ位置は、工場出荷時の設定位置です。

AV1側にDVDを接続することはできません。

3番、4番は上記の設定から変えないでください。

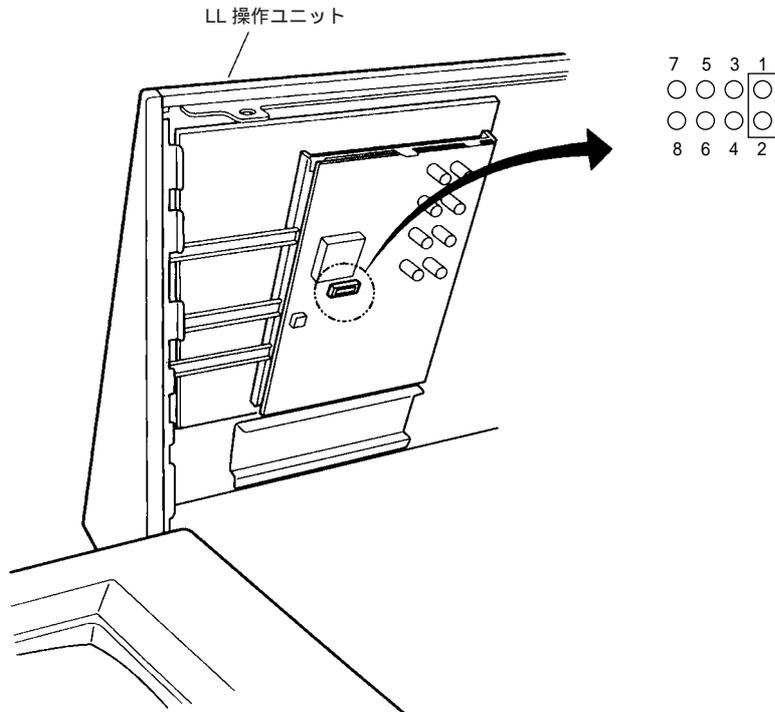
ショートピンの設定

LL 操作ユニット / CPU 基板

CN36 (パソコンとの通信ボーレートの設定)

通信ボーレートによって、ショートピン 4 の設定を下記のようにしてください。

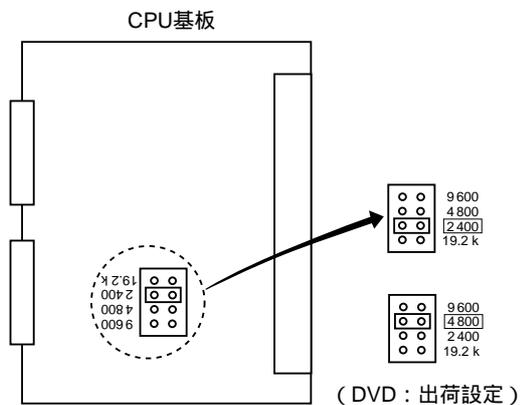
- ・ピン 1 と 2 をショートします。



LL プロセッサ / CPU 基板

CN3

AV2にVTRを接続するときは、「2400」をショートしてください。



エキスパート機能の設定

エキスパート機能一覧表

各機能の動作などの設定ができます。

は出荷時の設定です。

タイトル	機能	出荷設定
学習者手動録音禁止	学習者側の手動での録音を禁止するかしないかを設定します。 (練習録音は禁止しません)	禁止する 禁止しない
イジェクトロック解除	録音中にテープエンドとなったブースタプレコーダーを、自動的にイジェクトロックを解除するかしないかを設定します。	解除する 解除しない
教材録音時のマイクオフ	ブースリモコンでの教材録音時に、自動的にマイクオフにするかしないかを設定します。(サイマル授業中、4倍速録音中は無効)	オフにする オフにしない
個別インカム時のチャイム音	個別インカムをする場合にインカムボタンを押した時にチャイム音を聞かせるか聞かせないかを設定します。	聞かせる 聞かせない
マスキング	個別インカムなどのときに再生または練習録音中のブースタプレコーダーを一旦停止させるかさせないかを設定します。(会話レッスン、グループインカム時は停止したままになります。)	停止させる 停止させない
コミュニケーション復帰	インカム、モデル、グループインカム中にコール応答を行ったとき、元のコミュニケーション状態に復帰するか、クリアするかを設定します。	復帰する クリアする
モデル練習モード	モデル練習を行うとき、同一チャンネル内の10人までのグループで行うか、個別に行うかの設定をします。	グループ 個別
ブース電源オフ指示	ブース電源を先生側から自由に切れるか、切れないかを設定します。	切れる 切れない
マスター卓とブース電源連動	マスターの電源オンでブース電源が一斉に入るか、入らないかを設定します。	入る 入らない
スキャン時間	オートモニター時のスキャン時間を5秒/10秒/15秒のいずれかに設定します。	5秒 10秒 15秒
スキャン方向	オートモニター時のスキャン方向を縦方向/横方向のどちらかに設定します。	縦方向 横方向
ペアの組みかた	ペアレッスンで座席が左右のペア(横ペア)で練習させるか、前後のペア(縦ペア)で練習させるかを設定します。	横ペア 縦ペア
ペア・グループの組みかた	会話練習をするとき、相手の学習者が欠席や遅刻した場合、その学習者を自動的に他の組みに入れる(自動組み換え) 先生が選択する(手動組み換え)のどちらかを設定します。	自動組み換え 手動組み換え
チャンネル保存	他のレッスンに移行して再度戻ったときに、以前のチャンネル設定を保存するかしないかを設定します。	保存する 保存しない
電源オン後のオールコール	電源オン後にオールコールを行うか、行わないかの設定をします。	行う 行わない
遅刻者の授業への参加	遅刻した学習者を自動的にCH1/2に組み入れるか、参加させない(自習)かを設定します。	CH1に組み入れる CH2に組み入れる 参加させない
使用チャンネル	授業で使うチャンネルをチャンネル1のみか、複数チャンネルかを設定します。	CH1のみ 複数CH
アナライザーデータ保存	アナライザー反応データをフロッピーディスクへ保存するかしないかを設定します。	保存する 保存しない
学習者データ保存	評価データをフロッピーディスクへ保存するかしないかを設定します。	保存する 保存しない
アナライザー時のチャイム音	スタート、クローズのチャイム音を聞かせるか聞かせないかを設定します。	聞かせる 聞かせない

エキスパート機能の設定

操作ユニットからの登録

エキスパート機能設定シートをガイドピンにあわせて、生徒座席の位置におきます。

1 エキスパート機能設定に入ります。

登録ボタンを押しながら LL 操作ユニットの電源を入れます。



- ・ 電源、登録表示ランプが点灯し、設定されているボタンの表示ランプが点灯します。

2 設定を変えます。

設定が割り当てられている生徒座席のモニターボタンを押し、設定を変えます。

- ・ 設定したスイッチの表示ランプが点灯します。

3 エキスパート機能登録を終了します。

電源を切ります。



- ・ 全表示ランプが消灯します。

パソコンからの登録

1 パソコンのソフトを立ち上げます。

2 エキスパート機能設定に入ります。

登録ボタンを押しながら LL 操作ユニットの電源を入れます。



- ・ 電源表示ランプが点灯し、設定されているボタンの表示ランプが点灯します。

3 設定を変えます。

パソコンのキーボードから設定を変更します。

- ・ 設定画面が変更します。
- ・ 設定した内容のボタンの表示ランプが点灯します。

4 エキスパート機能登録を終了します。

電源ボタンを切ります。

パソコンソフトを終了します。

- ・ 全表示ランプが消灯します。

レッスンパターンの設定の際は、本説明書末尾の「レッスンパターン設定シート」をコピーしてお使いください。

レッスンパターンにエキスパート機能を変更して登録したとき、最後に登録した内容が、次に電源をオンしたときにも有効になります。

通常電源をオンにして使用するエキスパート機能の設定が、レッスンパターンに登録した内容と異なる場合は、最後にエキスパート機能のみを設定しなおしてください。

システムの自己診断

システムの状況を診断・表示します。

ROM/RAM チェック、MTR/BTR 回線チェック、通信エラー表示、VTR/DVD 接続チェックを授業以外で行います。

1 診断を起動します。

クリアーボタンを押しながら電源ボタンを
 押します。 ・診断状態になります。



2 診断結果を表示します。

- ・右表のように、結果を表示します。
- ・パソコンを使用しているときは、右記に加えて、パソコン接続状態、バージョンチェック、使用時間表示を行います。
- ・NOVRAM が異常だった場合、エキスパート機能、レッスンパターン登録ができなくなります。以下の手順で初期化を行ってください。1の操作後、登録ボタンを押し、レッスンパターン5ボタンを2回押します。そしてLL操作ユニットの電源ボタンを押し、電源をオフします。その後で、LLプロセッサの電源をオフします。

	状態表示
ROM/RAM チェック	ROM 正常 : レッスンパターン 1、2 点灯 RAM 正常 : レッスンパターン 3、4 点灯 ROM 異常 : レッスンパターン 1、2 点滅 RAM 異常 : レッスンパターン 3、4 点滅 NOVRAM 正常 : レッスンパターン 5 点灯 NOVRAM 異常 : レッスンパターン 5 点滅
MTR	MTR1 接続 : マニュアルセット CH1 点灯 MTR2 接続 : マニュアルセット CH2 点灯 MTR1 未接続 : マニュアルセット CH1 点滅 MTR2 未接続 : マニュアルセット CH2 点滅
BTR 回線チェック	BTR 接続 : 対応生徒座席モニター点灯 BTR 未接続 : 対応生徒座席モニター点滅
通信エラー	通信エラー発生 : 操作ユニットで BTR リモコン全 LED 点灯
VTR/DVD 接続チェック	VTR 接続 : リモコン切換 VTR 点灯 DVD 接続 : リモコン切換 DVD 点灯 VTR 未接続 : リモコン切換 VTR 点滅 DVD 未接続 : リモコン切換 DVD 点滅

診断画面 (LL 表示ユニット WU-LL55A 使用時にパソコンに表示されます)

診 断						
パソコン接続状態		接続				
ROM/RAMチェック		ユニット	バージョン	ROM	RAM	NOVRAM (WRITE)
		操作ユニット	ROM Ver 1.0	OK	OK	OK (12)
		LLPC	ROM Ver 1.0	OK	OK	
		パソコン	システムFD Ver 1.0	OK	OK	
使用時間		ユニット	使用時間			
		操作ユニット	999999時間59分59秒			
		LLPC	999999時間59分59秒			
		パソコン	999999時間59分59秒			

システムの自己診断

エラー発生時の対処方法

ユニット名	エラー内容	エラーの対処方法
LL 操作ユニット	ROM エラー	ROM 交換、LL 操作ユニットの CPU 基板交換・修理
LL 操作ユニット	RAM エラー	LL 操作ユニットの CPU 基板交換・修理
LL 操作ユニット	NOVRAM エラー	NOVRAM 交換、LL 操作ユニットの CPU 基板交換・修理
LL プロセッサ	ROM エラー	ROM 交換、LL プロセッサの CPU 基板交換・修理
LL プロセッサ	RAM エラー	LL プロセッサの CPU 基板交換・修理

スイッチ接続チェック

1 スイッチ接続チェックを起動します。

全員ボタンを押しながら電源ボタンを押します。

・スイッチ接続チェック状態になります。



2 スイッチ接続チェックをします。

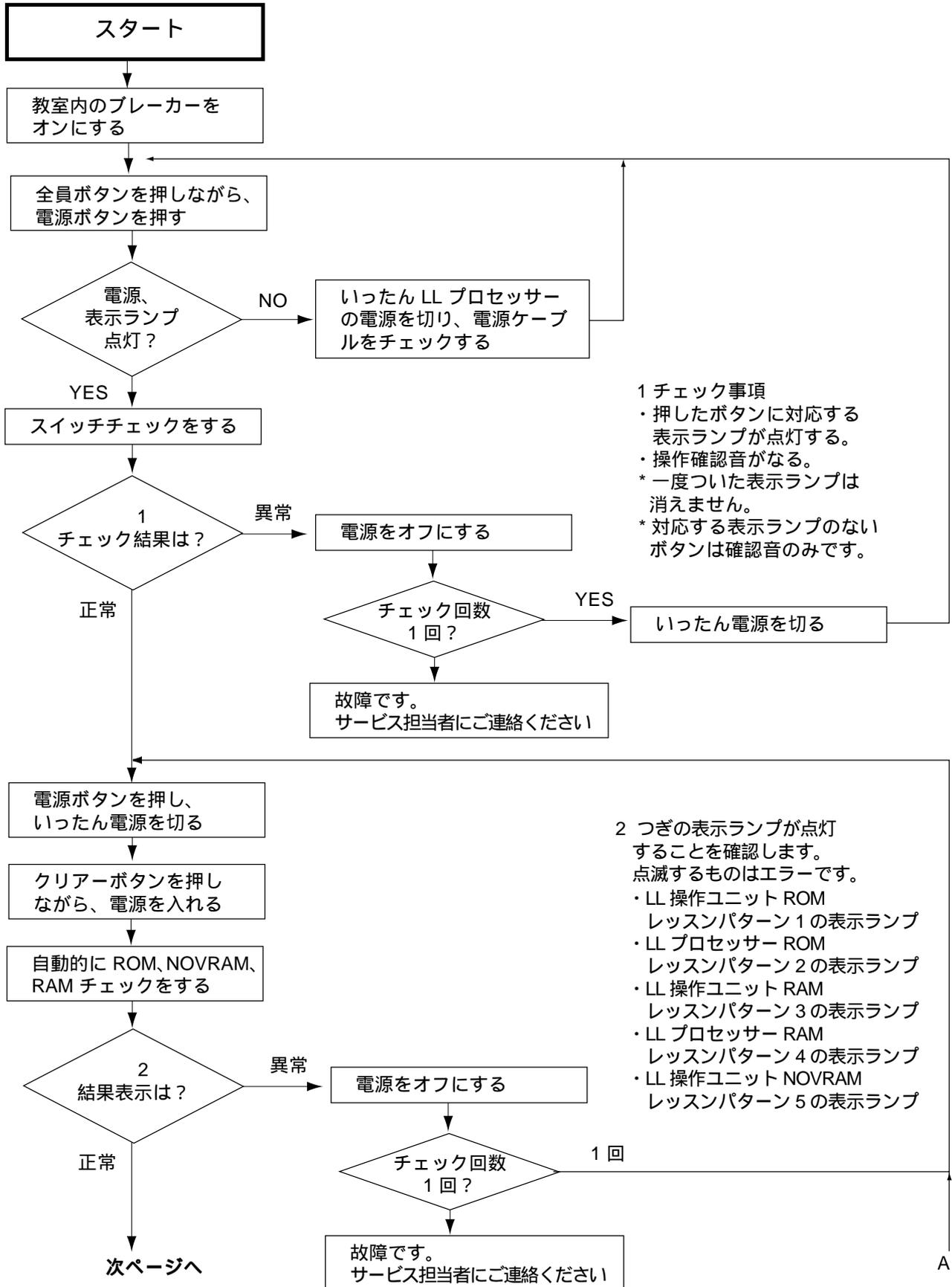
任意のボタンを押します。

・正常に接続されていれば、表示ランプ付きのボタンの場合は、確認音が鳴り、表示ランプが点灯します。表示ランプのないボタンも、対応する表示ランプのある場合は、対応する表示ランプが点灯します。表示ランプなしのボタンの場合は、確認音のみ鳴ります。異常がある場合、表示ランプは点灯せず、確認音も鳴りません。

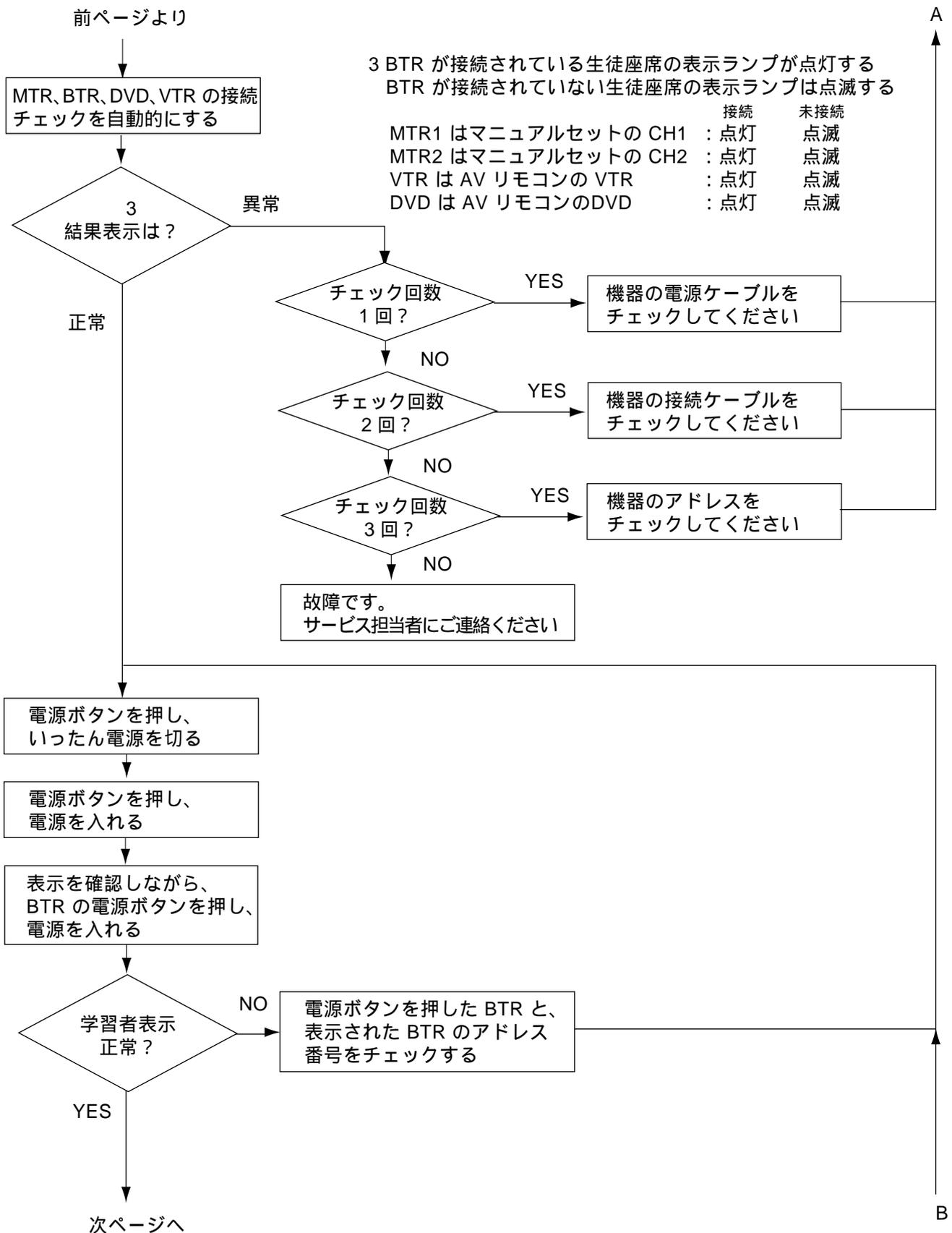
ご注意

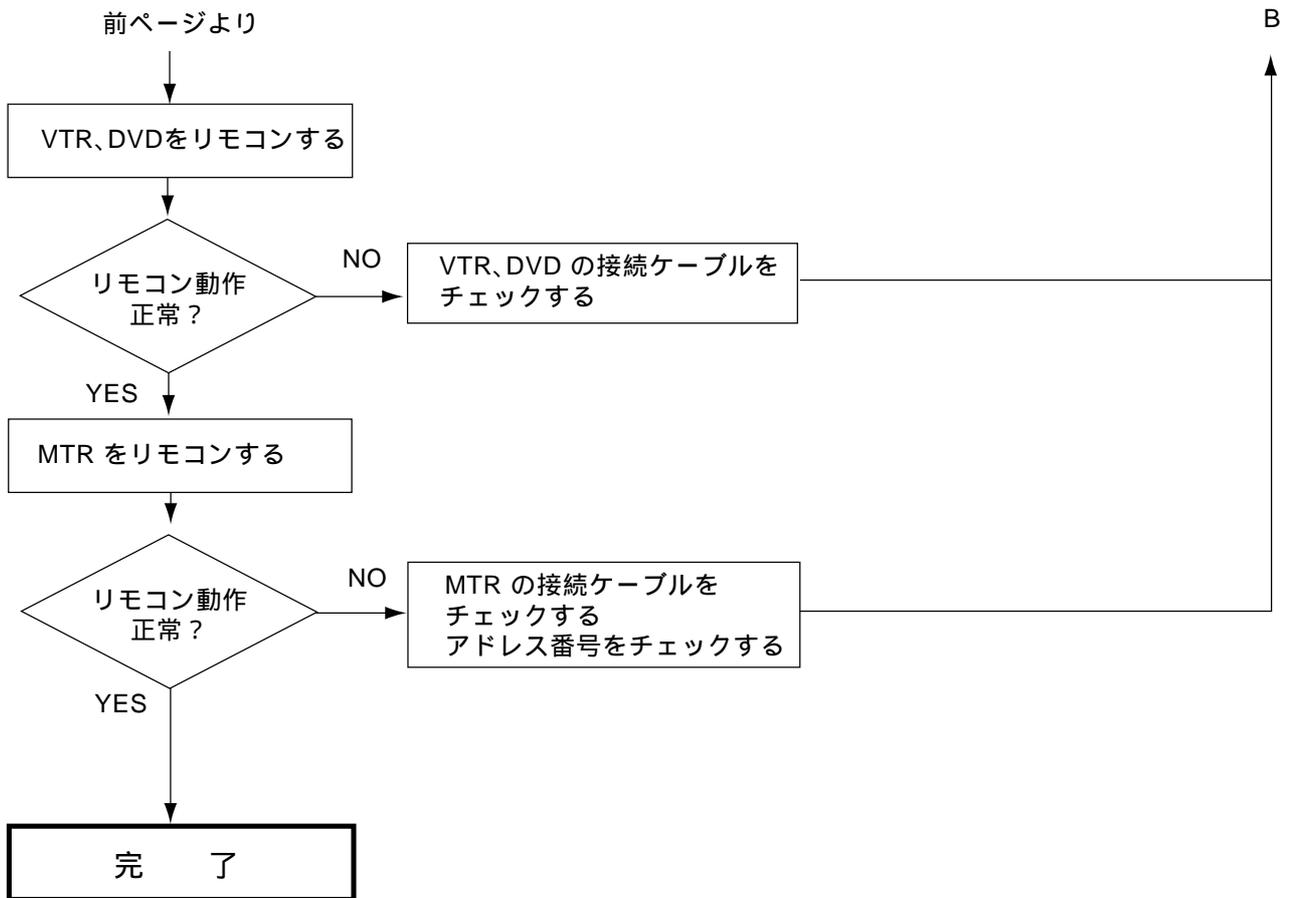
AC電源投入後、診断を起動させるとパソコンとの電源立ち上げのタイミングによって、診断画面に通信エラーを表示する場合があります。

システムチェック

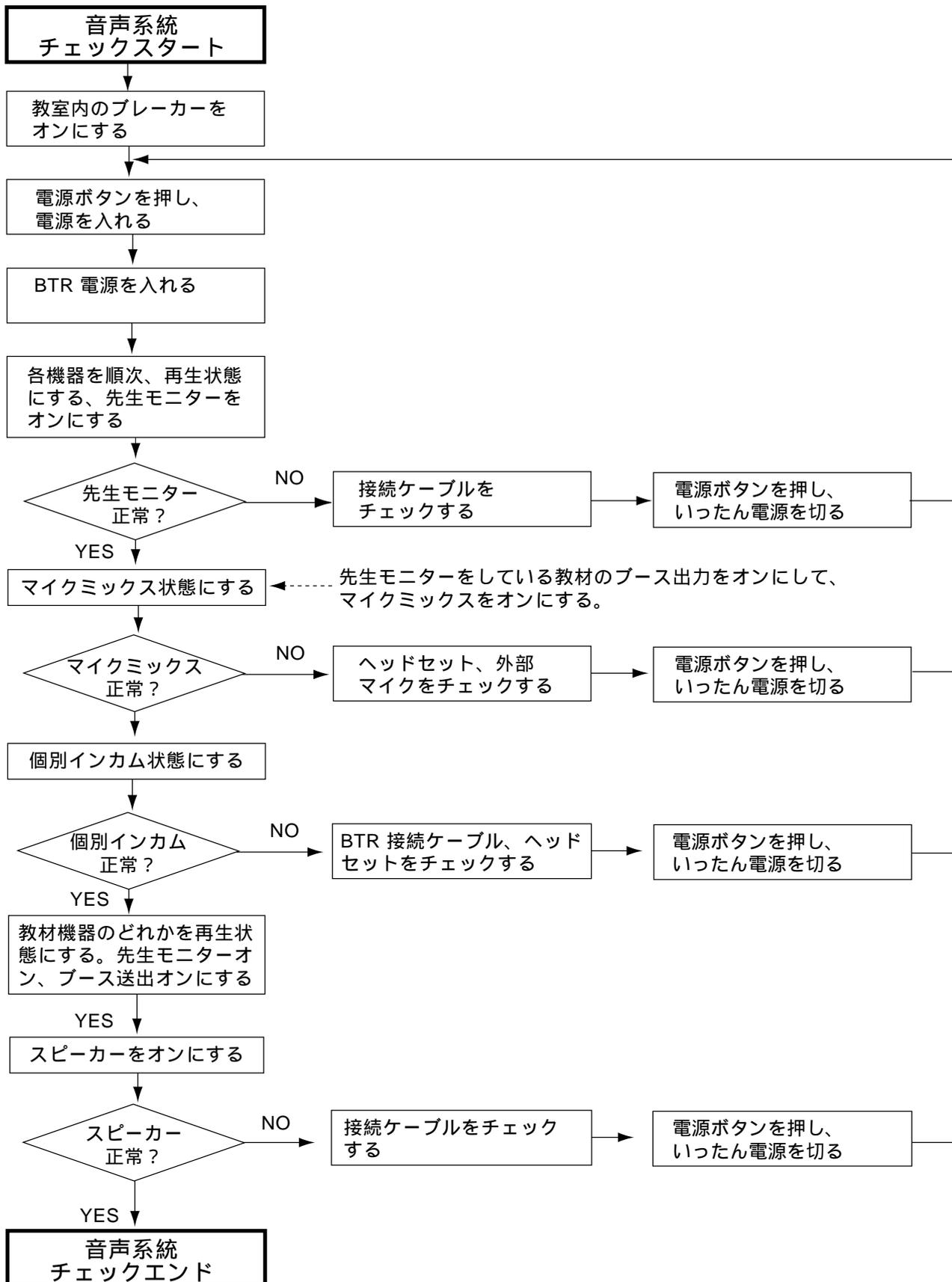


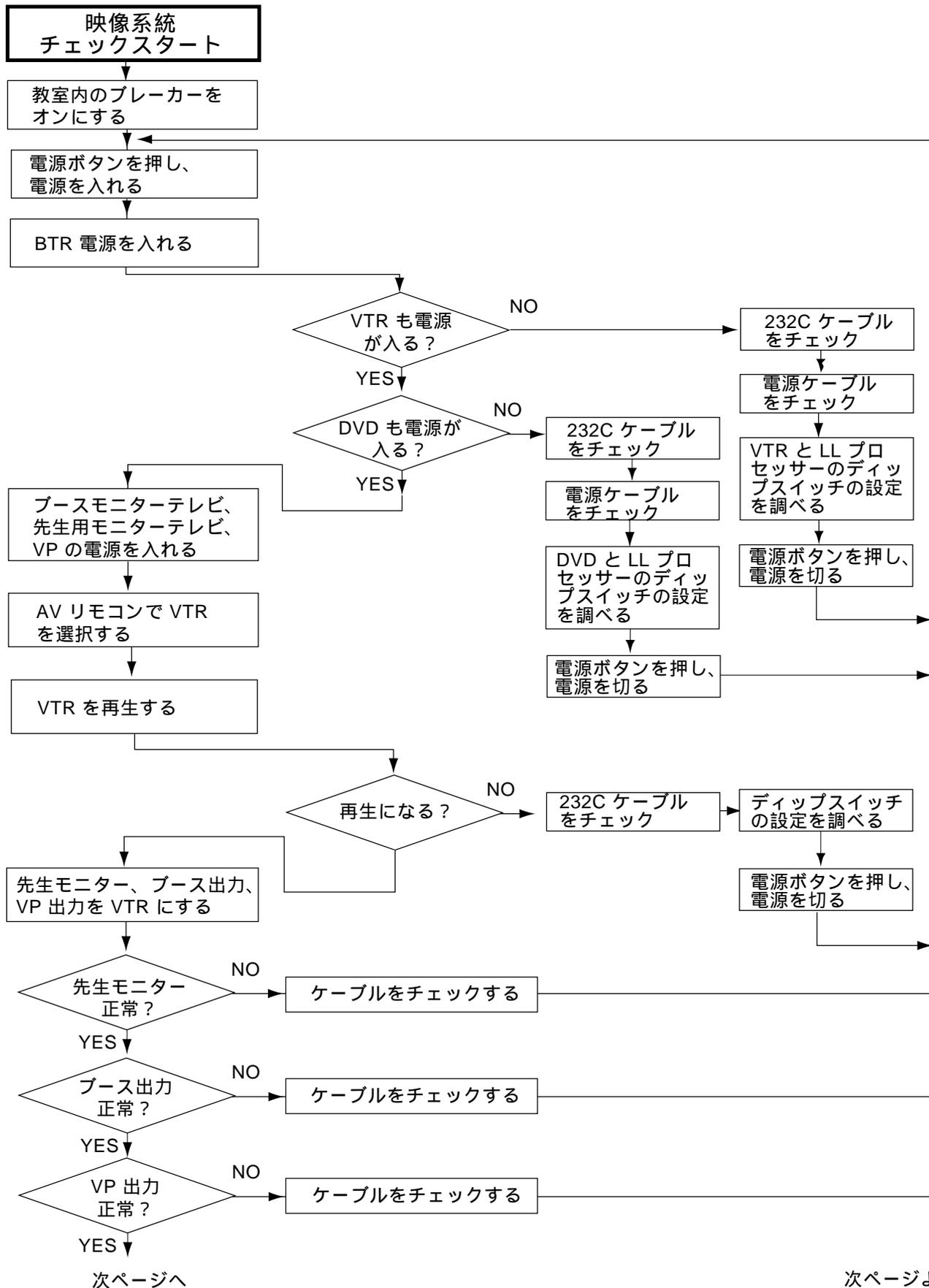
システムチェック



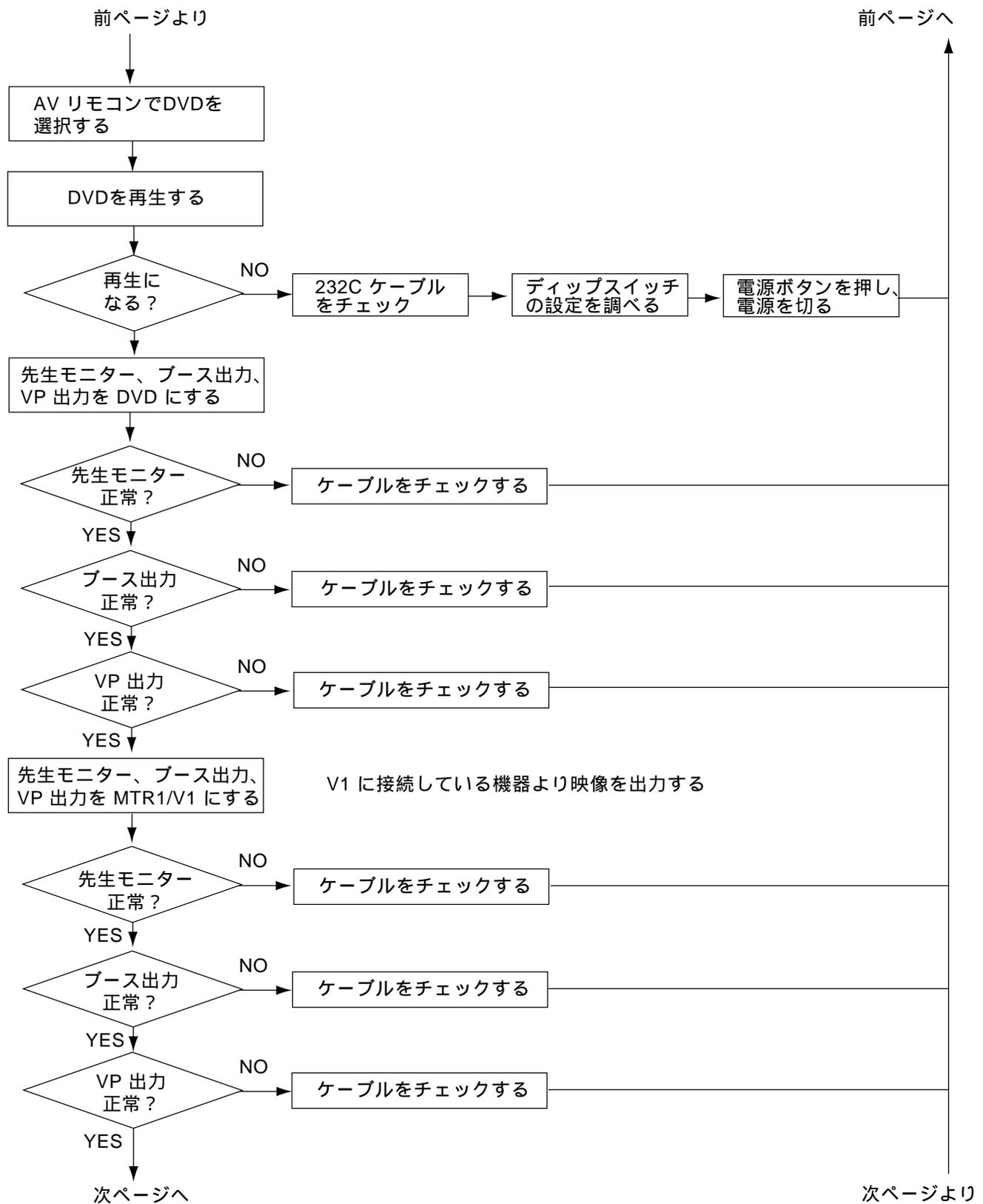


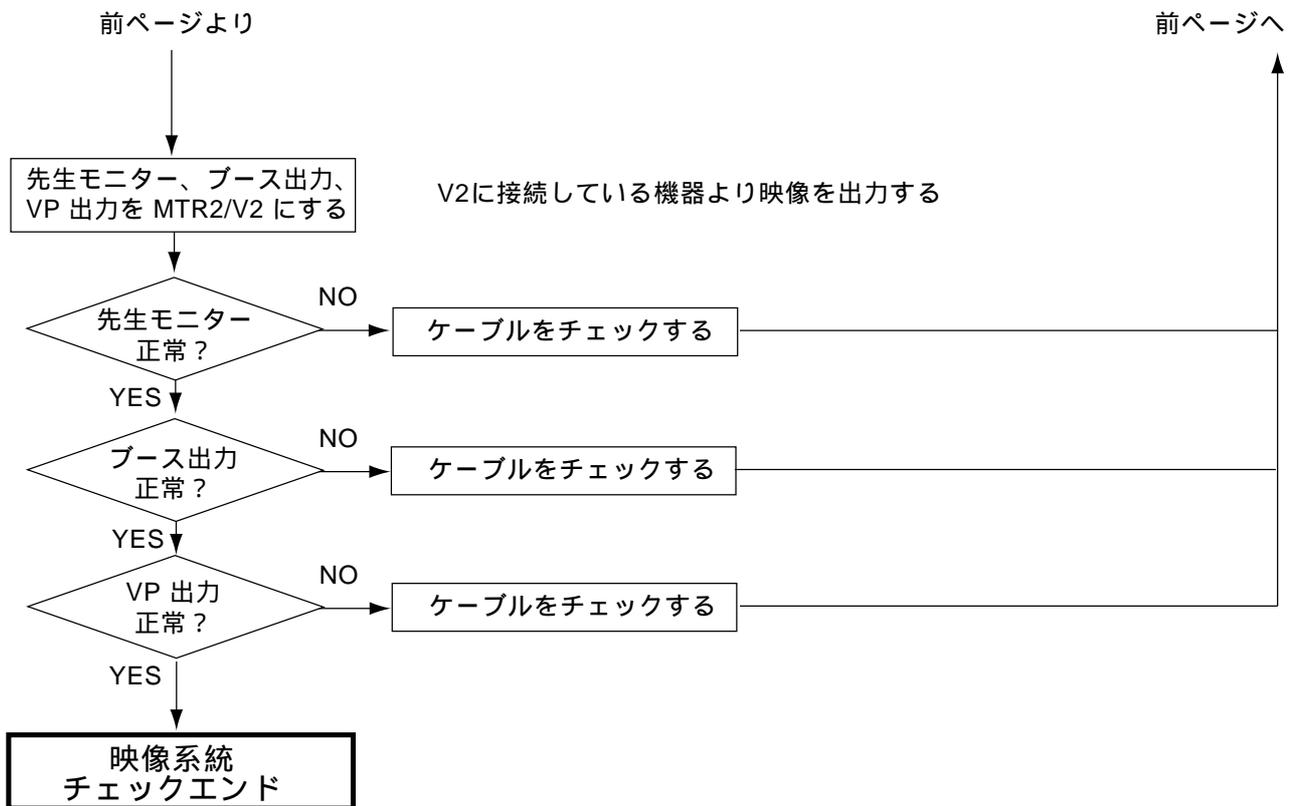
システムチェック





システムチェック





ご注意

AG-7350 は電源リモコンができないため、電源を常時 "ON" にしてお使いください。

レッスンパターン設定シート

レッスンパターンを新しく設定するときは、この用紙を使用して作成してください。
用紙はコピーしてお使いください。

ボタン番号：	タイトル：
登録内容	
先生モニター：	
ブース出力：	
VP出力：	
事前準備	

エキスパート設定事項.....登録ボタンを押しながら電源ボタンをONにしてください。

80

学習者手動録音禁止		ブース電源オフ指示			電源オン後のオールコール		
禁止する	<input type="checkbox"/> 禁止しない	<input type="checkbox"/> 切れる	<input type="checkbox"/> 切れない		<input type="checkbox"/> 行う	<input type="checkbox"/> 行わない	
イジェクトロック解除		マスター卓とブース電源連動					
<input type="checkbox"/> 解除する	<input type="checkbox"/> 解除しない	電源入る	<input type="checkbox"/> 電源入らない				
教材録音時のマイクオフ			遅刻者の授業への参加				
オフにする	<input type="checkbox"/> オフにしない				<input type="checkbox"/> CH1	CH2	<input type="checkbox"/> 参加させない
スキャン時間				使用チャンネル			
		5 秒	<input type="checkbox"/> 10 秒	15 秒	<input type="checkbox"/> CH1 のみ	複数 CH	
個別通話時のチャイム音		スキャン方向					
<input type="checkbox"/> 聞かせる	<input type="checkbox"/> 聞かせない	<input type="checkbox"/> 縦方向	<input type="checkbox"/> 横方向				
マスキング		ペアの組みかた			アナライザー保存		
<input type="checkbox"/> 停止させる	<input type="checkbox"/> 停止させない	縦ペア	<input type="checkbox"/> 横ペア		<input type="checkbox"/> 保存する	<input type="checkbox"/> 保存しない	
コミュニケーション復帰		ペア・グループの組みかた			学習者評価データ保存		
<input type="checkbox"/> 復帰する	<input type="checkbox"/> 復帰しない	<input type="checkbox"/> 自動組み換え	<input type="checkbox"/> 手動組み換え		<input type="checkbox"/> 保存する	<input type="checkbox"/> 保存しない	
モデル練習モード		チャンネル保存			アナライザー時のチャイム音		
<input type="checkbox"/> グループ	個別	<input type="checkbox"/> 保存する	<input type="checkbox"/> 保存しない		<input type="checkbox"/> 聞かせる	<input type="checkbox"/> 聞かせない	

内の設定は電源 ON 中は変更はしません。

内の設定は出荷時の設定です。

エキスパート設定終了.....電源ボタンを押して電源を OFF にしてください。

登録開始.....電源ボタンを押して電源を入れてください。

登録ボタンを押してください。

	登録手順			時間	
	機能名	登録ボタン名	表示	分	秒
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 AVマルチメディアビジネスユニット

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎(045)932-1231(大代表)

N0793-7080 A8RA0361JN

© Matsushita Communication Industrial Co.,Ltd. (松下通信工業株式会社)1993